講座の紹介

中1 国語（共通版）を受講するみなさんへ

講座の特徴

- 〈要点がコンパクトにまとまった動画〉＋〈確認テスト〉なので、スキマ時間で国語の知識や読解力を身につけるのにオススメです。

講師からのメッセージ

- 国語は生活の基本で、「友達とのコミュニケーション」にも大切な表現を学ぶための科目だと思ったら、身近でとても楽しいものになるのではないかと考えています。
解いたフリではなく、自分でしっかり理解するために問題を解く。飲み込んで自分のものにして、国語を伸ばしていきましょう。

今中陽子

それでは、一緒にスタディサプリで学習していきましょう！

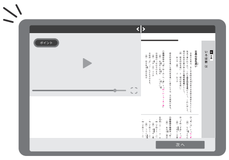
テキストの使い方

はじめに

スタディサプリは、スマホやタブレット、PCを使って動画を見たり問題を解いたりすることができますが、テキストを使うと、より学びやすく、理解しやすくなります。テキストはさまざまな使い方ができるので、ぜひ自分に合った使い方をみつけて活用してください。

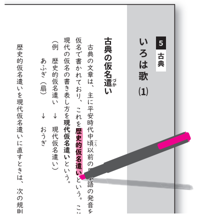
基本の使い方

ステップ1　動画をみる



※本文のある講義は動画を見る前に本文を読んでおきましょう。

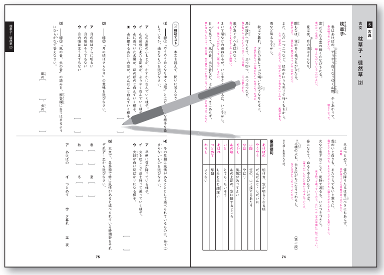
テキストはこう使う！



講師が話したことや大事だと思ったことをメモすると自分オリジナルのまとめノートになります。

ステップ2　確認テストを解く

オススメの使い方



テキストはアプリやウェブで問題を解いた後の復習や、テストに近い問題形式に取り組みたい時に活用できます。

各パートの説明

4 現代文 読解法
文学的文章　**主題の捉え方**

主題の読み取り

作者が文章を通じて表現しようとしている中心的な内容を主題という。
物語の主題を捉えるには、次の点に注目するとよい。
・人物を通して描かれる価値観や考え、人物の心情の変化や成長。
・出来事の展開、各場面における人物の行動。
・作品の状況設定、時代背景。

例題

本文で中心的に描かれている内容として正しいものを選びなさい。

ア　先生に叱られるかもしれないのに、生真面目に机の拭き掃除までしようとする権太に対していらだつ耕作の心情。
イ　先生に叱られると級長から指摘されても、罰当番の権太を手伝い、正しいことを堂々とやろうとする耕作の心情。
ウ　先生に叱られるのをおそれて掃除をいい加減に済ませようとしたが、権太の言葉に自分を恥ずかしく感じた耕作の心情。

［　　］

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中で心情の変化が描かれている人物を選びなさい。
ア　耕作　　イ　権太　　ウ　先生　　エ　若浜

［　　］

関連する知識や、重要なポイントがまとまっています。

例題

「現代文 読解法」の単元には例題が付いています。例題は動画を見ながら解き方を確認しましょう。例題を事前に解いてから動画を見ると、学習効果が高まります。

確認テスト

動画で学習した内容や、作品について問題が出題されます。解答は別冊で確認できます。
※解説を確認したい場合はアプリでご確認ください。

目次

1 言葉
音声と文字 P006
方言と共通語 P010
指示する語句と接続する語句 P012
表現技法 P018

2 文法
言葉の単位 P022
文節 P030
単語 P038

3 漢字
活字の書体と画数・筆順 P046
漢字の組み立てと部首 P048
漢字の成り立ち P052
漢字の音訓 P054

4 現代文読解法
説明的文章 P056
文学的文章 P064
随筆 P072

国語１　目次

5 古典

いろは歌 P076

古文　竹取物語 P080

漢文　故事成語―矛盾・蛇足 P092

6 詩

詩の種類と表現 P098

詩　月夜の浜辺 P100

鑑賞文　詩への道しるべ P102

7 現代文実践（説明的文章）

雑草はなぜそこに生えているのか P104

コケはなぜに美しい P112

〈自分らしさ〉って何だろう？　自分と向き合う心理学 P116

大人になるっておもしろい？ P120

8 現代文実践（文学的文章）

夜のくだもの屋 P124

おとうと P130

少年の日の思い出 P136

卒業メニュー P146

9 現代文実践（随筆）

雪の日 P154

テキスト P156

※本文は原則として原典のまま表記しています。

音声と文字(1)

日本語の音節

日本語の音は、母音(ぼいん)と子音(しいん)の組み合わせでできている。

・**母音**…a・i・u・e・o
・**子音**…k・g・s・z・t・dなど

母音や子音が組み合わさった音のまとまりを**音節**という。

・母音のみの音節　(例)a(あ)
・子音＋母音の音節　(例)ka(か)

日本語の音節は拍(はく)とよばれる一定の長さをもっている。

(例)赤　→　あ・か　(2拍)
今日　→　きょ・う　(2拍)
学校　→　が・っ・こ・う　(4拍)
プール　→　ぷ・ー・る　(3拍)

日本語の音節は子音が連続することは少ないが、英語では一つの音節の中で複数の子音がつづくことがよくある。

また、日本語の音節は母音で終わることがほとんどだが、英語の音節は子音で終わることも多い。

音の種類

日本語の音は、清音・濁音(だくおん)などに分けられる。

・**清音**……「カ・キ・ク・ケ・コ」のような音。
・**濁音**……「ガ・ギ・グ・ゲ・ゴ」のような音。
・**半濁音**…「パ・ピ・プ・ペ・ポ」のパ行の音。
・**拗音**(ようおん)……「キャ・キュ・キョ」のような音。
・**撥音**(はつおん)……はねる音。「ン」で表す。
・**促音**(そくおん)……つまる音。小さい「ッ」で表す。
・**長音**……のばす音。カタカナでは「ー」で表す。

このほか、外来語で使われる「ファ」などの音もある。

五十音図

同じ段に母音の同じものを、同じ行に子音の同じものや似たものを並べた表を五十音図という。

	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
ア行	あ	い	う	え	お
カ行	か	き	く	け	こ
サ行	さ	し	す	せ	そ
タ行	た	ち	つ	て	と
ナ行	な	に	ぬ	ね	の
ハ行	は	ひ	ふ	へ	ほ
マ行	ま	み	む	め	も
ヤ行	や		ゆ		よ
ラ行	ら	り	る	れ	ろ
ワ行	わ				を

確認テスト

(1) 次の音が、母音であれば**ア**、子音であれば**イ**で、それぞれ答えなさい。

① a [　　]　② d [　　]
③ i [　　]　④ k [　　]

(2) 次の言葉に含(ふく)まれる子音の数を算用数字で答えなさい。

あさがお

[　　]

(3) 次の音節は**ア**と**イ**のどちらか。それぞれ選びなさい。

① い [　　]　② ろ [　　]
③ ぱ [　　]　④ ど [　　]

ア 母音のみの音節
イ 子音と母音からなる音節

(4) 次の言葉は日本語では何拍か。算用数字でそれぞれ答えなさい。

① ロンドン [　　]　② ローマ [　　]
③ 京都 [　　]　④ 札幌(さっぽろ) [　　]

(5) 次の音の種類をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① ぱ [　　]　② べ [　　]
③ ん [　　]　④ しゃ [　　]

ア 濁音　**イ** 半濁音　**ウ** 撥音　**エ** 拗音

音声と文字 (2)

音の高さ・強さ

発音するときに音の高さや強さが変わると、言葉の意味が変わったり、言葉が強調されたりする。

・**アクセント**…一つの言葉の中での音の高低。
同じ音の言葉でも、アクセントが違（ちが）うと意味が異なることがある。また、同じ言葉でも、方言によってアクセントが異なることもある。
（例・東京でのアクセント）
雨　あめ
飴　あめ

・**イントネーション**…文などの言葉のまとまり全体での音の上がり下がりの調子（抑揚（よくよう））。
文末を上げて発音することで問いかけを表すことができる。
（文末を下げて）「今、忙（いそが）しい。」
（文末を上げて）「今、忙しい？」

・**プロミネンス**…文中のある言葉を強調して発音する。
（「九時」を強調するとき）「ここに**九時に**来てください。」
（「ここ」を強調するとき）「**ここに**九時に来てください。」

日本語の文字

日本語はおもに、仮名（かな）と漢字を組み合わせた**漢字仮名交じり文**で書き表される。

・**漢字**
漢字は中国で生まれた文字で、一文字が意味と音を表す。日本に漢字が伝えられると、漢字の読みを借りて日本語を表すようになった。これを**万葉仮名**（まんようがな）という。
（例）可良己呂武　須宗尓等里都伎　奈苦古良乎
からころむ　すそにとりつき　なくこらを

・**カタカナ**（片仮名）
漢字の一部分を使って、音を表すようになったもの。
（例）阿→ア

・**ひらがな**（平仮名）
漢字の行書や草書をもとに、音を表すようになったもの。
（例）安→あ

文字の種類

文字は、表音文字や表意文字などに分けられる。

・**表音文字**…音のみを表す文字。意味は表さない。
（例）a・ア・あ

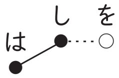
・**表意文字**…意味を表す文字。
（例）花

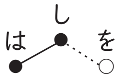
漢字は、一文字が一つの語を表すので、**表語文字**ともいう。

確認テスト

(1) 次の――線部について、共通語でのアクセントは**ア**と**イ**のどちらか。それぞれ選びなさい。

① 橋を渡る。　② 端を通る。

ア 

イ 

①〔　〕　②〔　〕

(2) 次は万葉仮名の例である。それぞれの読みをひらがなで答えなさい。

① 波流〔　〕　② 也麻〔　〕

③ 波奈〔　〕　④ 止利〔　〕

(3) 次の漢字がもととなってできたカタカナをそれぞれ答えなさい。

① 伊〔　〕　② 宇〔　〕

③ 止〔　〕　④ 比〔　〕

(4) 次の漢字がもととなってできたひらがなをそれぞれ答えなさい。

① 以〔　〕　② 寸〔　〕

③ 礼〔　〕　④ 末〔　〕

(5) 次の中から、表意文字（表語文字）を用いた表記を選びなさい。

ア 文字　**イ** moji　**ウ** モジ　**エ** もじ

〔　〕

方言と共通語

方言と共通語

表現や発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉を**方言**という。これに対して、全国どこでも通用するような言葉を**共通語**という。

言葉は、地域だけではなく、所属する集団や世代などによっても違(ちが)いがみられることがあり、これを社会方言という。

表現の違い

方言は、共通語にはない語句がみられたり、同じ語句でも共通語と意味が異なったりする。

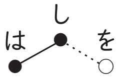
（例）自分が出したものはなおしてよ。（西日本の方言）
　　　自分が出したものは片づけてよ。（共通語）

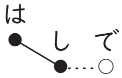
方言	共通語
かたす・なおす・のける	片づける
ほかす・ほうる・うっちゃる	捨てる
……や・……じゃ	……だ

発音の違い

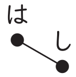
方言と共通語では、同じ語句でもアクセントなどの発音の仕方が異なることがある。

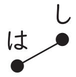
・共通語　橋を渡(わた)る。　箸(はし)で食べる。





・近畿(きんき)地方の方言　橋　箸





確認テスト

(1) 次の中から共通語を選びなさい。

ア 今日は休みだ。　**イ** 今日は休みや。
ウ 今日は休みじゃ。

〔　　〕

(2) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

かたす（東日本の方言）・なおす（西日本の方言）

〔　　〕

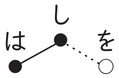
(3) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

なげる（北海道・東北地方など）・ぶちゃる（北陸地方など）
うっちゃる（関東地方・東海地方など）・ほかす（近畿地方など）
うしつる（九州地方など）・してぃゆん（奄美群島・沖縄県など）

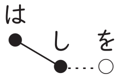
〔　　〕

(4) 次の――線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

橋を渡る。

ア


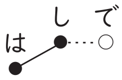
イ

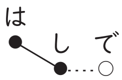
ウ


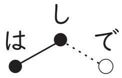
〔　　〕

(5) 次の――線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

箸で食べる。

ア


イ


ウ


〔　　〕

(6) 次の各文は共通語、方言のどちらの説明か。共通語は**ア**、方言は**イ**で、それぞれ答えなさい。

① その地方の生活や文化を反映した言葉である。
② 不特定多数の人々を対象とした文章や、日常生活を離(はな)れた抽象(ちゅうしょう)的な内容を表す文章で用いられる。

①〔　　〕　②〔　　〕

指示する語句と接続する語句 (1)

指示する語句

「これ・それ・あれ・どれ」などのように、物事を指し示す言葉を、**指示する語句（こそあど言葉）**という。

	近称	中称	遠称	不定称
事物	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
状態	こんな こう	そんな そう	あんな ああ	どんな どう
指定	この	その	あの	どの

このほか、「前者・後者、以上・以下、上記・下記」なども、指示する語句の働きをすることがある。

（例）今日は生徒会と文化祭の準備があります。
前者は十二時から、後者は十五時からです。

・**現場指示**…現実にあるものを指し示す。
「これ」は話し手の側に近いもの、「それ」は聞き手の側に近いもの、「あれ」は話し手と聞き手の双方から遠いものを指す。

（例）机の上に本があるよね。それ取ってくれないかな。

・**文脈指示**…文章や会話の、ある内容を指し示す。
指し示す内容は、文の一部であったり、文全体であったりする。

（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれには及ばない。
↓ それ＝米の生産量
夏季大会で優勝する。それが私の目標です。
↓ それ＝夏季大会で優勝すること

指示する語句は、前にある内容を指し示すことが多いが、後に続く内容を指し示すこともある。指し示す内容を確かめるには、指示している箇所を当てはめてみるとよい。

（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれ（＝米の生産量）には及ばない。

確認テスト

(1) 次の文の（　）に当てはまる語句として適当なものを選びなさい。

（　）は先生からいただいた本です。

ア　これ　イ　ここ　ウ　こんな　エ　この　〔　　〕

(2) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

三時に公園に行くと、そこでは祭りの準備が行われていた。

ア　三時　イ　公園　ウ　行く　エ　祭り　〔　　〕

(3) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

彼(かれ)は国語と英語が得意で、特に後者の成績は群を抜(ぬ)いている。

ア　彼　イ　国語　ウ　英語　エ　成績　〔　　〕

(4) 次の文の――線部の働きを選びなさい。

フランスの哲学者(てつがくしゃ)であるパスカルはこう言った。「人間は考える葦(あし)である。」

ア　パスカルという前の語句を指している。
イ　パスカルが哲学者であるという前の内容を指している。
ウ　葦という後の語句を指している。
エ　「人間は考える葦である。」という後の内容を指している。　〔　　〕

(5) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

日本は森林の面積の割合が高く、これは日本に山地が多いことと関連している。

ア　日本
イ　森林の面積
ウ　日本は森林の面積の割合が高いこと
エ　日本に山地が多いこと　〔　　〕

指示する語句と接続する語句 (2)

接続する語句

「だから・しかし」などのように、前後の語句や文などがどのような関係でつながっているかを表す言葉を、**接続する語句**という。

●**順接**…前に述べた内容が、後に述べる内容の原因や理由になる。

（例）だから　すると　そのため　したがって

昨日、雨が降った。だから、地面がぬれている。

●**逆接**…前に述べた内容から予想されることとは違う内容が後にくる。

（例）しかし　だが　ところが　けれども

昨日、雨が降った。しかし、地面は乾いている。

説明的な文章では、逆接の語句をきっかけに論が展開していくことが多い。

●**並列・累加**…前に述べた内容に、後に述べる内容を並べたり（並列）、内容を付け加えたり（累加）する。

（例）そして　また　および　それから　しかも　そのうえ

この町は、畑作、そして、果樹栽培が盛んだ。

この果物は、値段が安く、しかも、おいしい。

●**対比・選択**…前後の内容を比べたり（対比）、前後の内容のどちらかを選んだり（選択）する。

（例）一方　……に対して

または　それとも　あるいは　もしくは

北海道は寒い。一方、沖縄は暑い。

電話、または、メールでご連絡ください。

確認テスト

(1) 次の各文の――線部の接続する語句の種類を、それぞれア～エから選びなさい。

① 学生証、または、保険証を持参してください。〔　〕
② 雨が降っている。だが、それほど寒くはない。〔　〕
③ この製品は品質が良く、しかも、値段が安い。〔　〕
④ 今日はお祭りの日で、だから、道が混んでいる。〔　〕

ア 順接　イ 逆接
ウ 並列・累加　エ 対比・選択

(2) 次の各文の（　）に当てはまる言葉として適当なものを、それぞれア～エから選びなさい。

① 窓を開けた。（　）、涼しい風が入ってきた。〔　〕
② 犬が好きですか。（　）、ネコが好きですか。〔　〕
③ 彼はやさしくて、（　）、とても礼儀正しい。〔　〕
④ 暦の上では秋だ。（　）、まだまだ暑さは厳しい。〔　〕

ア すると　イ けれども
ウ そのうえ　エ それとも

(3) 次の文の内容に合うものを選びなさい。

言葉は、その言葉が用いられる地域の文化に影響を受ける。したがって、同じ語句でも、その語句の表す意味は、地域によって微妙に異なる。

ア 同じ語句の意味が地域によって異なるのは、言葉が文化の影響を受けるからである。
イ 言葉が文化に影響を受けるのは、同じ語句でも意味が地域によって異なるからである。
ウ 言葉は文化の影響を受けるが、しかし、言葉の意味が地域によって変わることはない。

〔　〕

指示する語句と接続する語句 (3)

接続する語句

●**説明・補足**…前に述べた内容をまとめたり、言い換えたり（説明）、内容を補ったり（補足）する。

（例） つまり すなわち 要するに なぜなら 例えば
ただし ちなみに もっとも
彼は父の弟の息子、つまり、私のいとこだ。

●**転換**…前に述べた内容から話題を変える。

（例） さて ところで では
以上、天気予報でした。では、次のニュースです。

特に説明的な文章では、前後の内容の関係をはっきりと表すために、接続する語句が多く用いられる。それぞれの語句がどのような関係を表すのかに注意すると、文章の内容が捉えやすくなる。

・だから したがって
前に、原因や理由が示されている。

・しかし ところが
前に述べた内容から予想されることとは違う内容が後にくる。
後ろで、論が展開していくことが多い。

・つまり
後ろに、まとめの内容や結論が示されることが多い。

・なぜなら
後ろに、前の内容の原因や理由が示される。

・例えば
後ろに、前の内容の具体例が示される。

・では
後ろに、話題が示されることが多い。

確認テスト

(1) 次の文章の要点を示すものを——線部**ア**〜**ウ**から選びなさい。

古くから、ア日本の家屋は、夏の蒸し暑さを避けるために風通しのよい作りになっている。一方で、イ寒さの厳しい国の家屋には、熱を逃がさないような工夫がみられる。つまり、ウその地域の気候の特徴が、家屋の作り方に影響するのである。

〔　　〕

(2) 次の——線部の内容に対する理由を表すものを選びなさい。

たしかに文字をたくさん読むことは、現代の忙しい学生にとっては難しいことでしょう。しかし、私は、学生のみなさんにこそ本を読んでほしいと思っています。なぜなら、若い頃に出会う文章は、いずれその人にとって貴重な財産になるからです。

ア 本を読むことは、忙しい学生には難しいから。
イ 「私」は学生にこそ本を読んでほしいと思っているから。
ウ 若い頃に出会う文章は、その人にとって貴重なものになるから。

〔　　〕

(3) 次の——線部は、何に対する具体例か。適当なものを選びなさい。

日本の生活は、貿易に支えられている。例えば、スーパーで売られている食品には、外国産のものが多くみられる。また、身の回りの日用品にも、外国で作られたものがたくさんある。

ア 日本の生活は貿易に支えられていること。
イ スーパーで売られている食品は外国産が多いこと。
ウ 身の回りの日用品に、外国の製品が多いこと。

〔　　〕

(4) 次の文章の（　）に当てはまる言葉として、適当なものを選びなさい。

大気中の二酸化炭素濃度の増加に対して、国際社会では二酸化炭素の排出を抑える取り組みが進められています。また、企業でも、環境にやさしい製品づくりが行われるようになってきました。（　）、私たち一人一人にできることは何でしょうか。

ア すなわち　**イ** ただし
ウ では　**エ** なぜなら

〔　　〕

表現技法（1）

表現技法

言葉の使い方、並べ方を工夫することで、印象的な表現にしたり、言葉にリズムをもたせたりすることができる。このような表現技法には、比喩・体言止め・倒置・対句などがある。

比喩

ある物事を、似たところのある別の物事を使って表現することを、**比喩（たとえ）**という。比喩は二つのものの間の類似点に着目した表現である。

①**直喩（明喩）**…「まるで〜」「〜ようだ」「〜みたいだ」などの言葉を使ってたとえる。

・山のような宿題。　・滝みたいな雨。

②**隠喩（暗喩）**…「まるで〜」「〜ようだ」「〜みたいだ」などの言葉を使わずにたとえる。

・人生は旅だ。

③**擬人法**…人でないものを人に見立てて表す。

・看板が右に行けと言っている。

・なんだか車の機嫌が悪い。

類似点

比喩は、あるものを、類似点のある別の事柄で表現する技法である。比喩を読み取るときは、何が何にたとえられていて、どのように似ているのかを考えるとよい。

（例）リンゴのようなほっぺた

→ほっぺたが赤いことを、リンゴを用いて表現している。（類似点は「赤い」）

確認テスト

(1) 次の文の（　）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

「まるで……」「……ようだ」「……みたいだ」といった、比喩であることを表す言葉を使ってたとえる表現技法を（ ① ）、使わずにたとえる表現技法を（ ② ）という。

ア 直喩　イ 隠喩　ウ 擬人法

①［　　］ ②［　　］

(2) 次の文のように、人ではないものを人に見立てて表現する技法を何というか。後から選びなさい。

風がささやいている。

ア 直喩　イ 隠喩　ウ 擬人法

［　　］

(3) 次の文で用いられている表現技法を選びなさい。

まるで雪のように白いうさぎ。

ア 直喩　イ 隠喩　ウ 擬人法

［　　］

(4) 次の文で用いられている表現技法を選びなさい。

笑顔（えがお）は人と人との間の橋だ。

ア 直喩　イ 隠喩　ウ 擬人法

［　　］

さまざまな表現

●体言止め…文末や句末を体言（名詞）で止める。
（効果）引き締まった印象を与えたり、余韻を残したりする。
・なんと美しい景色。（体言：景色）
・柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺（体言：法隆寺）（正岡子規）

●倒置…普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
（効果）主に後に置かれた言葉が強調される。
・どこまでも行こう。　（普通の語順）
・行こう、どこまでも。　（倒置）

●対句…言葉を、形や意味が対応するように並べる。
（効果）言葉にリズムが生まれる。
・兎追いし　かの山　小鮒釣りし　かの川（高野辰之「故郷」）
（対句：兎追いし／小鮒釣りし）

●反復…同じ言葉を繰り返す。
（効果）言葉にリズムが生まれ、内容が強調される。
・桜が散る。どんどん散る。吹雪のように散る。

●省略…文章を途中で止め、後の言葉を省く。
（効果）読み手に省略した部分を自由に想像させる余地を残す。
・「またいつか。」彼女はそう言い残し去っていった。

確認テスト

(1) 次の中から体言止めでは**ない**ものを選びなさい。

ア ぽっかりと浮かんだ白い雲。
イ おーいと呼ばれて振り向く私。
ウ 流れていくよ、桜の花びらが。
エ 窓から見える真っ青な空。

〔　　〕

(2) 次の中から倒置についての説明を選びなさい。

ア 語順を入れ替える表現技法。
イ 文末を体言で止める表現技法。
ウ 言葉を省く表現技法。
エ 同じ言葉を繰り返す表現技法。

〔　　〕

(3) 次の中から、対句の表現技法が使われているものとして適当なものを選びなさい。

ア かすかに聞こえる波の音。
イ 青い空が広がり、白い雲が流れる。
ウ 歩いても、歩いてもたどり着かない。
エ 川が流れる、ゆっくりと。

〔　　〕

(4) 次の各文の表現技法として最も適当なものを、それぞれ選びなさい。

① 同じ言葉を繰り返して、内容を強調し、リズムを生む。
② 言葉を途中で止めて後を省き、読み手に想像させる。
③ 普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
④ 言葉を形や意味が対応するように対に並べる。

ア 倒置　**イ** 対句　**ウ** 反復　**エ** 省略

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕

言葉の単位

言葉は、いくつかのまとまりに区切ることができる。言葉の単位には、言葉をどこまでまとめるかによって次のようなものがある。

文章・談話－段落－文－文節－単語

①**文章・談話**…あるひとまとまりの内容を文字や音声で表したもの。
文字で表されたものは文章、音声で表されたものは談話という。

②**段落**…文章を内容ごとのまとまりで区切ったもの。
段落の始まりは、書き出しを一字下げて表すことが多い。

③**文**……ある内容を表すひと続きの言葉。
文の終わりには句点（。）を付けることが多い。

文章

段落

文
二人は一度にはねあがってドアを飛び出して改札口へかけて行きました。ところが改札口には、明るい紫がかった電燈が、一つ点いているばかり、誰も居ませんでした。そこら中を見ても、駅長や赤帽らしい人の、影もなかったのです。

段落

二人は、停車場の前の、水晶細工のように見える銀杏の木に囲まれた、小さな広場に出ました。そこから幅の広いみちが、まっすぐに銀河の青光の中へ通っていました。

（宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より）

④**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲でできるだけ短く区切ったまとまり。

（例）鳥が／青い／空を／飛ぶ。

※文に「ネ」を入れて区切ってみるとよい。

⑤**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

（例）鳥／が／青い／空／を／飛ぶ。

※単語にはいろいろな種類がある。

鳥・空 → ものの名前を表す。

青い・飛ぶ → 動作や様子を表す。

が・を → 他の単語に付いて使われる。

確認テスト

(1) 次の言葉のまとまりを、大きなまとまりから順に並べかえなさい。

ア 単語　**イ** 段落　**ウ** 文
エ 文章・談話　**オ** 文節

［　　→　　→　　→　　→　　］

(2) 次の文の（　　）に当てはまるものを選びなさい。

（　　）は、文章を内容ごとのまとまりで区切ったもので、始めを改行し、一字下げることで表す。

ア 文　**イ** 文節　**ウ** 単語　**エ** 段落

［　　］

(3) 次の文章には文が３つ含まれる。適切な位置に句点を打ちなさい。

日本語の文は、主に漢字と仮名を組み合わせた　漢字仮名交じり文で表される　漢字は中国で生まれた　文字で、一字が意味と音を表す　一方、仮名は漢字をもとに生まれた　文字で、意味は表さない

(4) 次の文を、①は文節に、②は単語に分け、それぞれ斜線（／）で区切りなさい。

① 私 は 国 語 の 問 題 を 解 く 。

② 私 は 国 語 の 問 題 を 解 く 。

(5) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

天 気 が よ い の で 、 今 日 は 外 で 遊 ん だ 。

(6) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

彼 は 駅 ま で 走 っ た 。

言葉の単位(2)

自立語と付属語

単語は、大きく、自立語と付属語に分けられる。

●**自立語**…単独で文節を作ることができる単語。
　その単語だけで言葉のイメージが浮かぶことが多い。

●**付属語**…単独では文節を作ることができず、自立語と共に使われる単語。
　その単語だけでは言葉のイメージが浮かばないことが多い。

（例）鳥（自）が（付）空（自）を（付）飛ぶ（自）。おにぎり（自）を（付）食べ（自）た（付）。

単語を分類したものを品詞といい、自立語は８つ、付属語は２つの品詞に分けられる。

- 単語
  - **自立語**
    - 活用する
      - 述語になる（用言）
        - 動作・作用・存在を表す・終止形が「ウ段」で終わる → **動詞**
        - 状態・性質を表す
          - 終止形が「い」で終わる → **形容詞**
          - 終止形が「だ・です」で終わる → **形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） → 物事の名前を表す・物事を指し示す → **名詞**
      - 修飾語になる
        - 主に用言を修飾する → **副詞**
        - 常に体言を修飾する → **連体詞**
      - 接続語になる → **接続詞**
      - 独立語になる → **感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する → **助動詞**
    - 活用しない → **助詞**

主な品詞

自立語

・**動詞**…動作・作用・存在を表す。言い切りが「ウ段」で終わる。
（例）話す・咲く・いる

・**形容詞**…状態・性質を表す。言い切りが「い」で終わる。
（例）明るい・楽しい・赤い

・**形容動詞**…状態・性質を表す。言い切りが「だ・です」で終わる。
（例）静かだ　・きれいだ　・立派だ
　　静かです・きれいです・立派です

・**名詞**…物事の名前を表す。物事を指し示す。活用しない。
（例）山・学校・私

付属語

・**助詞**…自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。
（例）鳥が飛ぶ。　私も笑う。　強くて優しい。　何ですか。

・**助動詞**…用言・体言や他の助動詞などの後に付いて、意味を付け加えたり、話し手の判断を示したりする。活用する。
（例）走らない。　走った。　中学生だ。

活用

動詞・形容詞・形容動詞・助動詞は、文中で言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化する。これを**活用**という。
（例）話す＋た → 話した　　話さない＋た → 話さなかった

確認テスト

(1) 次の品詞が、自立語なら**ア**、付属語なら**イ**で答えなさい。

① 動詞〔　　〕　② 助動詞〔　　〕
③ 形容詞〔　　〕　④ 形容動詞〔　　〕
⑤ 助詞〔　　〕　⑥ 名詞〔　　〕

(2) 次の単語の品詞の種類をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 高い〔　　〕　② 歩く〔　　〕
③ 変だ〔　　〕　④ りんご〔　　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 名詞

(3) 次の単語の品詞の種類をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 富士山〔　　〕　② 見る〔　　〕
③ 簡単だ〔　　〕　④ 難しい〔　　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 名詞

(4) 次の——線部の単語を言い切りの形に直しなさい。

遊んだ〔　　〕

(5) 次の文に含(ふく)まれる自立語の数を算用数字で答えなさい。

友達と公園に行くと、黒いネコがいた。〔　　〕

(6) 次の文に含まれる付属語の数を算用数字で答えなさい。

街に激しい雨が降った。〔　　〕

文節と単語

・**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲(はんい)でできるだけ短く区切ったまとまり。

（例）鳥が（文節）／青い（文節）／空を（文節）／飛ぶ（文節）。

・**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

（例）鳥（単語）／が（単語）／青い（単語）／空（単語）／を（単語）／飛ぶ（単語）。

文節はいくつかの単語からできており、文節の初めの単語は必ず自立語である。文節には必ず**一つだけ**自立語が含(ふく)まれる。

（例）[鳥]（自）が／[青い]（自）／[空]（自）を／[飛ぶ]（自）。

→つまり、文を文節に区切るときは、自立語の前で区切るとよい。

文節には、次の場合がある。

・「自立語」単独の場合

・「自立語」に付属語が付く場合

一つの文節に二つ以上の自立語が含まれることはないが、付属語は二つ以上含まれることもある。

（例）走らなかった…自立語「走る」＋付属語「ない」＋付属語「た」

間違(まちが)えやすい文節の区切り

～て（で）…

「～ている」「～てくる」のように、「助詞て（で）＋自立語」の形は、文節の切れ目を間違えやすいので注意する。

（例）[彼]は／[本]を／[読ん]で／[いる]。

※「読んでいる」は「読んで」（自立語＋で）と「いる」（自立語）の二文節

犬が／走って（動詞＋て）／くる（動詞）。

吾輩は／猫で（名詞＋で）／ある（動詞）。

これを／見て（動詞＋て）／ほしい（形容詞）。

確認テスト

(1) 次の文の内容が正しければ○で、誤っていれば×で、それぞれ答えなさい。

① 一つの文節には、必ず自立語が一つ含まれる。
② 一つの文節に、自立語が二つ以上含まれることもある。
③ 一つの文節には、必ず付属語が一つ含まれる。
④ 一つの文節に、付属語が二つ以上含まれることもある。

①［　　］ ②［　　］ ③［　　］ ④［　　］

(2) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線（しゃせん）（／）で区切りなさい。

（例）［鳥］が／［青い］／［空］を／［飛ぶ］。

庭に美しい花が咲いた。

(3) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線（／）で区切りなさい。

（例）［鳥］が／［青い］／［空］を／［飛ぶ］。

課題が残っている。

(4) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

明日の準備をしておく。

(5) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

新しいスポーツをやってみる。

(6) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

もっと文法を学んでほしい。

言葉の単位 (4)

間違(まちが)えやすい単語の区切り

いくつかの単語が結びついて新たな意味をもつ一つの単語となったものを**複合語**という。複合語はあくまで一つの単語なので注意する。

・複合語の名詞…買い物・国語辞典・山登り・苦笑い
・複合語の動詞…歩き始める・飛び立つ・降り出す・舞(ま)い落ちる

「〇〇する」という複合語と、「〇〇をする」では、含(ふく)まれる単語や文節の数が異なる。

・勉強する → 一つの単語（動詞「勉強する」）
・勉強をする → 三つの単語（名詞「勉強」＋助詞「を」＋動詞「する」）

文節の分け方

一つの文節には、自立語は**一つだけ**含まれる。
「勉強する」は一つの自立語（動詞）なので、それだけで一つの文節だが、「勉強をする」には二つの自立語（名詞と動詞）が含まれるので二つの文節に区切れる。

・私は／英語を／勉強する。
・私は／英語の／勉強を／する。

自立語に助動詞が付いた文節は、単語の区切りを間違えやすい。特に文末には、「自立語＋助動詞」の形が多いので注意する。

・おもな助動詞
れる（られる）・せる（させる）・ない・ぬ・う（よう）・まい・たい・たがる・ます・た（だ）・らしい・そうだ・ようだ・だ・です

（例）怒られる → 動詞「怒る」＋「れる」
走らせる → 動詞「走る」＋「せる」
話さない → 動詞「話す」＋「ない」
食べた → 動詞「食べる」＋「た」
中学生だ → 名詞「中学生」＋「だ」

自立語の後に助動詞が複数付いた形も、単語の区切りを間違えやすいので注意する。

・読みました → 動詞「読む」＋助動詞「ます」＋助動詞「た」

確認テスト

(1) 次の文を単語に分け、斜線（しゃせん）（／）で区切りなさい。

今日、色鉛筆（えんぴつ）を買う。

(2) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

クラスの全員で話し合う。

(3) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

郵便物を受け取った。

(4) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

船がゆっくり前進する。

(5) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

私は毎朝、部屋の掃除（そうじ）をする。

---

(6) 例に従って、――線部に含まれる単語をそれぞれ言い切りの形で答えなさい。

（例）本を読みます。　→　動詞〔読む〕＋助動詞〔ます〕

① 道を聞かれる。　② 机を運ばせる。

③ 誰（だれ）もいない。　④ 外で遊ぼう。

① 動詞〔　　　〕＋助動詞〔　　　〕

② 動詞〔　　　〕＋助動詞〔　　　〕

③ 動詞〔　　　〕＋助動詞〔　　　〕

④ 動詞〔　　　〕＋助動詞〔　　　〕

(7) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

その宿題はもう提出した。

(8) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

メールを送信しました。

文節の関係

文節は、文の中での働きによって、主語・述語・修飾語・接続語・独立語にわけることができる。

①主語・述語

「何（だれ）が」を表す文節を主語、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある（いる）・ない」を表す文節を述語という。主語と述語の関係を、**主・述の関係**という。

・庭に／きれいな／花が（主語）／咲く（述語）。

「……が」の他、「……は」「……も」「……だけ」なども主語を表すことがある。主語が省略された文もある。

・花も（主語）／咲いた（述語）。　・きれいに／咲いたね（述語）。

※まず述語を見つけてから、「何が（だれが）」に当たる文節（主語）を探すとよい。

②修飾語

「何の」「どんな」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」など、他の部分をくわしく説明する文節を修飾語という。修飾語と修飾語を受ける文節（被修飾語）の関係を、**修飾・被修飾の関係**という。

・庭に（修飾語）／きれいな（修飾語）／花が／咲く。

③接続語

文や文節をつなぐ文節を接続語という。接続語がつなぐ文同士の関係や、接続語と後に続く部分の関係を**接続の関係**という。

・晴れた。／だから、（接続語）／外出した。

・晴れたので、（接続語）／外出した。

④独立語

他の文節と直接は結びつかない文節を独立語という。独立語とそれ以外の文節の関係を**独立の関係**という。

・ああ、（独立語）／すばらしい／景色だ。　（感動）

・こんにちは、（独立語）／いい／天気ですね。　（挨拶）

・先生、（独立語）／宿題です。　（呼びかけ）

・はい、（独立語）／わかりました。　（応答）

・早寝早起き、（独立語）／これが／大切です。　（提示）

確認テスト

(1) 例に従って、次の各文に含(ふく)まれる主語に══線を、述語に──線を引きなさい。ただし、主語が省略されている文は述語のみに線を引きなさい。

(例) 庭に　きれいな　花が　咲く。

① ネコは　とても　身近な　動物です。

② 昨日、　私も　その　駅に　いました。

③ 友達と　図書室で　資料を　探した。

④ 難しいよ、　この　問題は。

(2) 次の文について、①～④の修飾語が修飾している文節をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

明るい　星が、　南の　空に　美しく　輝(かがや)いた。

① 明るい〔　　〕　② 南の〔　　〕

③ 空に〔　　〕　④ 美しく〔　　〕

ア 星が　**イ** 空に　**ウ** 美しく　**エ** 輝いた

(3) 次の中から、──線部が接続語**ではない**ものを選びなさい。

ア 雨なので、今日は休みです。

イ 暑ければ、窓を開けてね。

ウ 博士、これを見てください。

エ 一時間たった。だが、まだ着かない。

〔　　〕

(4) 次の中から、──線部が独立語**ではない**ものを選びなさい。

ア 一日一善、これをいつも心がけています。

イ 突然、激しい雨が降り出した。

ウ おや、お久しぶりですね。

エ いいえ、それは間違(まちが)いです。

〔　　〕

文節(2)

係り受け

二つの文節が互いに意味の上で結びついているとき、「前の文節は後の文節に係る」、「後の文節は前の文節を受ける」、という。

（例）白い（修飾） 鳥が（主） 空を（修飾） 飛ぶ。（述）

主・述の関係や、修飾・被修飾の関係などの係り受けが対応していないと、不自然な文になる。また、係り受けの仕方が複数考えられる場合は、意味が複数に解釈できることがある。

（例）大きな ネコの 絵（大きいのはネコ）
大きな ネコの 絵（大きいのは絵）

単文・重文・複文

文には、複数の主・述の関係を含むものもある。

・**単文**…主・述を一つずつ含む。
（例）彼女は 図書館に 行った。

・**重文**…二つの単文が対等の関係でつながる。
（例）月は のぼり、日は 沈む。

・**複文**…主・述からなる文の中に、さらに主・述の関係が含まれる。
（例）私は 彼が 勉強するのを 見た。

連体修飾語・連用修飾語

修飾語は、何を修飾するかによって2種類に分けられる。

・**連体修飾語**…体言（名詞）を含む部分を修飾するもの。「何の」「どんな」などを表す。
（例）私は 赤い（修飾） 花を 買った。

・**連用修飾語**…用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む部分を修飾するもの。「何（だれ）に」「何（だれ）を」「いつ」「どこで」「どのように」などを表す。
（例）私は 赤い 花を（修飾） 買った。

確認テスト

(1) 次の文について、——線部を修飾している文節を全て選び、記号で答えなさい。

私は　先月、　友達と　京都に　行きました。

ア 私は　**イ** 先月　**ウ** 友達と　**エ** 京都に　［　　］

(2) 次の文について、①〜④の二つの文節がどのような関係になっているかをそれぞれ**ア**〜**ウ**から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

私の　兄は、　毎朝　新聞を　読む。

①「私の」と「兄は」［　　］　②「兄は」と「読む」［　　］

③「毎朝」と「新聞を」［　　］　④「新聞を」と「読む」［　　］

ア 主・述の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 直接の係り受けの関係はない

(3) 次の各文の種類をそれぞれ**ア**〜**ウ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

① 山は青く、花は赤い。［　　］

② 私が植えた種が芽を出した。［　　］

③ そのスズメは庭の木の枝から飛び立った。［　　］

④ 雨が降ったので、私は傘(かさ)を差した。［　　］

ア 単文　**イ** 重文　**ウ** 複文

(4) 例に従って、次の各文の〜〜線部が修飾している文節に——線を引きなさい。

(例) 庭に　きれいな　花が　咲(さ)く。

① この　大きな　木は、　町の　シンボルです。

② しばらく　道を　歩くと、　駅に　着いた。

(5) 次の各文について、〜〜線部が連体修飾語なら**ア**、連用修飾語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 黒い犬がほえた。［　　］　② 外で犬がほえた。［　　］

③ とても楽しい話だ。［　　］　④ とても楽しい話だ。［　　］

文節 (3)

連文節

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをするものを**連文節**という。

連文節で主語・述語・修飾語・接続語・独立語と同じ働きをするものをそれぞれ、**主部・述部・修飾部・接続部・独立部**とよぶ。

・白い（修飾語） 鳥が（主語） 飛ぶ。（述語） → 白い 鳥が（主部） 飛ぶ。

・彼は（主語） 兄の（修飾語） 友達だ。（述語） → 彼は 兄の 友達だ。（述部）

連文節では、並立や補助といった関係がみられることがある。

●並立の関係

二つ以上の文節が対等な関係で並び、ひとまとまりになっているものを、並立の関係という。

（例） 雨と 風が（並立の関係（主部）） 強い。　その 山は 高く けわしい。（並立の関係（述部））

並立の関係の見分け方

並立の関係になっている文節同士は、文節の内容を入れ替えても意味が変わらない。

（例） 雨と風が ＝ 風と雨が

●補助の関係

下の文節が上の文節の意味を補って、ひとまとまりになっているものを、補助の関係という。

（例） 犬が 走って いる。（補助の関係）　本が 置いて ある。（補助の関係）

これを 見て ほしい。（補助の関係）　今日は 暑く ない。（補助の関係）

補助の関係では、下の文節（補助の文節）はもとの意味が薄れ、上の文節の意味を補っている。このような補助の文節に含まれる動詞や形容詞を、補助動詞・補助形容詞という。

（例） 今 走って いる。（補助動詞）

（補助動詞「いる」は、もとの意味が薄れ、今動作が継続しているという意味を補う働きをしている。）

補助の関係の見分け方

補助の関係は、次のような形になっている。

・……て（で）＋ 補助動詞（補助形容詞）

（例） ……て いる　……て ある　……て みる

……て くる　……て いく　……て おく

……て あげる　……て もらう　……て ほしい

・形容詞（形容動詞）＋ 補助形容詞「ない」

（例） 暑く（形容詞） ない（補助形容詞）

確認テスト

(1) 次の各文の――線部の連文節の働きを、それぞれア～オから選びなさい。

① 彼女(かのじょ)は　難しい　本を　読む。［　　］
② 彼の　弟は　元気な　小学生だ。［　　］
③ とても　寒いので、　コートを　着た。［　　］
④ おだやかな　波が　水面に　広がる。［　　］
⑤ 今年の　目標、　それは　優勝だ。［　　］

ア 主部　イ 述部　ウ 修飾部
エ 接続部　オ 独立部

(2) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 梅と　桜が　咲(さ)いた。
イ 母と　山に　行った。
ウ 彼は　歩いて　きた。
エ 海は　広くて　大きい。

［　　・　　］

(3) 次の中から、――線部の二つの文節が、補助の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 先生は　本を　読んで　いる。
イ 先生は　今　図書室に　いる。
ウ 赤い　リンゴが　ない。
エ リンゴが　赤く　ない。

［　　・　　］

(4) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものと補助の関係になっているものを、それぞれ二つ選びなさい。

ア おいしい　お菓子(かし)を　もらった。
イ 鉛筆(えんぴつ)か　ペンを　借りたいです。
ウ 新しく　ない　備品を　整理しよう。
エ 自分の　知識を　試(ため)して　みた。
オ 遊園地まで　車で　出かけた。
カ 得意な　教科は　国語や　英語だ。

並立の関係［　　・　　］
補助の関係［　　・　　］

文の成分

日本語の文は、**主・述・修飾**（しゅうしょく）**・接続・独立**の５種類の文の成分が組み合わさって成り立っている。

①**主**（語・部）…「何（だれ）が」を表すまとまり。

（例）青い 海が 広がる。
（主：海が）

②**述**（語・部）…「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある（いる）・ない」を表すまとまり。

（例）バラは とても 美しい 花だ。
（述：花だ。）

③**修飾**（語・部）…「いつ」「どこで」「何を」「どのように」などを表すまとまり。

（例）彼（かれ）は 何かが 光るのを 見た。
（修飾：何かが光るのを）

④**接続**（語・部）…前後の内容の関係や、後の内容に対する理由・条件などを表すまとまり。

（例）強い 風が 吹いたので、 窓を 閉めた。
（接続：強い風が吹いたので、）

⑤**独立**（語・部）…文の他の部分と直接は結びつかないまとまり。

（例）私の 目標、 それは 毎日 運動する ことです。
（独立：私の目標）

文の組み立て

「何（だれ）が」「何を」「どうする」など、文の成分がどのように組み立てられているかを考えることで、文の意味を正確に理解することができる。

・私と 姉は、 日曜日に ピアノを 練習して いる。

（組み立て）私と姉は（だれが） → 練習している。（どうする）
日曜日に（いつ） → 練習している。
ピアノを（何を） → 練習している。

・私は 昨日、 彼が 駅に いるのを 見た。

（組み立て）私は（だれが） → 見た。（どうした）
昨日（いつ） → 見た。
彼が駅にいるのを（何を） → 見た。

・怖（こわ）い 話を 聞いたので、 全然 眠（ねむ）れなかった。

（組み立て）怖い話を聞いたので（なぜ） → 全然眠れなかった。

確認テスト

(1) 次の文の――線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

①昨日、 ②彼は ③図書館で ④本を ⑤読んだ。

ア 主語　**イ** 述語　**ウ** 修飾語　**エ** 接続語　**オ** 独立語

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕 ⑤〔　　〕

(2) 次の文の――線部の働きを選びなさい。

昨日、私は 彼が 図書館で 本を 読むのを 見た。（「彼が 図書館で 本を 読むのを」に傍線）

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

〔　　〕

(3) 次の文の――線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①カラスと 雁(がん)が ②秋の 空を ③飛んで いた。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕

(4) 次の文の――線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①今日は 休みなので、 ②妹と 弟は ③近くの 公園で ④遊んで いる。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕

(5) 次の文の――線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①一年生の みなさん、 ②今日の 宿題は ③テストの 解き直しです。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕

自立語と付属語

単語は、単独で文節を作ることができるかどうかで、自立語と付属語に分けられる。

・**自立語**…単独で文節を作ることができる単語。
・**付属語**…単独では文節を作ることができず、自立語と共に使われる単語。

自立語は各文節に**一つだけ**含まれる。文節の初めの単語は必ず自立語である。付属語は文節に含まれないこともあり、また、複数含まれることもある。

（例）赤い（自）／花（自）が（付）／咲き（自）まし（付）た（付）。

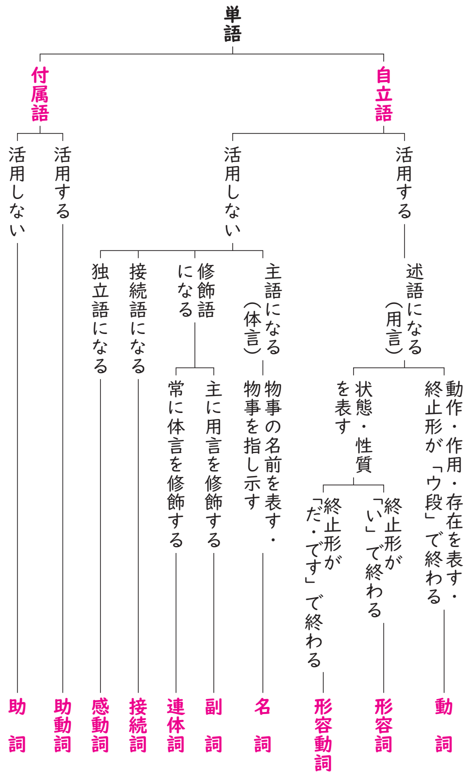
活用

文中での言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化することを**活用**という。自立語では動詞・形容詞・形容動詞が、付属語では助動詞が活用する。

（例）話す＋た　→　話した
明るい＋た　→　明るかった
静かだ＋た　→　静かだった
走ります＋た　→　走りました

品詞

単語を分類したものを**品詞**という。単語は10種類の品詞に分けられる。



ある品詞の単語が変化して、他の品詞の単語になることもあり、これを**品詞の転成**という。

（例）動詞「動く」　→　名詞「動き」
形容詞「重い」　→　名詞「重さ・重み」
形容詞「楽しい」　→　動詞「楽しむ」

確認テスト

(1) 例に従って、次の文の自立語を□で囲み、付属語に――線を引きなさい。

(例) [赤い] [花] が [咲き] まし た。

私 は 友 達 と 駅 ま で 走 っ た。

(2) 次の表の①〜④に当てはまるものを、**ア〜コ**からそれぞれ全て選び、記号で答えなさい。

	活用する	活用しない
自立語	①	②
付属語	③	④

ア 感動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 助詞
オ 助動詞　**カ** 接続詞　**キ** 動詞　**ク** 副詞
ケ 名詞　**コ** 連体詞

① [　　]
② [　　]
③ [　　]
④ [　　]

(3) 次の文の（　　）に当てはまるように、動詞「学ぶ」の形を変化させなさい。

今日は大切なことを（　　）だ。 [　　]

(4) 次の文の（　　）に当てはまるように、形容詞「赤い」の形を変化させなさい。

リンゴがとても（　　）なる。 [　　]

(5) 次の文の（　　）に当てはまるように、形容動詞「立派だ」の形を変化させなさい。

彼女（かのじょ）はたいへん（　　）人だ。 [　　]

用言

自立語の中で、**活用があり、単独で述語になる**ことができるものを**用言**という。品詞では、**動詞・形容詞・形容動詞**が用言に当たる。

（例）花が咲く。　花が赤い。　花がきれいだ。

●**動詞**………動作・作用・存在を表す。言い切りが「**ウ段**」で終わる。

（例）話す・咲く・いる

動詞のうち、上の語に意味を補う、本来の意味が薄れた動詞を、**補助動詞**（形式動詞）という。

（例）人が　歩いて　いる。　※「歩いて　いる」は補助の関係

●**形容詞**……状態・性質を表す。言い切りが「**い**」で終わる。

（例）明るい・楽しい・赤い

形容詞のうち、上の語に意味を補う、本来の意味が薄れた形容詞を、**補助形容詞**（形式形容詞）という。

（例）今日は　暑く　ない。　※「暑く　ない」は補助の関係

●**形容動詞**…状態・性質を表す。言い切りが「**だ・です**」で終わる。

（例）静かだ　・きれいだ　・立派だ
静かです・きれいです・立派です

動詞・形容詞・形容動詞の用法

動詞・形容詞・形容動詞は、述語のほか、修飾語・接続語・独立語になる。

（例）動詞………犬が走る。　走る犬。
形容詞……景色が美しい。　美しい花。　美しく咲く。
形容動詞…波が穏やかだ。　穏やかな波。　穏やかになる。

また、補助動詞と補助形容詞は、上の語と補助の関係を作る。補助動詞と補助形容詞を合わせて、補助用言という。

・補助動詞
補助動詞は主に「～て（で）＋補助動詞」の形で用いられる。
（例）～て　いる　～て　ある　～て　みる
～て　くる　～て　いく　～て　おく
～て　あげる　～て　もらう

・補助形容詞
補助形容詞には「ない・よい・ほしい」などがあり、主に次の形で用いられる。
・形容詞（形容動詞）＋補助形容詞「ない」
・～て（で）＋補助形容詞
（例）～て　ない　～て　よい　～て　ほしい

確認テスト

(1) 次の①～⑥が、動詞なら**ア**、形容詞なら**イ**、形容動詞なら**ウ**で、それぞれ答えなさい。

① 来る〔　　〕　② 大切だ〔　　〕　③ 読む〔　　〕
④ 高い〔　　〕　⑤ 新しい〔　　〕　⑥ 元気です〔　　〕

(2) 次の中から、――線部が動詞であるものを二つ選びなさい。

ア 石灰水（せっかい）が白くにごる。　**イ** 明日の準備をした。
ウ 私が持ちます。　**エ** 外は寒かった。

〔　　・　　〕

(3) 次の中から、――線部が形容詞であるものを二つ選びなさい。

ア 駅までは遠かった。　**イ** 作文を書いた。
ウ わずかな違（ちが）いがある。　**エ** とても強くなる。

〔　　・　　〕

(4) 次の中から、――線部が形容動詞であるものを二つ選びなさい。

ア のどかな風景だ。　**イ** 生活が便利になる。
ウ 池に映る月。　**エ** 海を泳いだ。

〔　　・　　〕

(5) 次の中から、――線部が補助動詞であるものと補助形容詞であるものを一つずつ選びなさい。

ア 机の上に本がある。　**イ** これは辞書である。
ウ この本がほしい。　**エ** これを買ってほしい。

補助動詞〔　　〕　補助形容詞〔　　〕

(6) 次の中から、――線部が補助形容詞「ない」であるものを選びなさい。

ア あまり時間がない。　**イ** これは正しくない。
ウ 部屋がきたない。

〔　　〕

体言

自立語の中で、活用がなく、**主語になる**ことができるものを**体言**という。品詞では、名詞が体言に当たる。

（例）空が青い。

●**名詞**…物事の名前を表す。物事を指し示す。**活用しない**。

普通名詞	ある種類に属する物事などを広く表す。（例）山・花・学校
固有名詞	人名・地名など特定のものを表す。（例）夏目漱石・東京・万葉集
代名詞	人や物事、場所、方向などを指し示す。（例）人称代名詞…私・あなた・彼・誰　指示代名詞…これ・そこ・あちら・どれ
数詞	数量や順序を表す。（例）一人・二個・いくつ・何本
形式名詞	本来の意味が薄れ、常に連体修飾語とともに使われる。（例）勉強すること　暑いとき　雨のため

名詞の中には、別の単語が変化してできたものもある。

・品詞の転成

（例）動く（動詞）→ 動き

重い（形容詞）→ 重さ・重み

※「さ・み」は名詞をつくる接尾語

・複合語

（例）国語＋辞典 → 国語辞典

山＋登る → 山登り

・接頭語＋名詞、名詞＋接尾語

他の語の上下に付いて意味を添える語を、接頭語・接尾語という。

接頭語・接尾語はそれだけでは単語としない。

（例）お米　ご連絡　山田さん

名詞の用法

名詞は、主語のほか、述語・修飾語・接続語・独立語になる。

（例）中学生が遊んでいる。（主）　彼は中学生だ。（述）　中学生の教科書。（修飾）

確認テスト

(1) 次の①～⑧の名詞の種類を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 国語［　］　② それ［　］　③ 三度［　］
④ 百冊［　］　⑤ ネコ［　］　⑥ 信濃川［　］
⑦ 誰（だれ）［　］　⑧ 枕草子［　］

ア 普通名詞　**イ** 固有名詞　**ウ** 代名詞　**エ** 数詞

(2) 次の中から、――線部が形式名詞であるものを三つ選びなさい。

ア あの人はどなたですか。
イ 子どものときから知っています。
ウ 郵便局はどこにあるのだろう。
エ ちょうど今着いたところです。
オ こんな日に雪が降るわけがない。
カ 提出日はいつだろう。

［　・　・　］

(3) 次の中から、――線部が名詞であるものを二つ選びなさい。

ア ここはにぎやかな通りだ。　**イ** そこを通ります。
ウ 学校の近くに引っ越（こ）す。　**エ** 駅に近くない。

［　・　］

(4) 例に従って、次の各文に含まれる名詞を全て□で囲みなさい。

（例）［彼］は［中学生］だ。

① その人から私はお菓子をもらった。
② 読書感想文を書くことの難しさがわかった。

(5) 次の中から、――線部の文節に名詞を含むものを選びなさい。

ア 流れる水。　**イ** 冷たい水。
ウ 川の水。　**エ** きれいな水。

［　］

その他の自立語

●**副詞**……状態や程度などを表す。主に連用修飾語になる。

(例) ゆっくり　歩く。（用言）

※連用修飾語が全て副詞とは限らないので注意する。
(例) 静かに　歩く（「静かに」は形容動詞）

・**状態の副詞**…「どのように」という状態や頻度を表す。

(例) ゆっくり・いつも・ざあざあ・きらきら（擬音語（擬声語））（擬態語）

・**程度の副詞**…「どれくらい」という程度を表す。

(例) とても・もっと・少し・かなり

※程度の副詞は、他の副詞や名詞を修飾することもある。
とても　ゆっくり（副詞）　もっと　前（名詞）

・**呼応（陳述・叙述）の副詞**…話し手の判断や述べ方を表す。下に決まった言い方がくる。

(例) もし（〜なら）・たとえ（〜ても）・全く（〜ない）
きっと（〜だろう）・まるで（〜ようだ）・なぜ（〜か）

●**連体詞**…常に連体修飾語になる。

(例) この　花（体言）

※連体修飾語が全て連体詞とは限らないので注意する。
(例) 赤い　花（「赤い」は形容詞）

（〜の）この・その・あの・どの
（〜な）大きな・小さな・いろんな
（〜る）ある・あらゆる・いわゆる
（〜た・だ）たいした・とんだ

●**接続詞**…前後の文や語をつなぐ。接続語になる。

（順接）だから・すると・したがって
（逆接）しかし・ところが・けれども
（並列・累加）そして・また・しかも
（対比・選択）一方・または・それとも
（説明・補足）つまり・なぜなら・例えば
（転換）さて・ところで・では

●**感動詞**…感動・呼びかけ・挨拶・応答を表す。独立語になる。

（感動）ああ　（呼びかけ）ねえ
（挨拶）おはよう　（応答）はい・いいえ

付属語

●**助詞**……自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。

(例) 鳥が飛ぶ。　私も笑う。　強くて優しい。　何ですか。

●**助動詞**…用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手の判断を示したりする。活用する。

(例) 走らない。　走った。　中学生だ。

確認テスト

(1) 例に従って、次の各文に含(ふく)まれる副詞に〰〰線を引き、副詞が修飾する文節に――線を引きなさい。また、副詞の種類をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(例) 私は ゆっくりと 歩いた。

① 街は たいへん にぎやかだった。 [　　]

② たぶん 彼(かれ)が いるのは 美術室だろう。 [　　]

③ すぐに 雨は 降りやんだ。 [　　]

ア 状態の副詞　イ 程度の副詞　ウ 呼応の副詞

(2) 次の中から、――線部が連体詞であるものを三つ選びなさい。

ア 大きい木が生えている。

イ 大きな木が生えている。

ウ きれいな花が咲(さ)いている。

エ いろんな花が咲いている。

オ ある日、クマを見た。

カ 森の中に小屋がある。

[　・　・　]

(3) 次の「こそあど言葉」の品詞をそれぞれア～ウから選び記号で答えなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

① これ [　　]　② ここ [　　]　③ こちら [　　]

④ こんな [　　]　⑤ こう [　　]　⑥ この [　　]

ア 名詞　イ 副詞　ウ 連体詞

(4) 次の各文の――線部が、接続詞ならア、感動詞ならイで答えなさい。

① ずいぶん時間がたった。だが、まだ着かない。 [　　]

② もうすぐ到着(とうちゃく)だ。おや、あれは何だろう。 [　　]

(5) 例に従って、次の文に含(ふく)まれる助詞・助動詞に――線を引きなさい。

(例) 白い鳥が(助詞) 飛んだ(助動詞)。

昨日、私 は 図書室 で とても 古い 本 を 見つけ ま し た。

活字の書体と画数・筆順

書体

書籍（しょせき）や新聞などの印刷物で用いられる文字の型を活字という。活字にはさまざまな書体がある。

・**明朝体**…印刷物の本文などで使われる。
　（例）永・北・令
・**ゴシック体**…見出しなどで使われる。
　（例）永・北・令
・**教科書体**…楷書（かいしょ）の書き文字をもとにした書体。教科書などで使われる。
　（例）永・北・令

画数・筆順

文字で、一筆で書く一つ一つの点や線を**画**（かく）といい、画の数を**画数**という。

（例）山…3画　水…4画　田…5画

画を書く順序を**筆順**という。筆順には次の大原則がある。

①上から下へ…上の部分から下の部分へ書いていく。
　（例）三　喜
②左から右へ…左の部分から右の部分へ書いていく。
　（例）川　例

他にも次の原則がある。

・横画と縦画の交差
　ほとんどの場合は横画を先に書く。
　（例）十・大
　田や王の形は横画を後に書く。
　（例）由・主
・中と左右があって、左右が1、2画…中を先に書く。
　（例）小・水
　※りっしんべんや、火などは例外。
・囲む形…外側を先に書く。
　（例）国・同
　※ただし、区や医などに注意する。
・左払（はら）いと右払いの交差…左払いを先に書く。
　（例）文・人
・つらぬく縦画や横画…つらぬく画は最後に書く。
　（例）中・子
・横画と左払い
　横画が縦画より長い字では左払いを先に書く。
　（例）右・有
　横画が縦画より短い字では横画を先に書く。
　（例）左・友

※ただし、筆順は絶対の決まりがあるわけではなく、広く用いられる筆順が2つ以上あるものもある。

確認テスト

(1) 次の文字の書体の名前をそれぞれ**ア**〜**ウ**から選びなさい。

① 字〔　　〕　② 字〔　　〕　③ 字〔　　〕

ア 教科書体　**イ** ゴシック体　**ウ** 明朝体

(2) 次の特徴（とくちょう）をもつ書体をそれぞれ**ア**〜**ウ**から選びなさい。

① 縦横の画の太さの違（ちが）いが少ない。見出しなどの目立つ箇所（かしょ）で使われることが多い。〔　　〕

② 縦画は太く、横画は細くなっている。書籍の本文など、長い文章を読む必要がある箇所で使われることが多い。〔　　〕

③ 楷書をもとにしており、現代の手書きの文字に近い書体である。〔　　〕

ア 教科書体　**イ** ゴシック体　**ウ** 明朝体

(3) 次の漢字の画数をそれぞれ算用数字で答えなさい。

① 弓〔　　〕　② 吸〔　　〕

③ 収〔　　〕　④ 臣〔　　〕

(4) 次の漢字の画数をそれぞれ算用数字で答えなさい。

① 紙〔　　〕　② 卵〔　　〕

③ 遠〔　　〕　④ 防〔　　〕

(5) 次の漢字の画数をそれぞれ算用数字で答えなさい。

① 革〔　　〕　② 建〔　　〕

③ 衆〔　　〕　④ 慣〔　　〕

(6) 次の矢印の指す画は何画目か。それぞれ算用数字で答えなさい。

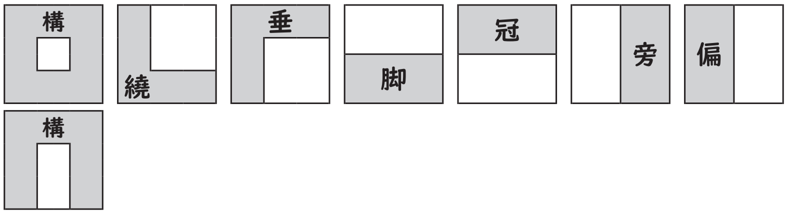
① 〔　　〕　② 〔　　〕

③ 〔　　〕　④ 〔　　〕

漢字の組み立てと部首(1)

漢字の組み立て

漢字はいくつかの部分を組み立てたものが多く、それぞれの部分は位置によって次のように分類される。



へん	(例) にんべん
つくり	(例) りっとう
かんむり	(例) うかんむり
あし	(例) れんが
たれ	(例) まだれ
にょう	(例) しんにょう
かまえ	(例) くにがまえ・もんがまえ

部首

漢字を字形で分類するときに、その基準となる共通の部分を**部首**という。部首は、位置によって形や呼び名が変わることがある。

(例) 心部…思(こころ)・情(りっしんべん)・恭(したごころ)

部首はその漢字の中心的な意味を表す部分になっていることが多い。

(例)「持」(て・てへん)「聞」(みみ)

・動物に関係する部首

鳥	とり	(例) 鳥・鳴・鶏
隹	ふるとり	(例) 雄・雌・難

・植物に関係する部首

艹	くさ・くさかんむり	(例) 花・草・葉
竹	たけ・たけかんむり	(例) 竹・筆・節
木	き・きへん	(例) 木・材・橋
禾	のぎ・のぎへん	(例) 秋・税・稲

・建物に関係する部首

宀	うかんむり	(例) 客・室・家
广	まだれ	(例) 店・府・庫

※部首の扱いは、漢和辞典によって異なる場合がある。

確認テスト

(1) 次の①～④の——線部を漢字に直したとき、その漢字の「へん」の呼び名は何か。適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①試験をサイ点する。［　　］
②直センを引く。［　　］
③木陰（こかげ）でキュウ息する。［　　］
④会ギに出席する。［　　］

ア にんべん　イ てへん
ウ いとへん　エ ごんべん

(2) 次の漢字に共通する部首を付けると、それぞれ別の漢字になる。共通して付く部首を選びなさい。

玉・井・古・木

ア きへん　イ にんべん
ウ くにがまえ　エ もんがまえ

［　　］

(3) 次の中から部首が他と異なるものを選びなさい。

ア 守　イ 空　ウ 客　エ 室

［　　］

(4) 次の——線部の漢字の部首をそれぞれ選びなさい。

①草ゲンの風景。［　　］
②気象チョウ。［　　］
③市立ビョウ院。［　　］

ア まだれ　イ がんだれ　ウ やまいだれ

(5) 次の中から、——線部の漢字の部首が「のぎ（のぎへん）」ではないものを選びなさい。

ア コク物の収穫（しゅうかく）。
イ 植物のシュ子。
ウ 建築物のコウ造。
エ 面セキをもとめる。

［　　］

主な部首

・自然に関係する部首

火	ひ・ひへん	(例) 火・灰・灯・焼
(灬)	れんが(れっか)	(例) 照・熟・熱
水	みず・したみず	(例) 水・氷・泉・泰
(氵)	さんずい	(例) 河・海・洋・港

・感情に関係する部首

心	こころ・したごころ	(例) 心・意・想・慕
(忄)	りっしんべん	(例) 快・性・情・慣

・神事、祭事に関係する部首

示	しめす	(例) 示・祭・禁
(礻)	しめすへん	(例) 社・祝・神

・衣服に関係する部首

衣	ころも	(例) 衣・装・裁
(衤)	ころもへん	(例) 被・補・複

・刀に関係する部首

刀	かたな	(例) 刀・分・切・初
(刂)	りっとう	(例) 判・利・刻・剣

・移動に関係する部首

彳	ぎょうにんべん	(例) 往・径・徐・復
辶	しんにょう(しんにゅう)	(例) 通・進・運・遠
廴	えんにょう(えんにゅう)	(例) 延・建
走	そうにょう	(例) 起・越

・住むところや地形に関係する部首

阝	おおざと	(例) 郊・郡・都
阝	こざとへん	(例) 陸・階・陽

・複数の由来がある部首

月	つき	(例) 朗・期
月	ふなづき	(例) 服・朝
月	にくづき	(例) 腹・腰

※ふなづきは舟の形が省略されたもの、にくづきは肉がへんになるときの形。辞典によっては同じ部首にまとめていることもある。

確認テスト

(1) 次の中から、——線部の漢字の部首が「しめす・しめすへん」ではないものを選びなさい。

ア 国民のシュク日。　イ 選挙で投ヒョウする。
ウ 水分をホ給する。　エ 人類のソ先。

〔　　〕

(2) 次の中から、——線部の漢字の部首が「ころも・ころもへん」ではないものを選びなさい。

ア フク雑な問題。　イ 脳リに浮(う)かぶ。
ウ 質素な服ソウ。　エ 幸フクに暮らす。

〔　　〕

(3) 次の中から、部首が「れんが(れっか)」ではないものを選びなさい。

ア 点　イ 魚　ウ 照　エ 熟

〔　　〕

(4) 次の漢字に共通する「つくり」を付けると、それぞれ別の漢字になる。共通して付く「つくり」を選びなさい。

千・半・貝・害

ア ちから　イ おおがい
ウ つき　エ りっとう

〔　　〕

(5) 次の——線部の漢字の部首をそれぞれ選びなさい。

①開催(かいさい)をエン期する。〔　　〕　②荷物を配タツする。〔　　〕
③みんなでキ立する。〔　　〕

ア しんにょう　イ えんにょう　ウ そうにょう

(6) 次の中から、——線部の漢字の部首が「おおざと」であるものを選びなさい。

ア ユウ便物が届いた。　イ 病インに行く。
ウ ボウ災の意識をもつ。　エ 島に上リクする。

〔　　〕

漢字の成り立ち

漢字の成り立ちには、象形・指事・会意・形声がある。

①**象形**…物の形を、かたどって表す。

（例）山・月・馬

②**指事**…概念(がいねん)や事柄(ことがら)を、記号や印で表す。

（例）上・下

③**会意**…二つ以上の字を組み合わせ、新しい意味を表す。

（例）鳴（口＋鳥　で、「鳴く」の意味を表す。）
　休（人＋木　で、「休む」の意味を表す。）

④**形声**…意味を表す部分（意符(いふ)）と、音を表す部分（音符）を組み合わせ、新しい漢字を表す。

（例）江（意符「氵」＋音符「工(コウ)」）
　晴（意符「日」＋音符「青(セイ)」）

※多くの音符は、音だけではなくなんらかの意味も表しており、辞典によってはこのような漢字を会意形声と分類している。

漢字の作り方を説明する象形・指事・会意・形声に、漢字の使い方を説明する転注・仮借(かしゃ)を加えて**六書**(りくしょ)という。

⑤**転注**…漢字の元の意味が広がって、他の意味に使われる。

（例）楽（元は「音楽」という意味だが、音楽を楽しむことから「楽しい」という意味にも使われる。）

⑥**仮借**…漢字の元の意味とは関係なく、音のみを借りて使われる。

（例）豆（元は「食べ物を盛る器(うつわ)」という意味だが、「トウ」の音を借りて「まめ」の意味で使われる。）

漢字の中には日本で独自に作られたものもあり、**国字**という。国字の多くは会意文字である。

（例）畑(はたけ)・峠(とうげ)・働

確認テスト

(1) 次の漢字の成り立ちを、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 花［　　］　② 二［　　］　③ 明［　　］　④ 象［　　］

ア 象形　**イ** 指事　**ウ** 会意　**エ** 形声

(2) 次の漢字の成り立ちを、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 目［　　］　② 紙［　　］　③ 看［　　］　④ 本［　　］

ア 象形　**イ** 指事　**ウ** 会意　**エ** 形声

(3) 次の成り立ちの漢字を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 象形［　　］　② 指事［　　］

③ 会意［　　］　④ 形声［　　］

ア 川　**イ** 林　**ウ** 園　**エ** 三

(4) 次の成り立ちの漢字を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 象形［　　］　② 指事［　　］

③ 会意［　　］　④ 形声［　　］

ア 悲　**イ** 利　**ウ** 米　**エ** 末

(5) 次の――線部をそれぞれ漢字に直しなさい。

① 学<u>コウ</u>に行く。［　　］

② <u>コウ</u>外に住む。［　　］

③ <u>コウ</u>果がある。［　　］

漢字の音訓

漢字の読み

漢字の読み方には、漢字の中国語での発音を元にしたもの（音）と、日本語にあった同じ意味の言葉を当てはめたもの（訓）がある。

●音読み…漢字の中国語での発音を元にした読み方。

（例）花（カ）

音読みは単独では意味がわかりにくいものも多い。

次の場合は音読みであることが多い。（例外もある）

・「ン」（撥音（はつおん））が入る。　（例）本（ホン）　※例外・何（なん）など

・小さい「ャ・ュ・ョ」が入る（拗音（ようおん））。　（例）朝（チョウ）

・ラ行で始まる。　（例）楽（ラク）

●訓読み…漢字にもともと日本語にあった言葉を当てはめた読み方。

（例）花（はな）

訓読みは単独でも意味がわかりやすいものが多い。

また、訓読みは送り仮名が付くものも多い。

漢字の中には、音読み・訓読みのどちらか一方でしか使われないものや、複数の音読み・訓読みがあるものもある。

（例）行　[音] ギョウ・コウ・アン　[訓] い-く・ゆ-く・おこな-う

熟語の読み

熟語は、「音＋音」や「訓＋訓」という読み方が普通（ふつう）だが、音読みと訓読みを組み合わせた読み方をするものもある。

①音＋音　（例）海岸（カイガン）

②訓＋訓　（例）青空（あおぞら）

③重箱（ジュウばこ）読み（音＋訓）　（例）本屋（ホンや）

④湯桶（ゆトウ）読み（訓＋音）　（例）夕食（ゆうショク）

また、同じ漢字を使っていても、読み方によって意味が異なる熟語もある。

（例）・大事　大事（ダイジ）な約束。　大事（おおごと）になる。

・市場　株式市場（シジョウ）。　市場（いちば）に行く。

確認テスト

(1) 次の漢字の読み方について、①～④が、音読みなら**ア**、訓読みなら**イ**で、それぞれ答えなさい。

外

① がい〔　　〕　② そと〔　　〕
③ はず-す〔　　〕　④ ほか〔　　〕

(2) 次の中から、――線部の漢字の読み方が音読みであるものを選びなさい。

ア 広場で遊ぶ。　**イ** 小言を言う。
ウ 見方を変える。　**エ** 温室で育てる。

〔　　〕

(3) 次の中から、――線部の漢字の読み方が訓読みであるものを選びなさい。

ア 二本の直線。　**イ** 世界の大陸。
ウ 自宅の庭先。　**エ** 親子の愛情。

〔　　〕

(4) 次の熟語の読み方に当てはまるものを、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 駅前〔　　〕　② 坂道〔　　〕
③ 音楽〔　　〕　④ 身分〔　　〕

ア 二字ともに音読み　**イ** 二字ともに訓読み
ウ 重箱読み　**エ** 湯桶読み

(5) 次の――線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

① 期間〔　　〕　② 世間〔　　〕

(6) 次の――線部の熟語の読みを、それぞれ答えなさい。

① 休みの間は分別のある行動を心がけよう。
② ゴミはきちんと分別するよう心がけよう。

①〔　　〕
②〔　　〕

説明的文章 指示語の内容の捉え方

もともとの自然の姿が森林であるわが国で、保存すべき自然の第一は森林、それも原生林です。原生林とは、いままでまったく人手が入らず、最近台風や山火事などでもこわされていない森林をいいますが、わが国には本当の意味の原生林はほとんどありません。長い歴史の中で、人々がなんらかのかたちでかかわってきたからです。しかし、それに近いものはまだ残されています。現代に生きるわれわれは、将来の人々のためにも①こうした森林を残していかなければなりません。

自然の「保存」は、自然の一部をまずとっておくことだと考えるとよいでしょう。保存地は、人が利用しない土地ではなくて、「保存する」という利用をしているところなのです。

自然保護という言葉がありますが、これは珍しい自然をそっととしておくことだけではありません。保全と保存が②その大きな二本の柱であるほか、病気や虫、気象の害、浸食や山くずれなどの害を防ぐこと、現在の自然の姿を保たせること、こわれた自然を回復させることなども、自然保護という言葉の中には含まれているのです。

二部屋のアパートに住む家族を考えてみてください。同じ部屋が食事にも、勉強にも、寝室にも、お客の接待にも使われます。

せまいうえに人口の多い日本の森林の使い方も同じです。森林にはいろいろな働きがありますが、せまい国土の中で、木材用の森林、水源用の森林、レクリエーション用の森林、風景のための森林…というように、一つの働きだけを考えた森林を別々にもつことは無理です。さいわい、森林はいくつもの働きをかねそなえていますから、それをうまく使って一つの森林からいくつもの効果を引き出したいものです。③これが多目的利用というやり方です。

（只木良也『森林はなぜ必要か』小峰書店 による）

指示語の読み取り

説明的文章では、言葉や内容の繰り返しを避けるために**指示語**がよく使われる。指示語が表す内容は、次のようにして捉えるとよい。

①指示語を含む文に注目し、指示語の内容を押さえる。

②指示語が指す内容を探す。

・多くの場合、指示語の指す内容は指示語の前にある。

（例）私は毎日写真を撮る。それは私の喜びも悲しみも記録している。

・後に続く内容を指す場合もあるので注意する。

③探した内容を指示語に当てはめて、意味が通じるか確かめる。

（例）写真は喜びも悲しみも記録している。

例題

══線「それ」が指す内容を本文中から五字以内で書きぬきなさい。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「こうした森林」とはどのような森林か。解答欄（かいとうらん）に当てはまるように文章中の言葉を用いて八字以内で答えなさい。

いる森林（　　　　　　　　）姿で残されて

(2) ——線②「その大きな二本の柱」とあるが、これが指す内容となるように、（　　）に当てはまる言葉を本文中から五字以内で書きぬきなさい。

（　　）の大きな二本の柱

(3) ——線③「これ」とは何か。適当なものを選びなさい。

ア 森林にはさまざまな働きがあるが、せまい日本では一つの働きの森林を別々にもつのは難しいこと。

イ 森林がかねそなえている、木材を生み出す、水源となる、などのいくつもの働き。

ウ 森林が多様な働きをもつことを利用し、一つの森林からさまざまな効果を引き出すやり方。

［　　］

日本はおそらく地球上にある文明エリアで、最も恵まれた「植生」を持った地域に違いありません。

日本の国土の七〇パーセントは森だといいます。

例えば、アメリカのロサンゼルス。おそらく行かれた方も多いと思いますが、ロサンゼルスは砂漠なんですね。砂漠の上に都市が作られたわけです。ですから、街路樹一本一本に、※スプリンクラーが付けられているのです。あそこの風土には、水を蓄えておくという樹木にとって最も重要な能力が哀しいかな、ありません。日本では考えられないことですが。

世界の中でも、豊かな美しい森がある国としてしられているカナダ。※メイプルリーフが紅葉の時期のカナダの森は、見事な美しさを見せてくれます。[　　]、そのカナダでさえ、紅葉している木というのは五～六種類にすぎないのです。

これが日本なら、僕のうちの林の中でも何十色とあります。同じように、新緑の色も何十色とあるのです。それが、その時期、日によって色が微妙に変わっていくわけです。僕は、何とも複雑な、何とも繊細な日本の植物達って、とてもセクシーだと思います。

（ A ）、ヨーロッパはどうでしょう。森の都と呼ばれるドイツには、黒い森と呼ばれるシュバルツバルトがあります。

森はかつて、ドイツ全体を覆っていました。ヨーロッパ全てがそうでした。そして、その深くて、暗い森は、魔女や不気味な物が住んでいるという、ヨーロッパ独特の伝説を数多く生んでいきました。そのため、ある時人間たちは、その深い森をどんどん伐採していったのです。ドイツの深い森もどんどん切られていきました。そして、ふと気づいた時には、ドイツの国土のわずか一五パーセントしか残っていなかったのです。

それで、これは大変だということになって、今度は、人間が木を植え始めたのです。（ B ）、人間が植える木というのは、やはり多種多彩ではなくて、結局、役に立つ木、つまり、針葉樹になってしまう。

それで、黒い森、と呼ばれるようになったわけです。

（柳生博『森と暮らす、森に学ぶ』講談社 による）

※スプリンクラー…水をまく装置。　メイプルリーフ…カエデの葉。

例題

[　　]にあてはまる接続語を次から選び、記号で答えなさい。

ア したがって　**イ** けれども
ウ または　**エ** つまり

〔　　〕

接続語の読み取り

特に説明的な文章では、接続語に注目すると内容が捉(とら)えやすくなる。それぞれの語句がどのような関係を表すのかを理解しておく。

順接	前の内容が、後の内容の原因・理由になる。 (例) だから、そこで、したがって、すると
逆接	前の内容から予想されることと逆の内容が後にくる。 (例) しかし、だが、けれども、ところが
並立(へいりつ)累加(るいか)	前後の内容を並べたり、前に後の内容を付け足したりする。 (例) そして、また、しかも、および、なお
対比選択(せんたく)	前後の内容を比較(ひかく)したり、一方を選んだりする。 (例) または、あるいは、それとも、もしくは
説明補足	前の内容をまとめたり、理由や情報を補ったりする。 (例) つまり、なぜなら、ただし、たとえば
転換(てんかん)	話題や観点を変える。 (例) ところで、さて、では

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) (A) に当てはまる接続語として、適当なものを選びなさい。

ア だから　イ なぜなら　ウ では

〔　　〕

(2) (B) に当てはまる接続語として、適当なものを選びなさい。

ア けれど　イ あるいは　ウ すなわち

〔　　〕

(3) ――線部「ですから、……付けられているのです。」の一文について、正しく述べているものを選びなさい。

ア 直前の内容を理由として導かれる内容が述べられている。
イ 直前の内容に対する理由を表す内容が述べられている。
ウ 直前の内容をまとめる内容が述べられている。

〔　　〕

説明的文章

段落の要点・関係の捉え方

1 ライオンの「食」といったとき、ライオンが肉切れを食べるところだけを頭に描いたとすればそれは一面的なとらえ方でしかなく、ライオンのライオンらしさをとらえることはできない。どのような生物界にくらしているのか、そこでどのようにして獲物を見つけだし、どのようにして接近し、その獲物をどのようにして捕えて殺すのかということまで頭に描かなければいけない。

2 同様に、人間の「食」といったときも、食卓にすわっての食事だけを頭に描いたのではやはり一面的なとらえ方になってしまう。カロリーと栄養のバランスだけが人間の「食」のすべてではないのである。

3 人間の「食」には、さまざまな人間の手が加わっている。食事のときにはしやスプーンを使うのも一つのあらわれだが、それだけではない。わたしたちが毎日食べているお米を例に考えてみよう。お米のもとはイネの種子である。このイネは人間が人間のためにつくりだした作物の一種であり、田んぼで栽培されている。

4 この田んぼを耕すためにはいろんな農機具を使う。その農機具は別の所で別の人たちがつくる。堆肥は別にしても化学肥料を入れるとすればその肥料もまったく別のところで別の人たちがつくっている。

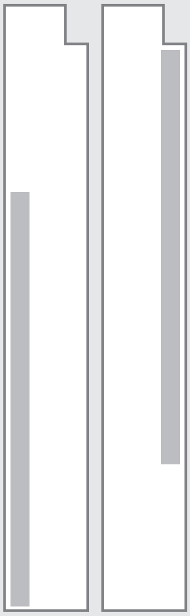
5 人間は社会的存在として食べているというのは、まさにこのことである。動物の食べるとはまったく違っているのである。

（黒田弘行『食の歴史』農山漁村文化協会　による）

段落の要点・関係

各段落の**要点**（中心となる内容）を捉えるには、次のような箇所・表現に注目するとよい。

・各段落の初めや終わり。



・「まとめ」や「筆者の意見」を表す文。

（例）つまり、……。　このように、……。

……と思う。　……べきだ。

各段落の要点や、段落の冒頭の接続語などに注目すると、段落どうしの関係がわかりやすくなる。

例題

3 段落の要点（中心となる内容）を表す一文を選び、その最初の三字を答えなさい。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の中心的な話題として適当なものを選びなさい。

ア 生物ごとに異なる食物。
イ 人間の「食」の特徴。
ウ イネの栽培のあり方。

〔　　〕

(2) 各段落について正しく述べているものを選びなさい。

ア 2段落で提示された事柄について、3・4段落では具体例を挙げて考察している。
イ 2段落で提示された事柄に対して、3・4段落では筆者の視点から反論を加えている。
ウ 2段落で提示された事柄に対して、3段落では結論を、4段落では別の話題を提示している。

〔　　〕

(3) ――線部「人間は社会的存在として食べている」とあるが、なぜこのように言えるのか。適当なものを選びなさい。

ア 人間は、それぞれの社会の文化によって食べるものが異なるものだから。
イ 人間の「食」は、さまざまな社会的な関係の中で成り立っているものだから。
ウ 人間の社会は、食料が確保されることではじめて存在しているものだから。

〔　　〕

説明的文章　段落の役割・要旨の捉え方

1 日本の建物を外国の建物とくらべたときに、日本は壁がひじょうにうすく、※柱立ちであることが大きな特徴です。それはなぜでしょうか。

2 日本では、石積みの建物とか煉瓦を使った建物はひじょうに少ないのです。奈良時代でも、わずかに平城宮には煉瓦を使うことがありましたが、ほとんど消えてしまいます。

3 日本では石があまり豊富でないということもあったのでしょう。しかし、おそらく日本の建物は※縄文時代以来、柱立ちができたために、煉瓦積みや石積みの壁が必要にならなかったのです。なぜ柱立ちができたかは、はっきりしています。日本は木が豊富だったからです。建築に適した木がたくさんあり、そういう木を使って建物を建ててきたのです。だからこそ日本は柱立ちができたのでしょう。おそらく世界的にこれほど柱立ちに徹していた国はありません。それは木が豊富だったからです。

4 地震との関係をいう人もいます。煉瓦積みや石積みの建物がないのは、それらが地震に弱いからだというのです。しかし、地震との関係が問題になってきたのは近代のことで、昔は地震のことなどはあまり考えていません。むしろ、木が豊富だからこそ柱立ちの建物に徹してきたということになるかと思います。

（佐原真『遺跡が語る日本人のくらし』岩波書店　による。一部表記を変えた箇所がある）

※柱立ち…柱が屋根を支えている構造。外国では、壁が屋根を支える構造が多くみられる。
縄文…原典では「縄紋」。

段落の役割と要旨

説明的文章を読むときには、各段落の文章中での役割に注目するとよい。

導入 話題提示 問い	話題に導く。話題を提示する。
根拠 具体例 答え	根拠を示す。例や対比を用いて具体的に説明をする。
まとめ 主張	説明をまとめる。筆者の主張を示す。

特に説明的文章では、「問い」を投げかけるかたちで**話題**が示されることが多い。「問い」と、それに対する「答え」に注目すると、文章の**要旨**（文章の中で最も伝えたいこと）を捉えやすくなる。

また、序論・本論・結論のまとまりにも注目するとよい。

・**序論**…話題を提示する。
・**本論**…事例や根拠を挙げて具体的に説明する。
・**結論**…内容をまとめる。主張を述べる。

（文章の構成の例）
・頭括型　**結論**→本論
・尾括型　（導入）本論→**結論**
・双括型　**結論**→本論→**結論**

例題

本文の話題を問いかけの形で提示している段落を探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。ただし、句読点も一字に含む。

□□□ ～ □□□

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 1～3段落の関係を正しく述べたものを選びなさい。

ア 1段落で提示された話題について、2段落では筆者の立場から反論している。

イ 2段落で提示された内容に対して、3段落では対照的な事例を挙げている。

ウ 1段落で提示された問いに対して、3段落では答えとなる内容を説明している。

〔　　〕

(2) 3段落と4段落の関係を正しく述べたものを選びなさい。

ア 4段落では、それまでに挙げた見解を否定する事例を示し、3段落の内容に反論している。

イ 4段落では、3段落で述べた意見に対する根拠を示し、筆者の意見に説得力を持たせている。

ウ 4段落では、筆者とは異なる見解に反論しながら、3段落で示した意見を繰り返している。

〔　　〕

(3) 本文の要旨を選びなさい。

ア 日本の建物が柱立ちという特徴を持つのは、日本に木が豊富だったことと関係がある。

イ 日本には煉瓦を使った建物が少ないが、奈良時代の平城宮では煉瓦を使った例がある。

ウ 日本に煉瓦積みや石積みの建物が少ないのは、地震が多いことと関係するという人もいる。

〔　　〕

文学的文章　場面・状況の捉え方

「①植野さん、いいもの見せてあげるよ、ちょっと……」

エミ子はさっきよりは、よほどはきはきした声でいって、チヅルのところまで飛んできて、手を引っぱるようにして物置小屋に連れていった。

くらい物置小屋には、雪かき用のスコップだの、ソリだの、カラのミカン箱だのがあって、ごちゃごちゃしていたが、奥のほうにダンボールが置いてあり、ひょいと覗いたチヅルは、あっと息をのんだ。

生まれたてとしか思えない真っ黒な子猫が、体をまるめて、ぴゅうぴゅうないているのだった。

ぶるぶる震えているのは、寒いのと不安がっているからみたいで、ダンボールに敷いたくしゃくしゃの黄色いセーターにしがみつくようにして、ふにふに、ないているのだった。

「これ、どうしたのさ」

チヅルは思わず声をひそめて、そっと手をのばして、抱きあげた。

ハンケチくらいの重さしかなくて、ちょっとでも力を入れると、ぺしゃっと潰れてしまいそうなほど、小さかった。

「すて猫なんだ。きのう、学校の帰りにみつけて、つれてきたの。だけど、ウチ、猫飼えないから。お父さん、動物きらいだからさ。かくれて、飼おうと思ってるんだ」

「かくれて?」

「だれにも、内緒だよ。植野さんだから、おしえたんだよ」

「うん。だれにもいわない」

チヅルは息をはずませながら、胸にしがみついている子猫をそうっと撫でた。子猫は急に動かされて不安なのか、精一杯のなき声をあげていて、みゃーと口をあけるたびに、ピンク色の歯ぐきと舌が、ちろりと見えるのだった。

いつのまにいなくなっていたのか、エミ子が息をきらして戻ってきて、みると、手にミルクの入った小皿をもっていた。

「植野さん、猫が牛乳のむとこ、見たいしょ。見なよ。すごく、のむんだよ」

顔を真っ赤にして、すっかり興奮したように肩で息をして、そういうのだった。

「②ちゃんと、あっためたかい。冷たいと、腹くだしになるよ」

「あ、そうなのかい? 知らなかった!」

エミ子はいかにも嬉しそうにいって、ばたばたとすごい音をたてて、家のほうに戻っていった。興奮しているせいか、すごく元気がよいのだった。

(学校の木村さんと、ぜんぜんちがうなあ。もっと陰気な子かと思った)

猫を撫でながら、なんとなく見直す気持ちになってしまった。

(氷室冴子『いもうと物語』新潮社 による)

例題

――線部「家のほうに戻っていった」とあるが、何をするために戻ったのか。説明しなさい。

〔　　〕

場面・状況の読み取り

文学的文章は、時・場所・登場する人物が変わる箇所に注目し、場面に分けながら読むとよい。場面を捉えることで、物語の展開や登場人物の心情の変化が読み取りやすくなる。

・いつ（時代、季節、時期、時刻）
・どこで（登場人物がいる場所、出来事が起きる場所）
・だれが（どんな人物が登場しているか）
・どうした（何をして、何があって、結果どうなったか）

また、場面が変わったときは、まずはその場面の状況を理解することが大切である。

・「いつ」「どこで」の出来事が描かれているか。
・「だれが」その場面に登場し、人物の設定や人物どうしの関係はどう描かれているか。

※「　」内の文（会話文）とそれ以外の文（地の文）で、登場人物の呼び方が異なる場合があるので整理しながら読む。登場人物が多い場合は相関図などを作りながら読み進めるとよい。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「植野さん」と同じ人物を指す本文中の言葉を選びなさい。

ア チヅル　**イ** お父さん　**ウ** エミ子

［　　］

(2) ——線②「ちゃんと、あったためたかい。」は誰の発言か。適当な人物を選びなさい。

ア チヅル　**イ** エミ子　**ウ** 木村さん

［　　］

(3) 本文で描かれている状況として適当なものを選びなさい。

ア チヅルは本文で描かれた場面の前日に、すて猫をみつけた。
イ エミ子は、猫を飼うために父を説得しようとしている。
ウ チヅルは、エミ子の様子が学校とは全くちがうと感じた。

［　　］

文学的文章　心情・人物像の捉え方

　黒のユニフォームを着た修は、教室に入るとたちまちみんなの人気者になった。男の子たちは、修の周りに集まり、さまざまな批評や感想を加えたが、修は気にならなかった。いち早く修の姿を見た広瀬先生が、母の作ったユニフォームと知って誉めてくれたからだった。女の子たちが自分のことを囁き合っているのも快かった。廊下ですれ違う上級生や先生たちも、みんな修を振り返り、何かと声をかける。修は［　　］だった。

【午後の体操の時間は学級対抗のソフトボール試合だった。修はその日も正選手の人数が足りなかったので、レフトについた。修はユニフォームを着た分、身がひきしまり、上手になった気がしたが、結果は散々だった。

　その試合でレフトに飛んで来たフライは五球もあったが、いずれも修はボールを捕れなかった。バッターに立っても打てず、三振とピッチャーゴロのノーヒットに終った。

　バッターボックスに立つたびに相手側から「黒バッタ」「黒バッタ」の野次が飛び、上ってしまったせいもある。広瀬先生がにこやかに励ましてくれたことだけが修には唯一の救いだった。

「ただいまッ」

　ランドセルを※上り框に放り投げると、洗濯物を畳んでいた母が心配顔で修を迎えた。

「オサム、どうだった？　ユニフォーム」

「みんな、びっくりしてた。すごいって」

「よかった。馬鹿にされたんじゃないかと思って心配してたわ」

　①母は眉根を開いた。

「みんなにからかわれたら、母さんが出てってやるからね」

「そんなことなかったよ」

　②修は「黒バッタ」とからかわれたことはいうまいと思った。折角、夜なべして母が作ってくれたユニフォームだ。

「みんな、いってたよ。格好いいって。母ちゃんにいって、おれみたいな黒のユニフォーム作ってもらうべって」

「そうかい、そうかい。友だちはみんなそういってたかい」

　母は顔をくしゃくしゃにし、目を細めた。修は嘘をつくのが少し後ろめたかったが、喜んでくれればいいやと思うのだった。】

（森詠『オサムの朝』集英社　による）

※上がり框…家のあがり口に取り付けられる横木。

例題

［　　］に当てはまる言葉として最も適当なものを選びなさい。

ア　一喜一憂　　イ　疑心暗鬼

ウ　冷静沈着　　エ　得意満面

〔　　〕

心情・人物像の読み取り

文学的文章では、
・きっかけとなる出来事が起こり、
・登場人物の心情が変化し、
・心情が言動や表情に表れる。

心情を捉えるためには次の内容に注目する。
①「誰の」心情か（主語）
②「誰・何に対する」心情か（対象）
③「どんな」心情か（心中）

心中は直接書かれるだけでなく、会話、動作、表情、情景描写に表れることも多い。

（例）目を丸くした。思わず体をのけぞらせた。
→驚きなど
進む先にはどんよりとしたくもり空が広がっていた。
→憂鬱など

また、登場人物ごとの人物像を理解しておくと、物語の展開が捉えやすい。
・人物の設定（年齢・性格・職業）
・人物がおかれた状況・境遇
・人物の価値観や考え
などに注目して読み進めるとよい。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)【　】の箇所を二つの場面に分け、後半の最初の三字を答えなさい。ただし、記号も一字に含む。

□□□

(2) ——線①「眉根を開いた」が表す心情を、直前の会話文を参考に選びなさい。

ア 安心した　**イ** 怒りがわいた　**ウ** 不安になった

〔　　〕

(3) ——線②「修は『黒バッタ』とからかわれたことはいうまいと思った」とあるが、なぜ修はこのように思ったのか。適当なものを選びなさい。

ア 自分がかいた恥を隠し、見栄を張ろうとしたから。
イ 自分を理解しようとしない母にあきれたから。
ウ 自分のために夜なべしてくれた母を思いやったから。

〔　　〕

文学的文章　表現・描写の捉え方

従兄弟の子どもたちが遊びにきたことがある。

三人姉弟で、一番上がわたしと同じ年だった。三人は大きい町に住んでいて、着ているものも雰囲気も、どことなく街のにおいがした。

【最初のうち、①三人とどうやって遊べばいいかわからなかった。三人が普段はどんな遊びをしているのかも知らなかった。といって、三人を無視してどこかに遊びに行く気にもならなかった。ひどく緊張したまま三人のそばでうろうろしていると、だんだん疲れてきた。そして、どうしてこの子たちはうちに来たんだろう、いつまでいるんだろうと、負けたような気持ちで思いはじめるのだった。】

それなのに、夜になる頃には、もう一緒に走りまわって遊んでいた。

その子たちは何日かうちに泊まり、そして帰る日はすぐに来た。

わたしは母と一緒に門のところでその子たちを見送った。その子たちは楽しそうにバス停に向かって歩いていくのに、わたしの胸の中には重いものがたちこめはじめる。それは黒い影のようなもので、じわじわと気持ちの中に広がった。

見送ってから家に入ると、家はそれまでとはまるで違ってしまっていた。誰もいない。②しんとして、空洞のようだった。

わたしは畳の上にごろんと転がった。つまらない気持ちがだんだん大きくなる。わたしだけがのけ者にされた感じ。わたしは畳の上をごろごろ転がりはじめた。襖のところまで転がって、また反対にごろごろ転がる。だんだん腹も立ってきた。なんだかむやみに誰かを蹴飛ばしたい気持ちだった。

（岩瀬成子『大きい家 小さい足』理論社 による）

表現・描写の特徴

文章は、表現や描写の仕方にさまざまな特徴がある。

●文体（文章の様式、スタイル）

・文末…常体「〜だ。〜である。」（硬い印象）
　　　　敬体「〜です。〜ます。」（やさしく語りかけるような印象）

・語句…和語（やわらかい語感）、漢語（硬い語感）、外来語（新鮮で軽快な語感）

●語り手…誰の視点で描かれるか。

・一人称…ある人物（「私」など）の視点から語る。

・三人称…第三者の視点から語る。

●表現技法

比喩（直喩・隠喩・擬人法）、体言止め、倒置、対句、反復、省略などの表現技法を用いて印象を強める。

●象徴や**情景描写**

象徴的なものや情景を通して人物の心情が描写されることがある。

例題

【　】の箇所の表現の仕方について、正しく述べているものを選びなさい。

ア　文末は敬体で、やさしく語りかけるように状況を述べている。
イ　「わたし」の緊張を、漢語を多用した硬い文体で表現している。
ウ　心情の変化を、思った内容もまじえながら細かく描いている。

〔　〕

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　本文の表現の仕方として、正しく述べているものを選びなさい。

ア　「わたし」の視点から、状況や心情が語られている。
イ　第三者の視点から、状況が写実的に描かれている。
ウ　「わたし」と三人姉弟それぞれの心情が述べられている。

〔　〕

(2)　――線①「三人とどうやって遊べばいいかわからなかった」とあるが、三人姉弟とどう接したらいいかわからない「わたし」の心情を、直喩を用いて表現している一文を探し、最初の三字を答えなさい。

(3)　――線②「しんとして、空洞のようだった」とあるが、この箇所の表現の仕方を正しく述べているものを選びなさい。

ア　直喩を用いて、人がいなくなった家の中の様子を表現している。
イ　倒置を用いて、緊張が解けた「わたし」の心情を強調している。
ウ　擬態語を用いて、「わたし」の怒りを象徴的に描いている。

〔　〕

(4)　本文の表現の特徴として正しいものを選びなさい。

ア　登場人物の交流の様子を、会話文を通じて描いている。
イ　比喩を用いて、「わたし」の心情を印象的に描いている。
ウ　登場人物が次第に打ち解けていく様子を細かく描いている。

〔　〕

文学的文章　主題の捉え方

　校内は※森閑としている。全校生徒は、一時間だけで帰った。二時間目があったのは、研究授業のあった耕作たちの級だけだった。どこかの一室で、研究授業の批評会がはじまっているのだろうが、耕作たちの部屋までは聞えない。
　罰当番の井上権太に手伝って、耕作は手早く箒を使っている。近くで、さっきから郭公がしきりに啼いている。床を掃きながら、耕作は内心びくびくしていた。いつ先生が現れるかわからない。手伝っているのを見つけられたら、何と言って叱られるだろう。先生は権太に一人でやれと言ったのだ。耕作も、井上権太も共に叱られるにちがいない。
　先程、級長の若浜が、
「先生に言ってやるぞ。叱られるぞ、お前も」
と言った。その時は、
「叱られてもいい」
と、大みえを切った。が、やっぱり叱られるのはいやだ。
　机を並べ終って、権太がバケツを持ち、水を替えに行こうとした。
「権ちゃん、今日は机拭きやめておこうや。二時間しかなかったから、そんなに汚れていないよ」
　権太は黙って、耕作の顔を見た。
「拭き掃除しなくてもわからんよ」
「耕ちゃん、わかってもわからんくても、することだけはするべ」
にこっと笑って、権太はバケツの水を取替えに行った。
（わかってもわからんくても、することだけはするべ？）
　権太の言った言葉を、耕作は胸の中でくり返した。ひどく恥ずかしい気がした。

（三浦綾子『泥流地帯』新潮社　による）

※森閑…物音が聞こえず、ひっそりと静まりかえっているさま。

主題の読み取り

　作者が文章を通じて表現しようとしている中心的な内容を主題という。物語の主題を捉えるには、次の点に注目するとよい。
・人物を通して描かれる価値観や考え、人物の心情の変化や成長。
・出来事の展開、各場面における人物の行動。
・作品の状況設定、時代背景。

例題

本文で中心的に描かれている内容として正しいものを選びなさい。

ア 先生に叱られるかもしれないのに、生真面目に机の拭き掃除までしようとする権太に対していらだつ耕作の心情。
イ 先生に叱られると級長から指摘されても、罰当番の権太を手伝い、正しいことを堂々とやろうとする耕作の心情。
ウ 先生に叱られるのをおそれて掃除をいい加減に済ませようとしたが、権太の言葉に自分を恥ずかしく感じた耕作の心情。

〔　　〕

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中で心情の変化が描かれている人物を選びなさい。

ア 耕作　**イ** 権太　**ウ** 先生　**エ** 若浜

〔　　〕

(2) ――線部「大みえを切った」とあるが、「大みえを切る」の意味を選びなさい。

ア ほかのことに気を取られ、あいまいに答える。
イ 怒りをあらわにして、ののしる。
ウ 大げさに自信があるような態度をとる。

〔　　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 耕作は権太に掃除を手伝ってもらったので、先生に叱られないかとおそれた。
イ 若浜の言葉に反発した耕作は、たとえ叱られようと権太を手伝うことにした。
ウ 権太は、人がわかるかどうかにかかわらず、机の拭き掃除をしようとした。

〔　　〕

随筆 話題の読み取り／事実と意見・感想の見分け方

私が住んでいる北海道には梅雨の季節がない。

そのため東京方面に住む友人知人から、梅雨どきのうんざりする日々について聞かされても、いまひとつピンとこなかった。

「暑さがそれほどでない日でも、湿度が高いから、じとっと肌が不快に汗ばんでくるのよ」

「押し入れを閉めきっておくと、なかにカビがはえちゃうわけ」

「除湿器はこの時期の必需品なのね」

友人たちがかように嘆く梅雨どき、それとは反対に北海道は、カラッと晴れわたった爽快な初夏を迎えるものだから、ますます①梅雨のうっとうしさが想像しにくくなってしまう。

北海道には梅雨がない、と乱暴に言いきったけれど、蝦夷梅雨なる言葉はあるらしい。短歌や俳句に使われる季語で、東京方面の梅雨と区別するためだとか。蝦夷梅雨の時期は六月の末頃、と※ものの本に書かれてあり、そう言われれば六月の下旬はわりあいと雨がぱらつくな、とあらためて気づかされた。ようやく気づくぐらいの雨量であり、しかも湿気はほとんど感じないのだから、やはり、これは東京方面で言うところの梅雨にはあてはまらないだろう。

A 三十代も後半になって、はじめて梅雨の季節を体験した。②梅雨のまっただなかにあるその時期に、所用で東京へでかけたのである。本当に友人知人がこぞって嘆いていたとおりだった。暑いというよりも、むしろ肌寒いぐらいの日でも肌が不思議と汗ばんでくる。妙にしつこくて、キレの悪い、べとつく汗だった。冷や汗に近いな、と私は思ったものである。また空気全体に息苦しさを感じた。空気中の酸素がたりないような、吸っても吸っても肺に空気が流れこんでこないような……。

B しかし私はひそかに感動もしていた。ああ、これが梅雨なのか、こういうのが梅雨というのか。なるほど、そうだったのか。が、感動は口にはだせなかった。東京在住の友人たちが、わざわざ梅雨どきめがけてやってきた私に、いたく同情してくれたからだ。

「よりにもよって、こんな時期に札幌からくるなんて大変だったでしょう。体調をくずさないようにね」

口々に慰めてくれるのだから、梅雨の初体験にバンザイ、などという本心は言えるものではない。

（藤堂志津子『陽だまりの午後』朝日新聞社 所収「梅雨と吹雪」による）

※ものの本……その方面のことが書かれている本。

例題

本文中のA・Bの2つの段落のうち、友人たちとは対照的な、梅雨に対する筆者の感想が述べられているものを選び、記号で答えなさい。

［　　］

話題の読み取り／事実と意見・感想の区別

筆者の体験・見聞・感想などを、筆に任せて自由な形式で書いた文章を**随筆**（ずいひつ）という。随筆には、体験などを文学的に描（えが）いたもの、筆者の見方・考え方を説明的に述べたものなどさまざまな形式がある。

	話題	内容
文学的随筆	季節・自然・旅・日常・家族　など	体験や、それに対する感想・思いなど。
説明的随筆	言語・社会・科学・読書・生き方　など	ものの見方や筆者の考えなど。

随筆は、次の点に注意して読み進めるとよい。

①**話題**を捉（とら）える。
　題や、繰（く）り返し使われる語句に注目する。

②**事実**と**意見**・**感想**を区別する。
・事実………筆者の体験や見聞など。
・意見・感想…経験や見聞に対する筆者の思い・考え。
※意見・感想を表す文末表現
　（例）…と思う。…と感じる。…だろう。…べきだ。

③**主題**（筆者が特に伝えたい内容）を捉える。
※意見・感想の部分に描かれていることが多い。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「梅雨のうっとうしさ」を筆者が実感したことが描かれているのは、本文中の**A**・**B**の２つの段落のうちどちらか。記号で答えなさい。
〔　　　〕

(2) ――線②「梅雨のまっただなかに……でかけたのである。」の一文は、事実と意見・感想のどちらを表したものか。事実なら**ア**、意見・感想なら**イ**で答えなさい。
〔　　　〕

(3) 本文で中心的に描かれている内容として適当なものを選びなさい。
ア　北海道特有の梅雨の時期の過ごし方。
イ　初めて体験した梅雨に対する筆者の感動。
ウ　筆者に対する友人たちの心づかい。
〔　　　〕

随筆　筆者の見方・考え方の読み取り

私は菜の花が好きだ。春さきになると、花屋から求めてきた菜の花を、居間といわず書斎といわず花瓶にいっぱい活けて、その黄の花とみどりの葉をあくこともなくながめるのである。菜の花を見ていると、なにかしら春のいのちというようなものにじかに触れるような思いがし、みずからの内面に活気があふれてくるような思いがするのでもある。

小学校の三年か四年ころ歌った唱歌に「道をはさんで畑一面に、麦はほが出る菜は花盛り」というのがあったし、六年のころに歌ったものに「菜の　花畑に　入日薄れ、見わたす　山のは、かすみ深し」というのがあった。どの歌もいなかの風物を歌ったものであるから、いなかの小学生の私たちには、まるで自分たちの環境を歌ってくれているような気がして、楽しく歌ったものであった。学校のゆきかえりの道は、まったくいちめんの菜の花畑で、春の日ざしにぎらぎらと光るその花群は、まるで黄の油のようで、まぶしいばかりであった。さらにその強烈なにおいは、少年の胸をはずませるのであった。菜の花などを折りとって花瓶に活けるなどということは、そのころ考えてもみなかった。そんな必要はなかったのだ。窓をあけると、いつでもその花は眼前に光っていたからである。（中略）

郷里をはなれて都会生活をするようになって、もう菜の花畑を見ることがなくなったので、せめてもの思いに、その花を活けて楽しむということになったわけだ。さきに活気を与える花だといったが、実はその裏にはまた、たちがたい※郷愁がひそんでいるわけなのである。

（木俣修『抒情巡礼』家の光協会　所収「菜の花」による）

※郷愁…異郷にいて、故郷を懐かしく思う気持ち。

筆者の見方・考え方と主題

随筆に表れる筆者特有の見方や考え方を捉えると、**主題**が読み取りやすくなる。

①文章の題や、繰り返し使われる語句などに注目し、**話題**を読み取る。

②話題に対する**筆者の意見・感想**を読み取る。

③**筆者特有の思い・考え**を捉える。

※特に、表現技法や印象的な描写が使われている箇所、筆者特有の視点が表れている箇所に注目する。

例題

本文の内容に合うように、解答欄に当てはまる言葉を本文中より探し、書きぬきなさい。

「私」は、菜の花が活気を与えてくれるように感じ、春さきには花瓶に活けて菜の花をながめているが、その裏には［　　］に対するなつかしさがひそんでいる。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中の三つの形式段落の中で、過去のことを中心に描（えが）いた段落を一つ選び、その最初の三字を答えなさい。

□□□

(2) 筆者が少年時代に見た一面の菜の花の姿を、直喩（ちょくゆ）を用いて描いている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

□□□□□

(3) ――線部「さきに活気を与える花だといった」とあるが、これは本文中のどの箇所（かしょ）を指しているか。一文で探し、その最初の五字を答えなさい。

□□□□□

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 春さきになると、筆者は菜の花畑から折りとった菜の花を活け、あくことなくながめている。

イ 菜の花畑が広がるいなかで過ごした筆者は、少年時代いつでも菜の花を活けてはながめていた。

ウ 都会生活で菜の花畑を見ることができなくなった筆者は、代わりに菜の花を活けて楽しむようになった。

〔　　〕

いろは歌 (1)

古典の仮名遣(づか)い

古典の文章は、主に平安時代中頃(ごろ)以前の日本語の発音をもとにした仮名で書かれており、これを**歴史的仮名遣い**という。これに対して、現代の仮名の書き表し方を**現代仮名遣い**という。

（例　歴史的仮名遣い　→　現代仮名遣い）
　あふぎ（扇）　→　おうぎ

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときは、次の規則がある。

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
（例）あはれ→あわれ　いふ→いう
※語頭のハ行はそのまま。
（例）ふみ（文）→ふみ
※助詞「は」「へ」などもそのまま。
（例）花の色は→花の色は

②「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」
（例）ゐる→いる　こゑ→こえ　をとこ→おとこ
※助詞「を」などはそのまま。
（例）それを見れば→それを見れば

③「ぢ・づ」→「じ・ず」
（例）なんぢ→なんじ　いづれ→いずれ

④「くわ・ぐわ」→「か・が」
（例）くわじ（火事）→かじ　きぐわん（祈願）→きがん

⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「ん・なん」
（例）あはむ（逢はむ）→あわん　竹なむ→竹なん

⑥母音(ぼいん)（a・i・u・e・o）が連続するとき
・**au**（ア段＋う・ふ）→ **ô**
（例）やうす（様子）→ようす
・**iu**（イ段＋う・ふ）→ **yû**
（例）うつくしう（美しう）→うつくしゅう
・**eu**（エ段＋う・ふ）→ **yô**
（例）けふ（今日）→きょう

確認テスト

(1) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、**ひらがな**で答えなさい。

にほへど

〔　　　〕

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、**ひらがな**で答えなさい。

ゑひ

〔　　　〕

(3) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したものとして、適当なものを選びなさい。

ア ほのかに → おのかに
イ 秋は夕暮れ → 秋わ夕暮れ
ウ 泣きゐたる → 泣きいたる
エ 竹を取り → 竹お取り

〔　　　〕

(4) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したものとして、**適当でない**ものを選びなさい。

ア うるはし → うるあし
イ をかし → おかし
ウ よろづ → よろず
エ にんぐわつ → にんがつ

〔　　　〕

(5) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、**ひらがな**で答えなさい。

やうやう

〔　　　〕

いろは歌 (2)

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゐのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

①色はにほ(オ)へ(エ)ど
散りぬるを
②我(わ)が世たれぞ
常ならむ(ン)
※有為(うゐ)(イ)の奥山(おくやま)
今日(けふ)(キョウ)越(こ)えて
浅き夢見じ
酔(ゑ)(エ)ひ(イ)もせず

※有為…因縁によって生じるすべての現象・存在で、絶えず生じては滅しており、無常なもの。

いろは歌

いろは歌は、四十七の仮名文字を一回ずつ使って作られた七五調の歌。平安時代に成立したとされており、作者は不明。平安時代中期から流行した、七音・五音を四回繰(く)り返す、**今様**(いまよう)とよばれる形式になっている。古くから仮名を学ぶ手本として、また、物の順序を示すためのものとして用いられてきた。

確認テスト　「いろは歌」を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の**ア**～**エ**を、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア　いろはにほへと　　**イ**　ちりぬるを
ウ　つねならむ　　**エ**　わかよたれそ

〔　→　→　→　〕

(2) 次の**ア**～**エ**を、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア　あさきゆめみし　　**イ**　うゐのおくやま
ウ　けふこえて　　**エ**　ゑひもせす

〔　→　→　→　〕

(3) ――線①「色はにほへど」の意味を選びなさい。

ア　花の色は強い香りがしても
イ　花の色は美しく照り映(は)えていても
ウ　花はさまざまな香りがあるけれど
エ　花はさまざまな色があるけれど

〔　〕

(4) ――線②「我が世たれぞ／常ならむ」の意味を選びなさい。

ア　私たちの世の中は、すべてが日常である。
イ　私たちの世の中は、変わることがないのである。
ウ　私たち、この世の誰(だれ)もが永久に変わらないのである。
エ　私たち、この世の誰が永久に変わらないことがあろうか。

〔　〕

『竹取物語』の基礎知識

『竹取物語』は**平安時代**の初め頃に成立した物語。作者はわかっていないが、当時知られていた伝承をもとにつくられたと考えられている。

現存する日本最古の物語といわれ、『源氏物語』の中では、**「物語の出で来はじめの祖」**と述べられている。

『竹取物語』は、竹取の翁（さぬきの造）とかぐや姫（なよ竹のかぐや姫）を中心に、次の流れで話が展開する。

- **かぐや姫の生い立ち**

竹取の翁が竹の中からかぐや姫を見つけ、翁と嫗は姫を育てる。

- **五人の貴公子の求婚**

石作の皇子、くらもちの皇子、右大臣・阿倍御主人、大納言・大伴御行、中納言・石上麿足の五人の貴公子がかぐや姫に求婚するが、姫は五人に難題を出す。

- **帝からの求婚**

帝はかぐや姫を宮中に召そうとされるが、かぐや姫は応じない。かぐや姫と帝は歌や手紙を交わす。

- **かぐや姫の昇天**

かぐや姫は自身が月の都の者であることを明かし、翁や帝が引き止めようとする中、天人とともに月へと昇っていく。

古文の特色

●歴史的仮名遣い

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「**わ・い・う・え・お**」
※語頭のハ行や、助詞「は」「へ」などはそのまま。

②「ゐ・ゑ・を」→「**い・え・お**」 ※助詞「を」などはそのまま。

③「ぢ・づ」→「**じ・ず**」

④「くわ・ぐわ」→「**か・が**」

⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「**ん・なん**」

⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき

- au（ア段＋う・ふ）→ **ô**
- iu（イ段＋う・ふ）→ **yû**
- eu（エ段＋う・ふ）→ **yô**

●古文の文末表現

古文には、現代では見られない文末の表現がある。

「〜けり（〜た、〜たそうだ）」・「〜たり（〜た、〜ている）」

「〜なり（〜だ、〜である）」・「〜ぬ（〜た、〜てしまった）」

●古文の語句

古文には、「いと（とても）」のように、現代では使われなくなった語句や、「うつくし（かわいらしい）」のように、現代と意味が異なる語句が見られる。

確認テスト

(1) 『竹取物語』が成立した時代を選びなさい。

ア 平安時代　**イ** 鎌倉（かまくら）時代　**ウ** 室町（むろまち）時代

〔　　〕

(2) 『竹取物語』の展開に沿って、次の**ア**〜**エ**を並べかえなさい。

ア かぐや姫と帝は、歌や手紙を交わした。
イ かぐや姫は天人とともに月へと昇っていった。
ウ 求婚する五人の貴公子に、かぐや姫は難題を出した。
エ 竹取の翁は竹の中からかぐや姫を見つけた。

〔　　→　　→　　→　　〕

(3) 次の文の（　　）に当てはまる仮名を答えなさい。

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すとき、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「（①）・い・（②）・え・お」になる。

①〔　　〕　②〔　　〕

(4) 次の古文の表現の意味として最も適当なものを選びなさい。

使ひけり。

ア 使われる。（お使いになる。）
イ 使った。（使ったそうだ。）
ウ 使うだろう。（使うつもりだ。）
エ 使うのだ。（使うのである。）

〔　　〕

『竹取物語』冒頭

今は昔、竹取の翁といふ(ウ)者ありけり。
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(ズ)のことに使ひ(イ)けり。
分け入って 取っては、 いろいろなことに

名をば、さぬきの造となむいひける。
名を、「さぬきの造」といった。

その竹の中に、もと光る竹なむ(ン)一筋ありける。
(ある日)その竹の中に、根元の光る竹が 一本あった。

①あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
近寄って見ると、 光っている。

それを見れば、※三寸ばかりなる人、②いとうつくしうてゐたり。
三寸ほどである人が、 座っている。

翁言ふ(ウ)やう(ヨウ)、
翁が言うことには、

「我、朝ごと夕ごとに見る竹の中におはする(ワ)にて知りぬ。
「私が毎朝、毎晩見る竹の中にいらっしゃるのでわかりました。

子になりたまふ(ウ)べき人なめり。」とて、
(私の)子におなりになるはずの人のようです。」と言って、

手にうち入れて、家へ持ちて来ぬ。妻の嫗に預けて養は(ワ)す。
手(のひら)に入れて、 任せて育てさせる。

うつくしきこと、限りなし。いと幼ければ、籠に入れて養ふ(ウ)。
この上ない。 たいそう幼いので、 籠に入れて育てる。

その後、翁はたびたび黄金の入った竹を見つけるようになり、次第に裕福になっていきました。翁と嫗に育てられた子は三か月ほどで美しい娘に成長し、「※なよ竹のかぐや姫」と名づけられました。

※三寸…一寸は約三センチメートル。三寸はここではきわめて小さいという意味で用いられている。
なよ竹…細くてしなやかな若い竹。

古文の読み方

古文では、主語や助詞などがなかったり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むとよい。

(例)…竹取の翁といふ者〈が〉ありけり。〈竹取の翁は〉野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろ・全ての事
あやしがる	不思議に思う
いと	とても・たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る・いる
おはす	いらっしゃる
……たまふ	お……になる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さぬきの造となむいひける

さぬきの造と〔　　　〕

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

いとうつくしうてゐたり

いと〔　　　〕

(3) ――線①「あやしがりて」の意味を選びなさい。

ア 美しく思って　**イ** 恐ろしく思って

ウ 不気味に思って　**エ** 不思議に思って

〔　　　〕

(4) ――線②「いとうつくしうて」の意味を選びなさい。

ア ちょっときれいな様子で

イ とてもかわいらしい様子で

ウ わずらわしく思っている様子で

〔　　　〕

蓬莱の玉の枝

かぐや姫の美しさは評判となり、多くの人がかぐや姫のもとを訪れるようになりました。このなかで、いつまでも求婚をつづける五人の貴公子に対し、かぐや姫は難題を出します。貴公子の一人で、※蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子は、ひそかににせの玉の枝を作らせ、翁の家を訪れました。次の文章は、くらもちの皇子が語った架空の冒険談です。

船の行くにまかせて、海にただよひ(イ)て、五百日といふ(ウ)
船が行くのにまかせて、　五百日目という（日の）

※辰の時ばかりに、海のなかに、はつかに山見ゆ。（中略）
辰の時頃に、　かすかに山が見える。

海の上にただよへ(エ)る山、いと大(オ)きにてあり。その山のさま、
たいそう大きなものである。その山の様子は、

高くうるはし(ワ)。これや我が求むる山ならむ(ン)と思ひ(イ)て、
これこそ私が求めている山であろうと　思って、

さすがに恐ろしくおぼえて、①山のめぐりをさしめぐらして、
そうはいってもやはり恐ろしく思われて、山の周囲を　こぎ回らせて、

二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしたる女、
見て回っていると、天人の服装をしている女が、

山の中よりいで来て、銀の金鋺を持ちて、水をくみ歩く。
出て来て、　銀のおわんを

これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ(ウ)。
何と申しますか。

女、答へ(エ)ていは(ワ)く、「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ(ウ)。
答えて言うことには、

これを聞くに、②うれしきこと限りなし。
うれしいことこの上ない。

※蓬莱…蓬莱山。古代中国の伝説で、東海の中にあり仙人が住むという。かぐや姫は、この山に立っているという玉（宝玉）の実がなる木の枝を持ってくるよう求めた。

辰の時…午前八時頃。

重要語句

さすがに	そうはいってもやはり
おぼゆ	思われる・感じる
いはく	言うことには

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い（づかい）に直し、ひらがなで答えなさい。

よそほひ

〔　　　〕

(2) ——線①「山のめぐりを……見歩く」とあるが、なぜ山の周囲を見て回っていたのか。適当なものを選びなさい。

ア 山がたいへん高く、美しかったから。
イ 山が恐ろしく思われたから。
ウ 山が蓬萊の山ではないと思ったから。
エ 山にいる天人の姿が見えなかったから。

〔　　　〕

(3) ——線②「うれしきこと限りなし」とあるが、なぜうれしかったのか。適当なものを選びなさい。

ア 天人に会うことができたから。
イ 着いた山が探し求めていた山だったから。
ウ ようやく船から下りることができたから。

〔　　　〕

(4) 次の本文中の言葉の中から、「天人のよそほひしたる女」の行動ではないものを選びなさい。

ア 山の中よりいで来て
イ 銀の金鋺を持ちて
ウ 船より下りて

〔　　　〕

蓬莱の玉の枝

かぐや姫から蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子は、にせの玉の枝を作らせ、翁の家で架空の冒険談を語っています。

その山、見るに、①さらに登るべきやうなし。
その（蓬莱の）山は、

その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。
斜面の裾をめぐっていくと、この世にはない花の木々が立っている。

金、銀、瑠璃色の水、山より流れいでたり。
流れ出ている。

それには、色々の玉の橋渡せり。
それ（その水の流れ）には、さまざまな色の玉でできた橋が渡してある。

そのあたりに、照り輝く木ども立てり。
その近くに、

その中に、この取りてまうで来たりしは、
その中で、ここに取ってまいりましたのは、

いとわろかりしかども、②のたまひ(イ)しに違は(ワ)ましかばと、
たいへん見劣りするものでしたが、

この花を折りてまうで来たるなり。
この花を折ってまいったのです。

このように蓬莱の玉の枝について語っていたくらもちの皇子でしたが、そこへ玉の枝を作った職人たちが褒美を求めてやってきたため、うそがばれてしまいました。

古文の読み方

古文では主語や助詞以外にも言葉が省略されていることがある。文脈を考えて、省略されている内容を補いながら読むとよい。

（例）……違はましかばと、……
違っていては（いけないだろう）と（思って）、

重要語句

さらに……（なし）	決して・全く……（ない）
わろし	よくない・見劣りする
のたまふ	おっしゃる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い(づか)に直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さらに登るべきやうなし

さらに登るべき［　　　　］

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

まうで来たるなり

［　　　　］来たるなり

(3) ――線①「さらに登るべきやうなし」の意味を選びなさい。

ア これ以上登るべきではない
イ そのままでは登る必要がない
ウ 全く登りようがない

［　　］

(4) ――線②「のたまひしに違はましかばと」の意味を選びなさい。

ア いただいたものとは違わないだろうと思って
イ おっしゃったものと違っていてはいけないだろうと思って
ウ 申し上げたものと違っているほうがよいだろうと思って

［　　］

(5) 次の中から、くらもちの皇子が語った内容に合うものを選びなさい。

ア 山の頂上には、照り輝く木が立っていた。
イ 金・銀・瑠璃色の水には、玉の橋が渡してあった。
ウ くらもちの皇子は最も美しい花を持ってきた。

［　　］

かぐや姫の昇天

帝もたびたびかぐや姫を宮中に迎えようとされましたが、かぐや姫は応じません。やがてかぐや姫は月を見ては嘆き悲しむようになり、翁と嫗に、自分は月の都の者で、次の十五日に月からの迎えが来ると打ち明けます。※八月十五日の夜、帝は二千人の兵士を遣わし、翁の家を守らせていました。

かかるほどに、宵うちすぎて、※子の時ばかりに、
こうしているうちに、宵も過ぎて、子の時頃に、

家のあたり、昼の明さにも過ぎて、光りたり。
家の周囲が、昼の明るさ以上に、光った。

望月の明さを十合せたるばかりにて、
満月の明るさを十も合わせたほど（の明るさ）で、

ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。

大空より、人、雲に乗りて下り来て、

土より※五尺ばかり上がりたるほどに立ち連ねたり。
地面から五尺ほど上がったくらい（の高さ）に　立ち並んでいる。

内外なる人の心ども、物におそはるるやうにて、
（家の）内や外にいる人たちの心は、もののけに襲われたようになって、

あひ戦はむ心もなかりけり。
戦おうとする心も　なくなってしまった。

泣いて嘆く翁に、かぐや姫は手紙を書き、別れを告げます。天人はかぐや姫に天の羽衣を着せようとしました。

そのときに、かぐや姫、「しばし待て。」と言ふ。

「衣着せつる人は、心異になるなりといふ。
天の羽衣を着せた人は、心が（地上の人間とは）異なってしまうのだという。

物一言、言ひおくべきことありけり。」と言ひて、文書く。
（その前に）一言、言っておかねばならないことがありました。

天人、「遅し。」と心もとながりたまふ。
じれったくいらいらなさる。

かぐや姫、「物知らぬこと、なのたまひそ。」とて、
ものをわきまえないことを、　と言って、

いみじく静かに、朝廷に御文奉りたまふ。あわてぬさまなり。
たいへん　帝に手紙を差し上げなさる。　あわてない（落ち着いた）様子である。

※八月十五日…旧暦八月十五日は中秋の名月の日。　子の時…夜中十二時頃。
五尺…一尺は約三〇・三センチメートル。

重要語句

な……そ	……するな
いみじ	はなはだしい・たいへん

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣(づか)いに直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

物におそはるるやうにて

物に［　　　］

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

あひ戦はむ心もなかりけり

［　　　］戦［　　　］心もなかりけり

(3) ――線部「なのたまひそ」の意味を選びなさい。

ア なにかおっしゃいましたよ
イ なぜおっしゃるのですか
ウ おっしゃらないでください

［　　　］

(4) 次の中から、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 家の周囲にいた人たちは、物を使って天人と戦った。
イ 家の周囲にいた人たちは、羽衣を着て戦う心がなくなった。
ウ かぐや姫は、周囲の人の心が変わる前に手紙を書こうとした。
エ かぐや姫は、帝への手紙をあわてず静かにしたためた。

［　　　］

かぐや姫の昇天

かぐや姫は、手紙に不死の薬の入った壺を添えて、帝の側近の頭中将に託します。

中将取りつれば、ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、

中将が（手紙と壺を）受け取ったので、（天人が）さっと天の羽衣を着せて差し上げたところ、

翁を、①いとほし(オ)、かなし、と思しつることも失せぬ。

気の毒だ、ふびんだ、とお思いになっていたことも消え失せてしまった。

この衣着つる人は、物思ひ(イ)なくなりにければ、車に乗りて、

この衣を着た人（かぐや姫）は、物思いがなくなってしまったので、（天の）車に乗って、

②百人ばかり天人具して、昇りぬ。

（天に）昇ってしまった。

その後、翁、嫗、血の涙を流して惑へ(エ)ど、かひ(イ)なし。

悲しみ心が乱れるけれど、どうにもならない。

その後、中将は帝に不死の薬の壺と手紙を献上しました。しかし、帝は、かぐや姫に会うこともないのに不死の薬など何の役に立とうかと、※駿河の国にあるという天に近い山の山頂に、不死の薬の壺を持っていくよう使者にお命じになりました。

峰にてすべきやう(ヨウ)教へ(エ)させたまふ(ウ)。御文(オ)、不死の薬の壺並べて、

峰（山頂）にてなすべきやり方をお教えになる。手紙、

火をつけて燃やすべきよし仰せ(オ)たまふ(ウ)。

燃やすべき旨をご命令になる。

そのよしうけたまはり(ワ)て、士(ワ)ども③あまた具して

（帝の使者が）その旨を承って、兵士たちを引き連れて

山へ登りけるよりなむ(ン)、その山を「ふじの山」とは名づけける。

山へ登ったことから、名付けたのである。

その煙、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、言ひ(イ)伝へ(エ)たる。

いまだに 言い伝えている。

※駿河の国…現在の静岡県中央部。

重要語句

いとほし	かわいそうだ・気の毒だ
思す	お思いになる
具す	引き連れる
仰す	言いつける・命じる
あまた	数多く・たくさん

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「いとほし、かなし」とは、誰のどのような心情か。適当なものを選びなさい。

ア 翁の、かぐや姫がいとしいと思う心情。
イ 天人の、かぐや姫がかわいそうだと思う心情。
ウ 中将の、翁がふびんで悲しいと思う心情。
エ かぐや姫の、翁が気の毒でつらく思う心情。

〔　　〕

(2) ――線②「百人ばかり天人具して」が表す意味となるように、次の（　）に補う語として最も適当なものを選びなさい。

百人ほど天人（　）引き連れて

ア が　**イ** を　**ウ** に　**エ** と

〔　　〕

(3) ――線③「あまた」の意味を選びなさい。

ア たくさん　**イ** 残りの　**ウ** 再び

〔　　〕

(4) 次の中から、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 中将は天の羽衣を取って、かぐや姫に着せて差し上げた。
イ かぐや姫は、嘆き悲しみながら月に昇っていった。
ウ 帝は峰で手紙と不死の薬の壺を燃やすようご命令になった。
エ 兵士たちは帝のご命令を承って、山の名を定めた。

〔　　〕

故事成語—矛盾・蛇足(1)

故事成語

昔の出来事（故事）がもととなってできた言葉を**故事成語**という。故事成語の多くは、中国の古典に記された話がもととなっている。

（例）

・**五十歩百歩**

意味　わずかな違いはあるが、本質的には同じであること。

由来　五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うのは、逃げたことに変わりはないのでおかしいというたとえ話から。（『孟子』）

・**背水の陣**

意味　一歩も引くことができない立場で、全力で事に当たること。

由来　漢の将軍・韓信が、あえて川を背にして陣をしき、兵に決死の覚悟で戦わせて敵を破ったという故事から。（『史記』）

・**四面楚歌**

意味　周囲を敵に囲まれ、孤立すること。

由来　楚の項羽が漢の劉邦の軍に包囲されたとき、夜、四方の漢軍から楚の歌が聞こえた。項羽は驚き、既に楚の人々が漢に降伏したのだと思い嘆いたという故事から。（『史記』）

・**推敲**

意味　詩や文章の表現を何度も練り直すこと。

由来　唐の詩人・賈島が「僧推月下門」という句の「推す」を「敲く」に改めるべきか悩んでいたところ、都の長官である韓愈の行列にぶつかってしまった。わけを話すと、韓愈は「敲く」がよいと助言したという故事から。（『唐詩紀事』）

矛盾

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰は（ワ）く、

楚の国の人で、盾と矛とを売る者がいた。（その人が）盾をほめて言うことには、

「吾が盾の堅きこと、①能く陥す（トオ）もの莫きなり。」と。

私の盾の堅いことといったら、

又、其の矛を誉めて曰は（ワ）く、

「吾が矛の利なること、物に於いて②陥（トオ）さざる無きなり。」と。

私の矛の鋭い（鋭利な）ことといったら、物で突き通せないものはない、と。

或るひと曰は（ワ）く、

「③子の矛を以（モッ）て、子の盾を陥（トオ）さば、何如。」と。

④其の人、応ふ（ウ）ること能は（ワ）ざるなり。

答えることができなかった。

（『韓非子』）

『韓非子』と「矛盾」

『韓非子』は今から二千年以上前の中国の戦国時代の思想家・韓非の言説をまとめたもの。韓非は「矛盾」のたとえ話をもとに、孔子が堯と舜という二人の天子をともに聖人としたことを批判している。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「能く陥すもの莫きなり」の意味を選びなさい。

ア (これを)突き通せるものはない
イ (これを)突き通せないものはない
ウ (これを)あまり突き通すものはない
エ (これを)あまり突き通さないものはない

〔　　〕

(2) ――線②「陥さざる無きなり」と同じ意味を表すものを選びなさい。

ア 何も突き通せない
イ 何でも突き通せる
ウ 何かは突き通せるだろう

〔　　〕

(3) ――線③「子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如」の意味を選びなさい。

ア 子どもの矛で子どもの盾を突き通してはならない
イ 子どもの矛で子どもの盾を突き通すとどうなるのか
ウ あなたの矛であなたの盾を突き通してはならない
エ あなたの矛であなたの盾を突き通すとどうなるのか

〔　　〕

(4) ――線④「其の人」と同じ人物を指す本文中の言葉を次から選びなさい。

ア 盾と矛とを鬻ぐ者　　イ 或るひと

〔　　〕

(5) 次のA～Dの故事成語の意味を、それぞれ選びなさい。

A 矛盾〔　　〕　B 蛇足〔　　〕
C 四面楚歌〔　　〕　D 推敲〔　　〕

ア 周囲を敵に囲まれ、孤立すること。
イ 詩や文章の表現を何度も練り直すこと。
ウ あっても益がない、余計なもの。
エ つじつまが合わないこと。

蛇足

楚に祠る者有り。其の舎人に卮酒を賜ふ。
楚の国に祭りをつかさどる者がいた。（その人が）自分の従者たちに大杯の酒をふるまった。

舎人相謂ひて曰はく、
従者たちが相談し合って言うことには、

「数人之を飲まば足らず、一人にて之を飲まば余り有り。
数人でこれを飲めば足りず、一人でこれを飲めばあまりあるほどだ。

請ふ地に画きて蛇を為し、先づ成らん者酒を飲まん。」と。
地面に蛇を描き、最初に描き上げた者が酒を飲むことにしよう

一人、蛇先づ成る。酒を引きて①且に之を飲まんとす。
酒を引き寄せ

乃ち左手に卮を持ち、右手に蛇を画きて曰はく、
そして左手に杯を持ち、右手で蛇を描いて言うことには、

「吾能く之が足を為さん。」と。
おれは足を描くこともできるぞ

未だ成らざるに、一人の蛇成る。其の卮を奪ひて曰はく、
まだ足を描き終わらないうちに、（他の）一人の蛇ができた。

「蛇固より足無し。子②安くんぞ能く之が足を為さん。」と。
蛇はもともと足は無い。あなたはどうして蛇の足を描くことができようか。

遂に其の酒を飲む。蛇足を為す者、終に其の酒を亡へり。
そのままその酒を飲んでしまった。

（『戦国策』）

『戦国策』と「蛇足」

『戦国策』は中国の戦国時代の策略を国別に収めた書。「蛇足」は、陳軫という人物が、魏に勝利しさらに斉へ攻め込もうとする楚の将・昭陽を思いとどまらせるためにしたたとえ話である。

重要語句

曰はく	言うことには
能く……	……することができる
未だ……（ず）	まだ……（ない）
子	①子ども　②男性の尊称　③あなた
安くんぞ……	どうして……か（いや、……ない）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　——線①「且に之を飲まんとす」の意味を選びなさい。

ア　今にも酒を飲もうとした

イ　そのまま酒を飲みだした

ウ　酒をすっかり飲んでしまった

〔　　〕

(2)　——線②「安くんぞ能く之が足を為さん」とあるが、これは何を言おうとしているのか。適当なものを選びなさい。

ア　蛇の足は描くのが難しいということ。

イ　蛇の足を描けるとはすばらしいということ。

ウ　蛇の足など描けるはずがないということ。

〔　　〕

(3)　本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　ふるまわれた酒は、数人で飲んでもあまりあるほどだった。

イ　最初に蛇を描き上げた者は、酒を飲むことができなかった。

ウ　蛇足を描いた者は、他の者から酒の杯を奪い取った。

〔　　〕

(4)　次のA～Dの故事成語の意味を、それぞれ選びなさい。

A　蛇足　〔　　〕

B　漁夫の利　〔　　〕

C　五十歩百歩　〔　　〕

D　背水の陣　〔　　〕

ア　両者が争うすきに、第三者が利益を横取りすること。

イ　わずかな違いはあるが、本質的には同じであること。

ウ　余計なもの。しなくていいことをしてだめにすること。

エ　一歩も引くことができない立場で、全力で事に当たること。

漢文の訓読

漢文を日本語の規則に従って読むことを**訓読**という。漢字だけで書かれた原文を**白文**といい、これに**訓点**という訓読のための文字や記号を加えたものを**訓読文**という。

〈白文〉我読書 → 〈訓読文〉我 読(ム)レ書(ヲ)。

主な訓点には次のようなものがある。

●**送り仮名**…漢字の右下に、カタカナで送り仮名を書く。訓読では、「て・に・を・は」といった助詞や、助動詞なども補う。

（例）楚人(ニ) 有(リ)

●**返り点**…漢文を日本語の語順で読むため、漢字の左下に補う。

・**レ点**………下から上に一字返って読むことを表す。

（例）2レ 1　誉(メテ)レ之(ヲ)曰(ハク)、

・**一・二点**…下から上に二字以上返って読むことを表す。

（例）3二 1 2一　莫(キ)二能(ク)陥(スモノ)一也(ト)

●**句読点**……語句や文の切れ目を表すために補う。

（例）吾(ガ)盾之堅(キコト)、莫(キ)二能(ク)陥(スモノ)一也(ト)。

訓読文を、漢字仮名交じり文に書き改めたものを**書き下し文**という。

〈訓読文〉我 読(ム)レ書(ヲ)。 → 〈書き下し文〉我書を読む。

訓読文を書き下し文に直すときは、次のような決まりがある。

・送り仮名はひらがなに改める。

（例）楚人(ニ) → 楚人に

・返り点が示す順に従って書き改める。

（例）誉(メテ)レ之(ヲ)曰(ハク)、→ 之を誉めて曰はく、

・漢字は原則そのままだが、「之(の)」「也(なり)」などの助詞・助動詞はひらがなに改める。

（例）吾(ガ)盾之堅(キコト)、→ 吾が盾の堅きこと、

〈白文〉 誉之曰吾盾之堅莫能陥也

〈訓読文〉 誉(ほメテ)レ之(これヲ)曰(いハク)、「吾(わガ)盾(たて)之(の)堅(かたキコト)、莫(なキ)二能(よク)陥(とほスモノ)一也(なりト)。」

〈書き下し文〉 之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

確認テスト

(1) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□　□レ　□　□

(2) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ　□　□レ　□

(3) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□　□レ　□レ　□

(4) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□　□二　□　□一

(5) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ　□二　□　□一

(6) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

2　1　5　4　3　6

(7) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

4　1　2　3　5　6

(8) 次の訓読文を書き下し文に直しなさい。ただし「弗」「也」は助動詞に当たる言葉である。

其(そノ)人、弗(ざル)レ能(あたハ)レ応(フルコト)也(なり)。

「　　　　　　　　」。

詩の種類と表現

詩の種類

詩は、作者の思いや感動などをリズムをもつ言葉で表現したもので、比較的短い言葉で表現されることが多い。詩にはさまざまな種類があるが、言葉・形式・内容に注目すると、次のように分けられる。

言葉	**文語詩**…昔の書き言葉（文語）を用いた詩。 **口語詩**…現代の話し言葉（口語）を用いた詩。
形式	**定型詩**…音数に一定のきまりがある詩。 **自由詩**…音数に定型などのきまりがない詩。 **散文詩**…普通の文章のように書かれた詩。
内容	**叙情詩**…作者の感情をうたった詩。 **叙景詩**…自然の風景をうたった詩。 **叙事詩**…神話や歴史的事件をうたった詩。

韻文・散文

言葉や音数に一定の規則やリズムをもつ文を**韻文**といい、韻文ではない普通の文章を**散文**という。多くの詩は韻文に含まれる。

・韻文…（大部分の）詩、短歌、俳句など。
・散文…説明、論説、物語、小説、随筆など。

表現

多くの詩は、一文を短く**行分け**し、リズムや感動を表現する。また、一つの詩を内容で分けたまとまりを**連**といい、一行空けて区切られていることが多い。

●主な表現技法

・**比喩**…ある物事を、似たところのある別の物事を使って表現する。
　直喩（明喩）…「まるで～」「～ようだ」などの言葉を使う。
　隠喩（暗喩）…「まるで～」「～ようだ」などの言葉を使わない。
　擬人法…人でないものを人に見立てる。
・**体言止め**…文末を体言（名詞）で止める。
・**倒置**…普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
・**対句**…言葉を、形や意味が対応するように並べる。
・**反復**…同じ言葉を繰り返す。
・**省略**…文章を途中で止め、後の言葉を省く。

確認テスト

(1) 次の詩の種類に当てはまるものを二つ選びなさい。

虫　八木重吉

虫がないている
いま　ないておかなければ
もう駄目だというふうにないている
しぜんと
涙をさそわれる

ア 文語詩　**イ** 口語詩　**ウ** 定型詩　**エ** 自由詩　**オ** 散文詩

［　　・　　］

(2) 次の説明に当てはまるものをそれぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 自然の風景をありのままにうたった詩。
② 神話や歴史的な事件などをうたった詩。
③ 作者の感動や心の動きをうたった詩。

ア 叙事詩　**イ** 叙情詩　**ウ** 叙景詩

①［　　］②［　　］③［　　］

(3) 次の各文で用いられている比喩の種類をそれぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。ただし同じ記号を二度使ってはならない。

① 言葉は人と人の間の橋だ。
② 言葉はまるで人と人の間の橋のようだ。
③ 太陽が笑っている。

ア 直喩　**イ** 隠喩　**ウ** 擬人法

①［　　］②［　　］③［　　］

(4) 次の各文に含まれる表現技法として適当なものをそれぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 花が咲く。花が咲く。
② 花が咲いている。鳥が飛んでいる。
③ 咲いている、さくらの花が。

ア 倒置　**イ** 対句　**ウ** 反復

①［　　］②［　　］③［　　］

詩 月夜の浜辺

月夜の浜辺

中原 中也

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず
①僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
②月に向つてそれは抛れず
浪に向つてそれは抛れず
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
指先に沁み、心に沁みた。

---

③月夜の晩に、拾つたボタンは
どうしてそれが、捨てられようか？

確認テスト

詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 第一連を反復している連を漢数字で答えなさい。

第［　　］連

(2) 第二連の一部を反復しながら、内容を発展させている連を漢数字で答えなさい。

第［　　］連

(3) ――線①「僕はそれを、袂に入れた」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 何かの役に立てようと思ったから。
イ なんとなく捨てることができなかったから。
ウ 海に向かって投げ、浪に流そうとしたから。

［　　］

(4) ――線②「月に向つてそれは抛れず／浪に向つてそれは抛れず」に用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 体言止め　**イ** 倒置（とうち）　**ウ** 対句（ついく）

［　　］

(5) ――線③「どうしてそれが、捨てられようか？」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア 捨てる方法を知りたい。　**イ** 捨ててしまいたい。
ウ 捨てられてしまうだろう。　**エ** 捨てられるはずもない。

［　　］

(6) 「月夜の浜辺」の説明として、適当なものを選びなさい。

ア 用いられている言葉は文語である。
イ 七音が繰（く）り返され、リズムを生んでいる。
ウ 浜辺の光景を写実的にうたった叙景（じょけい）詩である。

［　　］

鑑賞文　詩への道しるべ

紙風船　　黒田三郎

落ちてきたら
今度は
もっと高く
もっともっと高く
何度でも
打ち上げよう
美しい
願いごとのように

何度でも打ち上げられる紙風船。空に舞う美しい紙風船のイメージが、この詩の中心にあります。しかし空に打ち上げられているのは、ほんとうに紙風船なのでしょうか。

「美しい／願いごとのように」と詩は言います。ですが、詩の言いたいのは実は逆です。

「美しい願いごと」――たとえそれが叶わずに落ちてきても、その「美しい願いごと」を「もっともっと高く／何度でも／打ち上げよう」、紙風船のように、と詩は言っているのです。

比べるものと比べられるものを密かに逆転する仕掛け。それによってこの詩は、空に打ち上げられる美しい紙風船をうたうイメージの詩から、〈美しい願いごとは決して諦めるな〉という〈考え（思想）の詩〉、メッセージの詩へと転換しています。

ただ詩として大切なのは、そのメッセージが軽やかな紙風船のイメージに託されていることです。それによって読者は「願いごと」の内容を、決して重苦し過ぎるものとは感じない。そして自分自身のひそかな願いごとも、美しい紙風船のように、諦めることなく打ち上げつづけてみようかと、小さく励まされるかも知れません。それがこの詩の魅力でしょう。

（柴田翔『詩への道しるべ』筑摩書房　による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 詩を、使われている言葉や形式から分類したときに、「紙風船」に当てはまるものを次から二つ選びなさい。

ア 文語詩　**イ** 口語詩
ウ 定型詩　**エ** 自由詩　**オ** 散文詩

〔　　・　　〕

(2) ――線部「比べるものと比べられるものを密かに逆転する仕掛け」とあるが、これを正しく説明したほうを選びなさい。

ア 「美しい願いごと」にたとえられた「紙風船」を描いた詩が、「紙風船」にたとえられた「美しい願いごと」をうたった詩へと変化する。

イ 「紙風船」にたとえられた「美しい願いごと」を描いた詩が、「美しい願いごと」にたとえられた「紙風船」をうたった詩へと変化する。

〔　　〕

(3) 「紙風船」にうたわれたイメージと込められたメッセージを、本文中からそれぞれ十五字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

イメージ　□□□～□□□

メッセージ　□□□～□□□

雑草はなぜそこに生えているのか（1）

皆さんは雑草を育てたことがあるだろうか。
雑草とは、勝手に生えてくるものであって、わざわざ雑草の種を播いて育てる※酔狂な人は少ないだろう。
私は雑草の研究をしているので、雑草を育てる。ところが、雑草というのは、いざ育てようと思うと、なかなか簡単ではない。
まず、①種子を播いても芽が出ないのだ。
野菜や花の種子であれば、土に播いて水を掛けてやれば、数日のうちには芽が出てくる。ところが、雑草の場合は土に播いて水を掛けてもなかなか芽が出てこない。そうこうしているうちに、播いてもいない雑草の方が芽を出してきてしまったりするから、難しい。
植物の発芽に必要な三つの要素は何だろうか？
教科書には、「水、酸素、温度」と書いてある。
そのため、暖かい時期に、土を耕して空気が入りやすいようにしてから種子を播き、水を掛けてやれば、水と酸素と温度の三つが揃って芽が出てくるのである。
ところが、雑草はこの三つの要素が揃っても芽を出さない。
それは、雑草が「休眠」という性質を持つからなのである。
「休眠」というと休眠会社や、休眠口座など、働いていないという良くないイメージがある。何しろ、「休眠」は「休む」「眠る」と書くのだ。
たくましい雑草の戦略が、「休む」「眠る」というのは、情けないような気もするが、そうではない。②「休眠」は雑草にとって、もっとも重要な戦略の一つなのである。
休眠は、すぐには芽を出さないという戦略である。
野菜や花の種子は、播けばすぐに芽が出てくる。野菜や花の種子は人間が適期を見定めて播いてくれる。そのため、すぐに芽を出すことが得策なのである。芽を出す時期は、人間が決めているのだ。
しかし、雑草の種子は発芽のタイミングを自分で決める必要がある。
雑草の種子が熟して地面に落ちたとしても、それが発芽に適しているタイミングとは限らない。たとえば、秋に落ちた種子が、そのまま芽を出してしまうと、やがてやってくる厳しい冬の寒さで枯れてしまう。また、まわりの植物がうっそうと茂っていれば、芽を出しても光が当たらずに枯れてしまう。
いつ芽を出すかという発芽の時期は、雑草にとっては死活問題なのである。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房 第三章による）

※酔狂…好んで風変わりなことをすること。物好きなこと。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「種子を播いても芽が出ないのだ」とあるが、なぜ雑草の種子を播いてもなかなか芽が出ないのか。適当なものを選びなさい。

ア　雑草は勝手に生えてくるものであって、雑草を育てることはできないから。

イ　他の雑草が芽を出してしまうので、種子を播いた雑草は枯れてしまうから。

ウ　人間が種子を播くときに、発芽に必要な三つの要素のうち、どれかが欠けているから。

エ　雑草には休眠するという性質があり、発芽に必要な要素が揃ってもすぐには発芽しないから。

〔　　〕

(2)　本文中から、植物の発芽に必要な三つの要素を探し、書きぬきなさい。

〔　　・　　・　　〕

(3)　――線②『休眠』は雑草にとって、もっとも重要な戦略の一つなのである」とあるが、筆者がこのようにいうのはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア　雑草の種子は、休眠をすることで、発芽に必要な三つの要素が揃うのを待っているから。

イ　発芽の時期は生存にかかわるもので、雑草の種子は休眠によって発芽に適した時期を待っているから。

ウ　雑草の種子は、休眠によって、発芽するのに適した時期を人間に見定められないようにしているから。

〔　　〕

雑草はなぜそこに生えているのか ⑵

種子が落ちた時期と発芽に適した時期が異なるということは、雑草以外の野生植物にとっても重要な問題である。そのため、雑草を含む野生の植物は、種子が熟してもすぐには芽を出さない仕組みを持っている。この仕組みは①「一次休眠（内生休眠）」と呼ばれている。

一次休眠は発芽に適する時期を待つための休眠である。たとえば、種皮が固くて水分や酸素を通さないようになっており、時間が経つと皮がやわらかくなって水分や酸素が通って芽を出すような「硬実種子」と呼ばれる種子もある。アサガオの種子に、やすりやナイフで傷をつけると芽が出やすくなるのは、アサガオが硬実種子だからである。

また、春に芽が出る種子は、「春」という季節を感じて芽を出す。種子が熟した秋も春と気温はよく似ている。小春日和という言葉があるように冬になっても、春のように暖かな日はある。②種子はどのようにして、春であることを知るのだろう。

植物の種子が春を感じる条件は、「冬の寒さ」である。冬の低温を経験した種子のみが、春の暖かさを感じて芽を出すのである。

見せかけの暖かさは、やがて訪れる冬の寒さの前触れに過ぎない。長く寒い冬の後にだけ本当の春がやってくる。だから種子は見せかけの暖かさにぬか喜びすることなく、じっと冬の寒さを待っているのである。冬の寒さ、すなわち低温を経験しないと発芽しない性質は「低温要求性」と呼ばれている。低温に耐えるのでなく、低温を必要として要求しているのである。

「冬が来なければ本当の春は来ない」

何だか人生にも※示唆的な、種子の戦略である。

このように、時間が経った種子は休眠から覚めて芽を出そうとする。

しかし、雑草の種子は春だからといって芽を出せばよいという単純なものでもない。弱く小さな雑草の芽生えにとっては、いつ芽を出すかが生死を分ける。そのため、環境を複雑に読み取って、発芽のタイミングを計るのである。芽を出そうとしても、発芽には適さないかも知れない。そんなとき、雑草の種子は再び休眠状態になる。これは③「二次休眠（誘導休眠）」と呼ばれている。

人間でいえば、一度、目を覚ましたものの時計を見るとまだ早かったので二度寝してしまうような感じだろうか。その後、私たちがふとんの中で寝たり目が覚めたりを繰り返すように、雑草種子は、覚醒と二次休眠を繰り返しながら、発芽のチャンスを窺っていくのである。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房 第三章による。一部省略した箇所がある）

※示唆的…直接的ではなく、それとなく指し示す様子。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「一次休眠（内生休眠）」とはどのようなものか。最も適当なものを選びなさい。

ア 種子ができる前の期間にとる休眠。
イ 種子が養分をたくわえるための休眠。
ウ 種子が発芽に適する時期を待つ間の休眠。

［　　］

(2) ――線②「種子はどのようにして、春であることを知るのだろう」とあるが、これに対する答えを選びなさい。

ア 種子が熟した時期に暖かな日が訪れると春を感じ取る。
イ 冬の低温を経て次第に気温が上がることで春を感じ取る。
ウ 時間が経って皮に酸素が通るようになることで春を感じ取る。

［　　］

(3) ――線③「二次休眠（誘導休眠）」とはどのようなものか。最も適当なものを選びなさい。

ア 熟した種子が、発芽に適さない冬の期間を耐えるためにとる休眠。
イ 発芽した種子が、芽が成長するのを一時的に遅らせるときにとる休眠。
ウ 休眠から覚めた種子が、発芽に適さない状況だったときに再びとる休眠。

［　　］

雑草はなぜそこに生えているのか ⑶

雑草を育てることの難しさは、芽が出ないことだけではない。たとえ、結果的に芽が出たとしても、芽が出るタイミングがバラバラなのだ。

休眠は、雑草にとっては重要な性質である。しかし、雑草のやっかいなところは、同じ種であっても一粒一粒の休眠に差があることである。休眠したり、覚醒したりというタイミングがまちまちで、ある種子が覚醒していても、別の種子は休眠していたりするのだ。

ちなみに、種子から根や芽が出ることを「発芽」と言い、地面の上に芽が出てくることを「出芽」と言う。発芽のタイミングがバラバラだから、地面の上に出芽してくるのも一斉ではない。次から次へとだらだらと出芽してくるのである。

野菜や花の種子は、種を播けば一斉に芽が出てくる。どれだけの種子が発芽したかは「発芽率」で表されるのに対して、どれくらいそろって発芽したかは「①発芽勢」という言葉で表現される。野菜や花の種子の発芽のタイミングがそろわないと、その後の成長もそろわなくなってしまう。そのため、②栽培する植物にとっては、「そろう」ということがとても大切なのである。

しかし、雑草の種子は、できるだけ「そろわない」ことを大切にしている。

もし、野菜や花の種子のように一斉に出芽してきたとしたら、どうだろう。人間に草取りをされてしまえば、それで全滅してしまう。そのため、わざとそろわないようにして、出芽のタイミングをずらし、次から次へと「不斉一発生」するようになっているのである。

バラバラであるという性質は、人間の世界では「個性」と呼ばれるものかも知れない。③雑草の世界では個性がとても重要なのだ。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房 第三章による）

遺伝的多様性

遺伝子の多様性が高いと、大きな環境の変化が起こっても、変化に適応して生存する個体がいる確率が高くなる。人間が作る農作物や人工林は遺伝的多様性が低く、ある疫病が流行したときなどに大きな被害が出やすい。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「発芽勢」について、本文から読み取れる内容に当てはまるものを選びなさい。

ア 野菜や花のほうが、雑草よりも発芽勢が高い。

イ 野菜や花のほうが、雑草よりも発芽勢が低い。

〔　　〕

(2) ――線②「栽培する植物」について正しく述べたものを選びなさい。

ア 栽培する植物には雑草などが含(ふく)まれ、発芽のタイミングや、発芽の後の成長がそろっているという特徴(とくちょう)がある。

イ 栽培する野菜や花などは、栽培時の成長をそろえるため、発芽のタイミングがそろっていたほうが都合がよい。

ウ 栽培する雑草や野菜、花といった植物は、発芽のタイミングがそろわないと、その後成長しなくなってしまう。

〔　　〕

(3) ――線③「雑草の世界では個性がとても重要なのだ」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 種子ごとに個性があることで、出芽した雑草が草取りされるようなことがあっても、一部は生き残ることができるから。

イ 種子ごとに休眠や覚醒のタイミングをまちまちにすれば、播く時期が異なっても発芽をそろえることができるから。

ウ 種子ごとにさまざまな性質をもつので、中には野菜や花のように栽培に適した性質の雑草もあるはずだから。

〔　　〕

雑草はなぜそこに生えているのか(4)

（次の文章は、日本タンポポと西洋タンポポの違いについて述べたものです。）

よく知られているように、日本には昔からある在来の日本タンポポと、明治時代に日本にやってきた外来の西洋タンポポがある。

（中略）西洋タンポポは花粉がつかなくても種子を作ることができる「アポミクシス」という特殊な能力を持っている。そのため、まわりに仲間がいなくても、花粉を運ぶ昆虫がいないような環境でも、種子を作ることができるのだ。

①西洋タンポポが、自然の少ない街中などに多く見られるのはそのためである。

また、西洋タンポポは春だけではなく、一年中、花を咲かせて種子をつけることができる。こうして、どんどん増えていくのである。

最近では、西洋タンポポが増殖して、勢力を拡大しているのに対して、日本タンポポがだんだんと数を減らしていると指摘されている。どんどん花を咲かせて、どんどん種子を作ることができる西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも有利なのだろうか。

そんなことはない。

日本タンポポは、春しか咲かない。そして、種子をつけると根だけ残して、葉が枯れてしまうのである。カエルやヘビが土の中で冬をやり過ごすことを「冬眠」と言うように、日本タンポポの場合は、夏の間、根だけ残して土の中で過ごすので「夏眠」と呼ばれている。

②日本タンポポが「夏眠」をするのには理由がある。

夏になれば、他の植物が生い茂る。こうなれば、小さなタンポポには光が当たらない。そこで、日本タンポポは、他の植物との戦いを避けて、地面の下でやり過ごすのである。

つまり、③日本タンポポは、他の植物が生い茂る日本の自然環境では戦略的なのである。

一方、西洋タンポポは、春だけでなく、夏にも花を咲かせようとするので、他の植物に負けてしまう。そのため、他の植物があるような場所では生存することができないのだ。その代わりに、西洋タンポポは、他の植物が生えないような都会の道ばたなどで花を咲かせて、分布を広げているのである。

西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているとすれば、本当は、日本タンポポが生えるような日本の自然が減少し、都会の環境が増えているということなのかも知れないのである。

西洋タンポポと日本タンポポと、どちらが強いということはない。西洋タンポポも日本タンポポも、どちらも自分の得意な場所に生えているのである。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房　第六章による）

生存競争と戦略

植物は光や水、栄養分などをめぐって激しい生存競争を行っている。競争に勝つために他の植物よりも大きく枝葉や根を伸ばすものもあるが、競争の少ない場所に生息したり、競争の少ない時期に繁殖したりするものもある。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「西洋タンポポが、自然の少ない街中などに多く見られるのはそのためである」とあるが、西洋タンポポが街中で多く見られるのはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 仲間や、花粉を運ぶ昆虫の少ない街中でも、西洋タンポポなら花粉なしでも繁殖することができるから。

イ 一年中花を咲かせる西洋タンポポは、季節の変化の少ない街中でも花粉を遠くに運ぶことができるから。

ウ 自然の少ない街中では、花粉を運んでしまう昆虫など西洋タンポポにとっての外敵が少ないから。

〔　　〕

(2) ――線②「日本タンポポが『夏眠』をするのには理由がある」とあるが、日本タンポポはなぜ夏眠するのか。（　）に当てはまる言葉を本文中から二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

他の植物が生い茂る夏を、（　　）ため。

□□□～□□□

(3) ――線③「日本タンポポは、他の植物が生い茂る日本の自然環境では戦略的なのである」とあるが、これについて正しく述べたものを選びなさい。

ア 日本タンポポの「夏眠」は、夏に生い茂る他の植物で光が当たらず、葉が枯れてしまうことが原因で発生する。

イ 日本タンポポの「夏眠」は、他の植物が生い茂る時期にも枝葉をのばし、戦いに勝って光を得るためのものである。

ウ 日本タンポポの「夏眠」は、夏に植物が生い茂る日本の環境に適応したもので、その環境での生存に有利になっている。

〔　　〕

(4) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア 西洋タンポポのほうが、次々に種子を作ることができるので、日本タンポポよりも強い植物であるといえる。

イ 西洋タンポポが増殖して日本タンポポが減少していることは、日本の環境の変化を反映している可能性がある。

ウ 西洋タンポポは、他の植物が生えないような場所を得意として、勢力を拡大している。

〔　　〕

コケはなぜに美しい（1）

「※苔の衣」などの言葉を用いなくなった現代の人々にとって、もっともコケを身近に感じるのはいつだろうか。おそらく「日本庭園（＝コケ庭）」を訪れたときではないだろうか。

わび・さびの風情を醸し出す日本庭園においては、いつもはコケにされがちのコケが主役級の存在感をみせる。しかし今でこそ、庭園になくてはならないコケではあるが、日本庭園ではもともとコケは使われていなかったらしい。苔寺として世界的に有名な※西芳寺（京都）でさえ、作庭当初は白砂の広がる庭だったようだ。しかし、室町時代の応仁の乱の後に寺が荒廃し、いつしか庭園が広くコケに覆われるようになったとされる。今では「苔寺」とよばれ、コケが西芳寺の代名詞にもなっている。

①こうした趣向の変化には、日本文化の変遷が深く関わっている。何にでも流行りすたりがあるように、②文化も時代ごとに大きく変化する。この流れを大まかにみると、『源氏物語』の世界でみられるような平安時代の華やかな貴族の文化から、鎌倉時代の素朴で力強い武家の文化。そして室町時代の禅の精神をとりいれた文化へと移り変わっていく。庭園もこうした文化の変化に呼応して豪勢な貴族の庭園から、実用的で質素な武家の庭園、禅のための庭へと流行が変化していった。そして風情を追求した庭園として登場したのが「コケ庭」だったのだ。

庭でコケが大切に扱われているのも、その美しさが③和の文化の美意識、「わび・さび」を見事に体現しているためだ。コケほどわび・さびの風情にぴったりの植物はほかにはない、といってもいい。では④なぜ、コケがわび・さびの風情を醸し出すのだろう？

「わび」「さび」は、本来は別の意味の二つの言葉である。わびは「侘びしさ」からきており、転じて「十分でないもの・不足しているもののなかに見出す美しさ」を表す。その一方、さびは「寂しさ」に由来し、「ひっそりと寂しいもののなかに見出す美しさ」につながっている。この二つが組み合わさった「わび・さび」は、静寂さや質素なもののなかに美しさを見出す美意識、とされる。静かで質素なものがもつ美しさ……これは小さくて花もないために目立たず、しかし透き通るような美しさをもつコケの印象そのものではないだろうか。

さらに、コケは庭園にわび・さびの風情を添えるだけではない。コケのしっとりとした色合いには、間接的に庭園の美しさをひきたてる効果もある。コケの上に、春には桜が、夏には白い沙羅双樹（夏椿）が、秋には深紅の紅葉が舞い落ち、冬には真っ白な雪が覆う。コケの緑が季節の移ろいを鮮やかに引き立て、庭園の四季をより美しくみせてくれる。

（大石善隆『コケはなぜに美しい』ＮＨＫ出版　による）

※苔の衣…僧侶や隠者などが着る粗末な衣服のこと。
西芳寺…京都市西京区にある寺院。世界遺産に登録されている。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「こうした趣向の変化」とはどのようなことか。適当なものを選びなさい。

ア かつてはコケが含まれる言葉が広く用いられていたが、現在ではコケになじみがなくなってしまったこと。
イ かつては日本庭園にコケは使われていなかったが、今ではコケが庭園になくてはならないものになったこと。
ウ かつては白砂が広がり美しく整えられていた寺が、応仁の乱によって荒廃してしまったこと。

〔　　〕

(2) ――線②「文化も時代ごとに大きく変化する」とあるが、本文に従って各時代の文化の特色をそれぞれ選びなさい。

A 平安時代〔　　〕
B 鎌倉時代〔　　〕
C 室町時代〔　　〕

ア 禅の精神をとりいれた文化。
イ 素朴で力強い武家の文化。
ウ 華やかな貴族の文化。

(3) ――線③「和の文化の美意識、『わび・さび』」とあるが、「わび・さび」とは何か。本文中から二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

□□□～□□□

(4) ――線④「なぜ、コケがわび・さびの風情を醸し出すのだろう」とあるが、この答えを筆者はどのように考えているか。適当なものを選びなさい。

ア わび・さびの風情を醸し出す日本庭園では、コケはあまりなじみのない存在だから。
イ コケに覆われた庭は、風情を追求した結果として登場した華やかな庭園であるから。
ウ 目立たないが透き通るようなコケの美しさは、わび・さびの美意識に合うものだから。

〔　　〕

コケはなぜに美しい (2)

A コケが景観をつくっている日本庭園。一見してコケが多そうだが、ではどのくらいの種が生えているのだろうか。庭園の規模などによって多少の差はあるが、大きな庭園では100種以上のコケがみられることも少なくない。①一体なぜ、このように多くのコケが庭に生えているのだろうか。その秘密は庭のデザインと管理にある。

B 庭園では、大自然の風景をミニチュアで表現するデザイン技法、「縮景」が好んで用いられる。例えば、大きな石を置いて山を表したり、池をつくって海を表したりするなどして、庭をキャンバスにして大自然を表す。そのため小さな空間であっても、庭はさまざまに環境が変化する。

C これらは人間にとっては些細な変化であっても、小さなコケにとっては分布を決定するほどの要因にもなりうる。例えば、庭園の小さな※築山は、コケにとっては大きな丘にみえるはずだ。丘の上では生えることはできても下では生育できないことや、その逆もあるだろう。庭園のデザインによってつくられた多様な環境が、コケの豊かさにつながっているのだ。

D さらに、庭園ではその景観を維持するため、草むしりや落ち葉かきなど、きめ細やかな管理がなされている。こうした管理は雑草や落ち葉によってコケが覆い隠されてしまうことを防ぎ、コケの維持に貢献している。庭のコケの美しさの裏には、日々の②たゆまぬ管理があるのだ。

E 庭園デザインと日々の細やかな管理の恩恵をうけ、多様なコケが生える庭園。深い緑からくすんだ緑、黄緑、赤みがかった緑……。さまざまな緑が織りなすコケのじゅうたんは繊細で、美しい。

（大石善隆『コケはなぜに美しい』ＮＨＫ出版 による）

※築山…庭園などで、山に見立て石や土を盛ってつくったもの。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「一体なぜ、このように多くのコケが庭に生えているのだろうか」とあるが、この答えに当たるものを二つ選びなさい。

ア 庭園は大きな石を置いたり池をつくったりすることで大自然を表現しており、人によるデザインを避けているから。

イ 縮景のデザインによって庭園には多様な環境があり、それぞれの環境に合わせてさまざまなコケが分布するから。

ウ 草むしりや落ち葉かきなどのきめ細やかな管理がされており、コケが庭園に生えづらい環境が維持されているから。

エ 庭園の管理によってコケの生育を妨げるものが取り除かれ、さまざまなコケが生える環境が保たれているから。

【　・　】

(2) ――線②「たゆまぬ管理」の意味を選びなさい。

ア 多種多様で、さまざまな管理。

イ 意図しない、思わぬ結果となる管理。

ウ おこたらず、とだえることのない管理。

【　】

(3) 本文中の**A**～**E**の段落について、正しく述べたものを選びなさい。

ア **A**で示された内容に対して、**B**と**C**では「庭のデザイン」について、**D**では「庭の管理」について、説明している。

イ **A**では「庭のデザイン」について、**B**～**E**では「庭の管理」について、問いかけをまじえながら説明している。

ウ **B**では「コケの多様さ」について説明しているのに対し、**C**以降は話題が変わり、「日本庭園」について説明している。

【　】

〈自分らしさ〉って何だろう？　自分と向き合う心理学（1）

小学校の頃から友だちと自分を比べることはあったし、友だちのほうがよくできるのを羨ましく思うことはあったけど、①この頃そういうことが多くなった。②何かにつけて友だちと自分を比べては、自分の劣っている点が気になり、気分が落ち込む。そんなに深刻に落ち込むっていう感じではないのだけど、何だかイヤな気分になる。そんなことがあるだろう。

思春期になると、だれもがそんな感覚に苛まれるようになる。じつは、大人も何かと人と自分を比べて羨んだり落ち込んだりしている。こうした比較意識からは、僕たちは一生逃げられないようだ。

ただし、大人になり、人生経験を積むにしたがって、比較意識による気持ちの落ち込みを適当にごまかせるようになる。人によっては、比較による劣等感を成長のバネにすることさえできる。

でも、③まだ人生経験の乏しい青年期には、比較によって生じる劣等感は、大きなダメージになりがちだ。

だれとでも打ち解けて喋ることができる友だちと比べて、自分はなんでうまく喋れないんだろう、なんで気をつかっちゃうんだろうといった意識が強すぎると、対人場面で緊張するようになり、友だちに気軽に声をかけられなくなる。

友だちと比べて運動神経の鈍い自分を意識しすぎると、みんなで球技をして遊ぼうというようなことになると、みっともない姿をさらしたくないという思いから、ちょっと都合が悪いからと口実をつけて逃げるように帰ってしまう。

比較意識というのは何とも厄介なものだ。他人はそこまで人のことを気にしていないはずなのだが、自分のほうが強烈に気にしてしまう。何でそんな厄介なものをもってしまうのか。それは、だれでも自分を知りたいからだ。

人と比べることの背後には、自分を知りたいという思いがある。人と比べることを心理学では社会的比較というが、これは自己評価の重要な指標を与えてくれる。

（中略）僕たちは社会的比較によって自分の特徴を知ることができるのだ。人と比べてもしようがない、人との比較なんかにこだわる必要はない、自分らしくあればいい、などと言われることがある。でも、自分が劣ることがあっても落ち込まないようにすることが大事なのであって、人と比べること自体が悪いわけではない。何しろ、「自分らしくあればいい」なんて言われても、人と比べないと自分の特徴が浮かび上がってこないのだから。

（榎本博明『〈自分らしさ〉って何だろう？　自分と向き合う心理学』
筑摩書房　第Ⅰ章による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「この頃」が指す時期として適当なものを選びなさい。

ア　小学校の頃
イ　思春期になった頃
ウ　大人になった頃

〔　　〕

(2) ——線②「何かにつけて……気分が落ち込む」とあるが、なぜ友だちと自分を比べてしまうのか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　友だちのほうがよくできるのを羨ましく思い、うまくできない自分に落ち込み、イヤな気分になってしまうから。
イ　大人になると比較意識による気持ちの落ち込みをごまかすことができるようになり、成長のバネにすることもできるから。
ウ　自分のことを知りたいという思いがあり、他人と自分を比べることで、自分の特徴を知ろうとしているから。

〔　　〕

(3) ——線③「まだ人生経験の……ダメージになりがちだ」とあるが、この直後に、——線③の内容の具体的な事例が挙げられている。その具体的事例はどこまでか。最後の十字を答えなさい。ただし句読点も一字に含む。

〈自分らしさ〉って何だろう？　自分と向き合う心理学 (2)

社会学者クーリーは、自己というのは社会的なかかわりによって支えられており、それは他者の目に映ったものだから、①「鏡映自己」と呼ぶことができるという。

　自分の顔を直接自分で見ることはできない。鏡に映すことで初めて見ることができる。鏡がなければ、自分がどんな顔をしているのかを知ることはできない。

　それと同じで、他者の目という鏡に映し出されない限り、僕たちは自分の人柄や能力といった内面的な特徴を知ることができない。他者の反応によって、自分の人柄や能力がどのように評価されているかがわかり、自分の態度や発言が適切だったかどうかを知ることができる。

　鏡映自己という言い方には、そんな意味が込められている。僕たちの自己は、他者の目を鏡として映し出されたものだというわけだ。

　自分を知るヒントとなる他者との比較の結果も、他者の目という鏡に映し出されていることが少なくない。その意味では、僕たちの自己が他者の目に映し出されたものだというのは正しいと言ってよいだろう。

　さらにクーリーは、他者の目に自分がどのように映っているかを知ることによって、誇りとか屈辱のような感情が生じるという。これは、だれもが日常的に経験していることだ。

　人から好意的に見られていることがわかれば、とても嬉しいし、自信にもなる。能力や人柄を高く評価してくれていると知れば、誇らしい気持ちになる。反対に、否定的に見られていることがわかると、ガッカリして気持ちが落ち込み、自信がなくなる。

　僕たちが、ともすると気の合う仲間同士、価値観や性格の合う者同士でまとまりがちなのも、周囲の人の目に映る自分の姿が肯定的なほど嬉しいし、力が湧いてくるからだ。②自分の姿を輝かせてくれる鏡がほしい。それは、だれもが密かに望んでいることのはずだ。

　ただし、嬉しいとか、落ち込むとか、感情的に反応するだけでなく、どこが評価されたんだろう、どんな点がダメなんだろうと③認知的に反応できる人は、たとえ否定的評価を受けていることがわかっても、今後の改善に活かすことができる。ここでいう認知的反応とは、感情的に反応するのではなく、頭で反応すること、論理的に反応することを指す。

　その意味では、自分を輝かせてくれる鏡としての他者だけでなく、④ときにみすぼらしい自分やイヤな自分を映し出してくれる辛口の他者、価値観や性格の異なる他者とのつきあいも大切だ。そういう他者との出会いが、自分に対する気づきを与えてくれ、自分の成長のきっかけになることもある。

（榎本博明『〈自分らしさ〉って何だろう？　自分と向き合う心理学』
筑摩書房　第２章による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　——線①「鏡映自己」にはどのような意味が込められているか。適当なものを選びなさい。

ア　自分の顔は鏡に映すことで初めて見えるように、自分の内面的な特徴は他者の目に映し出されるものだということ。

イ　自分の内面は鏡に映らないように、自分の人柄や能力に対する他者の評価は当てにならないということ。

ウ　自分が鏡に映ってしまうように、自分の周囲の人は自分と価値観や性格が同じ人ばかりになりがちだということ。

〔　　〕

(2)　——線②「自分の姿を輝かせてくれる鏡」とは何を指しているか。適当なものを選びなさい。

ア　他者と比べることで得られる、自分自身に対する強い自信。

イ　自分を好意的に評価し、自信をつけさせてくれるような他者。

ウ　だれもが密かに望んでいる、湧き上がるような喜びや力。

〔　　〕

(3)　——線③「認知的に反応できる人」とあるが、次のうち、認知的な反応の例として適当なものを選びなさい。

ア　自分が否定的に評価されたときに、気持ちが落ち込み、自信をなくしてしまう。

イ　自分が否定的に評価されたときに、自分のどんな点が問題だったのかを考える。

〔　　〕

(4)　——線④「ときにみすぼらしい……つきあいも大切だ」とあるが、なぜこのように言えるのか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　自分に対する否定的な評価があったとしても、それは価値観や性格の違い(ちが)が原因に過ぎないものだから。

イ　自分を本当に理解してくれているのは、自分の否定的な面を指摘(してき)してくれる辛口の他者だけであるから。

ウ　自分の否定的な面や他者との違いを理解し、その後の改善に活かすことができれば、自身の成長につながるから。

〔　　〕

大人になるっておもしろい？（1）

現在はにかむことにも、口数の少ないことにも、沈黙にも、なかなかプラスの価値が置かれません。さらに一人でいることにも。ＴＶをつければ、登場する人、登場する人、みんな朝からにぎやかに笑って、しゃべりまくり、コミュニケーション能力こそ現在を生き抜くためには不可欠と、社会のリーダーを自認する人々は大声でのたまい――何がコミュニケーションかの吟味なしに――、独り居の大切さや、黙することの大切さを思う人の声はなかなか若い人たちの耳には届きにくくなっています。

かつて※短大に勤務していた時、私は新入生にくる年もくる年も、せめてこの短大にいる間だけでも、独り居の時間をたっぷり持つようにと話しましたが、授業が終わると、きまって何人かの学生に廊下でそっと呼び止められ、①「ほんとうにひとりでいてもいいんですよね」と念を押されました。口数少なく、ひとりでいること。それがますますできにくくなっていることを痛感させられる、とりわけこの十数年でした。

もっとも口数が少ないこと、ひとりでいることは、本来こんなふうにつなげて考えてはいけないかもしれません。口数の少ない人はひとりでいることが多くなりがちだけれど、この二つは直接関係があるわけではない。口数が少なくても、いつもグループの一部になっている人もいるし、おしゃべりでも、独り居の時間をちゃんと確保している人はいますものね。

ただ、私が気がかりなのは、黙っていたいのに、無理をしてでも、しゃべらなくてはいけないと考える人が一〇代の人々の中にますます増えているように見えること、内容はどうであれ、②しゃべるという行為そのものを価値と考える人々が多くなっているように思われることで、こういう状況のもとでは他者の声に耳を傾けたり（小さな声はなおさら）、自分自身の内なる声に耳を澄ますことはむつかしくなってきているのではないかということです。

（中略）

自分自身の内なる声を聞くことができてこそ、他者の気持ちを推し測ることができ、その声に耳を傾けることができると思いますし、自分自身との対話ができてこそ、他者との対話もできると思うのですが。いや、もしかしたら、その逆かもしれません。他者の声に耳を傾けることができてこそ、初めて自らの声に耳を傾けることができる。そんな気もしてきます。自分自身の中にたくさんの他者がいるわけですし。が、いずれにしろ、聞こうと思ったら、まず自らの口をつぐまなくてはね。そのためには、やはりひとりになる必要があるように思います。

（清水真砂子『大人になるっておもしろい？』岩波書店　第3信による）

※短大…短期大学の略。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「『ほんとうに……押されました」とあるが、ここからわかることとして、適当なものを選びなさい。

ア　独り居の時間をすでに確保している学生にとって、筆者の考えは受け入れづらく、学生が反発していること。

イ　学生の間で、一人でいることを否定する価値観が広がり、一人でいることが難しくなっていること。

ウ　コミュニケーション能力が学生の間で低下しており、若い人たちに話が伝わりづらくなっていること。

(2)　――線②「しゃべるという行為そのものを価値と考える」に当てはまるものを選びなさい。

ア　会話では、とにかく口数が多いことが大切である。

イ　会話では、相手の本当の思いを理解することが大切である。

ウ　会話では、自らの考えを深めることが大切である。

(3)　本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　現代ではコミュニケーション能力が重要であり、何が本当のコミュニケーションであるかが盛んに議論されている。

イ　現代では一人でいる機会が減少しており、他者との対話は以前よりもしやすくなったといえる。

ウ　現代では、他者の思いを理解することができるような対話や、自分自身との対話が難しい状況にある。

大人になるっておもしろい？⑵

（ある大学での講演で、筆者は悩むことについて触れました。）

話し終わって演台の上を片付けていると、三、四人の若い女性が階段を下りてきたと思うと、そのうちの一人が私に声をかけてきました。彼女は、ここの※大学院生ですが、と名乗った後、真剣な面持ちで、確かめるように言ったものです。

「先生、本当に悩んだっていいんですよね」

その日、どんなテーマで話したのだったか、テーマ自体は憶えていないのですが、講演の中で私は、私自身が当時日々向かい合っていた勤務先の短大の学生たちの多くが悩むことを否定的に捉えていることにふれ、せっかくの悩みを否定的に捉えるのはもったいないことではないか、と話したのでした。

大学院生のことばに、私は、①<u>ここでもそうだったか</u>と思うと同時に、院生にまでなってまだそうかと内心ひどく驚いたのを憶えています。後日、私は勤務先の学生たちとさらに語らい、卒業生たちとも語らって、悩むことを否定的に受け取り、――確かに快か不快かで測れば、不快のほうに目盛りの針は傾くでしょうが――「できることなら避けて通りたい」を飛び越えて、してはいけないこととまで考えている人が一〇代、二〇代に限らず、四〇代の人々にもけっこういることを知ることになって、ことばを失ったのですが……。

（中略）

悩みなんてないにこしたことはない、と人は言います。私もそう思います。強いて悩むことはないと。でもそうは言っても、生きていく日々、私たちはさまざまな悩みを抱え込んでしまうものです。解決不能と見える問題にも、私たちは突き当たってしまう。どうしたらいいか、私たちは途方に暮れます。解決の糸口が見つからないまま悶々とした日が続いたりします。悩みというのは、解決不能と見える問題にぶつかってから、解決への糸口が見つかるまでの足踏みの時期の精神的苦痛を指すのでしょうか。いっぱい迷い、自己嫌悪に陥ったり、無力感にさいなまれたり……。

そんな状態に身をおくことは、確かに無駄な、非生産的な行為と言えなくもありませんが、だからといって悩むのはよくないとか、避けるべきだということにはならない。機械ではあるまいし、人はそんなに合理的には生きられません。けれど、余分と考えられるもの、無駄と考えられるものはことごとくそぎ落としてゆこうとする空気は、今、日本の社会では日々強まりつつあります。この空気の目に見えない強制力がひょっとすると若い人たちに、さらにはもっと幅広い年齢層の人々に、②<u>悩むのはいけないこと、と思わせているのかもしれません</u>。確かに悩み、※逡巡する若者はいたるところで分の悪い立場に立たされているように見えます。学生たちの就職の決まり具合を見ているだけでも、それは容易に察せられます。悩むことはものを考える第一歩なのに。

（清水真砂子『大人になるっておもしろい？』岩波書店　第5信による）

※大学院…大学の学部の上または独立に設置される機関。大学院生は、大学院の学生のこと。
逡巡…決断ができず、ぐずぐずすること。ためらうこと。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「ここでもそうだったか」とあるが、筆者はどのように思ったのか。次の文の（　）に当てはまる言葉を、本文中から十四字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

この大学の学生も、（　）のかと思った。

□□□〜□□□

(2) ——線②「悩むのはいけないこと、と思わせているのかもしれません」とあるが、なぜ今の社会では悩むことがいけないことだとされているのか。本文の内容から考えられる理由を選びなさい。

ア　今の社会は機械のように合理的に生きることができ、解決不能と見える問題に突き当たる機会はなくなっているから。

イ　今の社会は無駄をなくすことがよいこととされており、悩むことのように非生産的に見える行為は否定的に捉えられるから。

ウ　今の社会は悩み、逡巡する若者たちが増えており、解決の糸口が見つからず苦悩（くのう）することが問題となっているから。

［　　］

(3) 筆者の「悩むこと」に対する考えに当てはまるものを、**二つ**選びなさい。

ア　悩むことは決して不快なことではなく、問題に突き当たっても精神的苦痛を感じることなく前向きに考えるべきである。

イ　悩むことには無駄で非生産的な一面が確かにあり、解決できない問題で悩み、自己嫌悪に陥るのはよくないことである。

ウ　悩むことは生きていく上でどうしても起こることであり、してはいけないことと捉えるのは無理がある考え方である。

エ　悩むことは何かを考えるきっかけにもなることであり、否定的に捉えてばかりいるのはもったいないことである。

［　　・　　］

夜のくだもの屋 (1)

少女の帰りは、毎日おそかった。

大きなコンクールのために、合唱部の練習がつづいていたのである。列車通学の少女には、下校時刻のおくれのほかに列車の待ち時間も加わって、家に帰りつくころは、いつもまっ暗になっていた。

夜の早い、小さな町である。わけて、少女の住む町はずれの団地ちかくでは、商店は宵(よい)にもならぬうちから店をしめて、人通りも少ない。なかばそれをいいことに、なかば心ぼそさをまぎらすために、①少女はいつも歌いながら歩いた。

フォークもポピュラーもきらいではなかったが、やはりいまのところ、毎日練習しているコンクールの課題曲が口ぐせのようになっていて、それを歌うことが多い。合唱曲をひとりで歌うのはいくらかまのぬけた感じだったが、故郷によせる思いを歌ったその曲が好きでもあったし、学校での身がまえた気持ちとちがって、勝手にのびのびと歌えるのがなによりたのしかった。

団地の入り口ちかくに、小さなくだもの屋がある。ここも、このあたりの商店の例にもれず、店じまいは早かったのだが、ある日、少女がいつものようにおそい夜道をいそいでいると、その店がまだひらかれていて、あかあかと灯(ひ)のともっているのが見えた。

——②おや、きょうはなにかあったのかしら。

しかし、近づいてみると、べつに変わったことがあったようでもない。それでも、店のまえをとおるとき、少女はふと足をとめた。場末の小さな店だと思って、めったにそこで買いものをすることもなかったのだが、いま見れば、小さいなりになかなかりっぱな店なのである。りんご、バナナ、ぶどうにメロン、みんなそれぞれの光沢(こうたく)をうかべて台の上にもりあげられ、それになによりも、店いっぱいにあふれるオレンジ色の光が、なんともいえずあたたかい。暗い道路にこの店のあかりがさしているだけで、わけもなく心がおちつくのをおぼえ、少女は、とぎれた歌をまた口ずさみながら、かばんを持ちなおして家へといそいだ。

くだもの屋の営業時間延長は、その日かぎりのことではなかったらしい。つぎの日も、そのつぎの日も、少女は、③くだもの屋のあかりに守られながら、暗い夜道を帰った。

（杉みき子『小さな町の風景』偕成社　所収「夜のくだもの屋」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「少女はいつも歌いながら歩いた」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア コンクールが近いために合唱部の練習がつづいており、下校時間がおそくなるうえに列車の待ち時間も加わるから。

イ 団地のちかくで住む人もいるのに、日が暮れないうちからしめてしまう商店に反感を抱いたから。

ウ 夜道に人通りが少ないので周囲に気兼ねする必要がなく、また暗い夜道での不安な気持ちをまぎらわせたかったから。

〔　　〕

(2) ——線②「おや、きょうはなにかあったのかしら」とあるが、「少女」はなぜこのように思ったのか。適当なものを選びなさい。

ア このあたりの商店にはめずらしく、いつもおそくまで店をひらいているくだもの屋が気がかりだったから。

イ いつもは店じまいの早いくだもの屋が、おそい時間まで店をひらいていたので不思議に感じたから。

ウ めったに買い物をすることもないくだもの屋だったが、意外にりっぱな店であることに気づいたから。

〔　　〕

(3) ——線③「くだもの屋のあかりに守られながら」とあるが、これは「少女」のどのような様子を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 暗い夜道にくだもの屋のあかりが差していることで、ほっとする様子。

イ 心細いときに、かつてのくだもの屋のあかりを思い出して安心する様子。

ウ くだもの屋のあかりがともっているかどうかをいつも気にする様子。

〔　　〕

夜のくだもの屋 (2)

（合唱部に所属する「少女」は、コンクールのための練習でいつも帰りがおそくなっていました。「少女」は夜道が心細く、コンクールの課題曲を歌いながら帰っていましたが、なぜか家の近くにあるくだもの屋が、近頃（ちかごろ）おそくまで店をひらいていました。）

ある日、練習に熱がはいりすぎて、いつものおそい列車より、さらにひと列車おくれてしまったことがある。このときは、家に電話をして、父親に駅までむかえにきてもらった。あまりおそくなるな、と①たしなめられ、だって合唱だものしかたがない、コンクールまであとわずかのあいだだからと、すこしいさかい気味のことばをかわしながら歩いてくると、例のくだもの屋が、まだ明るい店をひらいている。

——おや、ここはずいぶんおそくまでやってるんだな。

父親が、気をかえるように言った。少女も②ほっとした声になって、

——うん。毎日、ここが明るいから、とても助かるの。

——そうか。じゃあ、お礼にりんごでも買っていくか。

——うん。

父親が声をかけて、あいそのいいおばさんからつつんでもらったりんごを、少女は胸にしっかりかかえながら、なんだか、この店のあかりを、りんごのかたちですこしばかりわけてもらったような気がした。

それから、半月。

コンクールもようやく無事にすんで、少女の日々はふたたび平常にもどった。夕方、早い列車で帰宅できるから、あのくだもの屋が、いまでも夜おそくまでひらいているのかどうか、少女は知らない。少女にとって、③それはもうどうでもいいことになっていた。

それからまもなくの日曜日。おなじ合唱部の友だちが入院したのを見舞（みま）おうと、少女は昼ちかくなってから家を出た。ほかの友だちと待ちあわせて、町で食事をしてから、午後の面会時間に病院をたずねる予定である。

——くだもの、ここで買っていこうかしら。

見舞いの品を買うのは、少女の分担になっていた。町の大きな店で、と思っていたのだが、このまえここで買ったりんごもおいしかったし、それに、あのあかりの恩恵（おんけい）を思うと、④もういちどくらい買いものをしなくては悪い気がする。

（杉みき子『小さな町の風景』偕成社　所収「夜のくだもの屋」による）

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「たしなめられ」とあるが、「たしなめる」の意味を選びなさい。

ア　物事を軽視する、見くびる。
イ　穏やかにしかる、注意をあたえる。
ウ　事情がわからず、間違ったことを言う。

〔　　〕

(2) ――線②「ほっとした声」とあるが、「少女」はなぜほっとしているのか。適当なものを選びなさい。

ア　いつもよりもさらに帰りがおそくなってしまったところ、父親がむかえに来てくれたから。
イ　父親と帰りがおそいことで言い争いをするような雰囲気になっていたところ、話題が変わったから。
ウ　帰りがおそくなり暗い夜道をひとりで心細く思っていたところ、くだもの屋のあかりで安心したから。

〔　　〕

(3) ――線③「それ」が指す内容を本文中から三十字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も一字に含む。

□□□～□□□

(4) ――線④「もういちどくらい買いものをしなくては悪い気がする」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア　くだもの屋のあかりのおかげで毎日助かっていたから。
イ　くだもの屋のりんごがとてもおいしかったから。
ウ　くだもの屋のおばさんがあいそのいい人だったから。

〔　　〕

夜のくだもの屋 (3)

（「少女」は入院した友だちの見舞い（みまい）の品を買うために、くだもの屋を訪れ（おとず）ました。その店は、「少女」がコンクールのための練習で帰りがおそくなっていた頃（ころ）、なぜか遅くまであかりをつけている店でした。）

小さな日よけをくぐり、声をかけようとして、少女は①思わず息をのんだ。

店の奥（おく）から、たのしそうなハミングが聞こえてくる。それも、あの故郷を思う歌、少女自身が何百回となく歌いなれた、コンクール課曲のハミングが。

ルルルル、ルルル、ルルル……。

どうしてあの曲を、と思うよゆうもなく、少女は無意識に、※アルトの部分を口ずさんでいた。

大きな声をだしたつもりはなかったが、②目と鼻のさきだから、つつぬけに聞こえたのだろう。のれんをひょいとはねて顔をだしたのは、このあいだとおなじおばさんだった。

――おや、あんたでしたか！

いきなりそう言われて、③まごついた少女は、思わず頭をさげた。

――ありがとうございました。

毎晩のあかりのお礼のつもりだったが、これでは相手に通じまい、とすぐ思い、なんとか言いなおそうと考えていると、④あんがいにも、すらりと返事がかえってきた。

――いいえ、どういたしまして。

話が通じたことでかえってびっくりして、あとのことばがつげないでいると、おばさんはつづけて、

――毎日おそくまで、ほんとにたいへんですねえ。いえね、毎晩毎晩、いい声で歌をうたってとおんなさるでしょう。お顔もなにも知らないんだけど、でも、うちのおやじさんがね、若い娘（むすめ）さんがこんな暗い夜道を帰るのはさぞ心ぼそいだろう、せめてうちの店のあかりだけでもつけといてあげれば、って言いましてね。それで、毎晩、歌の声がとおりすぎてしまうと、ああもう安心だと思って、まあ、それを合図みたいにして店をしめてたんですよ。毎日のことだもんで、わたしまでその歌おぼえちゃって、ほっほ。でも、このごろは、いつまでたっても歌が聞こえないもんで、どうしなすったかと思ってたんですよ。

少女は、ふたたび、声もなかった。⑤この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは、当然だったと思う。コンクールが終わってからは早く帰れることを話し、少女はもういちど頭をさげた。

――もっと、もっと、たくさん買いたいんだけど、友だちと予算をきめちゃったもんで、ごめんなさい。

とんでもない、とわらいながら、おばさんがきれいにリボンをかけてくれた包みをかかえ、少女は、病院にいる友だちのために、このくだものよりもなによりも、いちばんお見舞いになるみやげ話ができたと思った。

（杉みき子『小さな町の風景』偕成社　所収「夜のくだもの屋」による）

※アルト…声楽で、女声の低い音域。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「思わず息をのんだ」とあるが、このときの心情として適当なものを選びなさい。

ア ためらい　イ 驚き（おどろ）　ウ 納得（なっとく）

〔　　〕

(2) ——線②「目と鼻のさき」の意味を選びなさい。

ア 距離（きょり）が極め（きわ）て近いこと。

イ 見通しが立つこと。

ウ 非常に賢い（かしこ）こと。

〔　　〕

(3) ——線③「まごついた」とあるが、「まごつく」の意味を選びなさい。

ア 決心がつかずにためらう。躊躇（ちゅうちょ）する。

イ お礼の気持ちを示そうとする。感謝する。

ウ どうしていいかわからずうろたえる。当惑（とうわく）する。

〔　　〕

(4) ——線④「あんがいにも、すらりと返事がかえってきた」とあるが、すらりと返事がかえってきたことをなぜ「あんがいにも（案外にも）」と思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア くだもの屋のおばさんが、自分のコンクール課題曲を知っていたから。

イ 毎晩くだもの屋のあかりがともっていたのは、夜道を心配してのことだったから。

ウ 事情を説明せずにお礼を言ったので、話が通じないだろうと思っていたから。

〔　　〕

(5) ——線⑤「この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは、当然だったと思う」のはなぜか。最も適当なものを選びなさい。

ア あかりは、自分を気づかってつけられていたものだったから。

イ 夜道でも、あかりのおかげで安心して帰ることができたから。

ウ 入院している友だちに、みやげ話ができたと思ったから。

〔　　〕

おとうと（1）

（小学五年生の「少年」には、小学校に入学したばかりの弟・アツシがいます。アツシは目の手術を受けるために入院する予定です。入院の前日の日曜日、「少年」はアツシから「海に行きたい」と言われました。）

【バスを乗り継いでも一時間以上かかるので、海までは行けない。そのかわり、海を見られる場所に連れて行くことにした。商工会館の屋上からだと、街並みの先のほうに、海が見える――かもしれない。】

「でも、わかんないぞ、見えないかもしれないぞ、それでもいいよな、文句言うなよ」

出がけに一度、信号待ちのときにもう一度、①念を押した。自信はない。商工会館は山の中腹にあるので見晴らしはいいはずだが、海まで見えるかどうかは確かめたことがないし、だいいち屋上に上ったことだってないし、今日は曇り空で、少し霞んでもいて、アツシの目で海と空を見分けられるのか、わからない。

信号が青になる。少年はハンドルを強く握り直し、ペダルを踏み込んで、言った。

「もしも海が見えなくても泣いたりするなよ。泣いたら置いて帰るからな」

泣かないって、と笑うだろうと思っていたのに、アツシは「うん……」と低い声で言った。

「おっきな声で返事しろよ」

「……はい」

今度は、高いけれどか細い声になった。泣きだしそうな声でもあった。少年はもうなにも言わない。黙ってペダルをぐいぐいと踏み込み、サドルからお尻も浮かせて、自転車のスピードを上げていく。

アツシがメガネをかけるようになったのは、幼稚園に入る前だった。健康診断で視力が悪いことがわかり、病院で検査を受けて、メガネをつくった。ほんとうはその時点で手術も勧められていたのだと、あとになって――両親が手術を決断してから、聞いた。

ずっと足手まといだった。少年が団地の友だちと遊ぶとき、アツシは「ぼくも、ぼくも」と仲間に入れてほしがった。でも、仲間に入ってもいつも「おみそ」扱いだった。歳が四つも下だし、すぐにけつまずいて転んでしまうし、ボールの転がる方向や距離がうまくつかめないので、サッカーやソフトボールの球拾いさえまともにできない。

②そんなアツシを見るたびに、いらいらした。友だちがメガネをからかったり、目の悪さのせいでいじめたりしたことはなかったが、気をつかわれているのがわかるから、嫌だった。アツシと一緒にいると、なんだか自分まで「弱いほう」になってしまうようで、まだ遊びたがっているアツシを無理やり帰らせて、泣かせてしまったこともある。

かわいそうなことをした。いまは思う。いまだから思う。もっとたくさん遊んでやればよかった。キャッチボールの相手をせがまれたとき、どうせアッくんには無理だよ、と断るのではなく、たとえボールを後ろにそらしてばかりでも付き合ってやればよかった。

（重松清『小学五年生』文藝春秋　所収「おとうと」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 【　】の箇所について、正しく述べたものを選びなさい。

ア 「少年」の視点から、状況や心情が語られている。

イ アツシの視点から、状況や心情が語られている。

ウ 第三者の視点から、登場人物を客観的に語っている。

〔　　　〕

(2) 本文中では、過去を回想している箇所がある。回想が始まる箇所の最初の五字を書きぬきなさい。

□□□□□

(3) ――線①「念を押した」とあるが、「念を押す」の意味を選びなさい。

ア 願いがかなうように、必死でいのる。

イ 思い通りにならず、気落ちする。

ウ 重ねて注意し、相手に十分に確認する。

〔　　　〕

(4) ――線②「そんなアツシを見るたびに、いらいらした」とあるが、どのようなことに対していらいらしたのだと考えられるか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 足手まといになってしまう弟のために、友だちから仲間に入れてもらえないこと。

イ 友だちと遊ぼうとしても、目が悪く、うまく遊ぶことができない弟のことで気をつかわれること。

ウ 弟が友だちからからかわれたりしないように、いつも気を張っていないといけないこと。

〔　　　〕

おとうと (2)

（小学五年生の「少年」は、「海に行きたい」と言う弟のアツシを自転車の後ろに乗せ、海が見える商工会館の屋上を目指しています。アツシは明日、目の手術を受けるため入院する予定です。）

手術が成功すれば、視力はだいぶ上がる。いまほど分厚いメガネをかけずにすむし、ものがゆがんで見えるのも治る。でも、もしも失敗してしまうと――父も母も、そのことはなにも話さない。だから、少年も訊けない。

「アッくん」①前を向いたまま、声をかけた。「なんで海に行きたいんだよ」

「なんとなく……」

「だって、おまえ、海なんかべつに好きじゃないだろ」

「でも……わかんないけど、なんとなく……」

「明日入院するから？」

少年の声は、かすかに震えた。アツシの返事がなかったので、ハンドルを強く握りしめた。胸がつっかえて、どきどきする。胸の中には、まだ訊きたいことが残っている。

目の手術をするから？　手術に失敗するかもしれないから？　もしも失敗したら目がどうなるのか、アッくん、知ってるの――？

道は上り坂になった。二人乗りで漕ぐのはもう無理だ。少年は②胸をつっかえさせたまま、自転車から降りた。アツシも荷台から降りようとしたが、「いいよ、おまえは乗ってて」と振り向かずに言って、自転車を押していく。

（中略）

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。汗が目に滲みる。拭き取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。汗と涙がにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

日曜日の商工会館は玄関に鍵が掛かっていた。少年はあきらめきれずに玄関のガラスドアを押したり引いたりしたが、アツシは③さばさばした様子で「おにいちゃんと二人乗りしたから、面白かったから、もういいよ」と笑った。

「だめだよ、そんなの」

開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。たまにはそういうことで「もしも」を使いたかった。

「勝手に入ったら怒られちゃうよ……」と逃げ腰のアツシの手を引いて建物の裏に回ると、非常階段があった。落ちないように柵のついた、らせん階段だった。

よし、と少年はうなずいた。方角も海のほうを向いている。いいぞ、と頬がゆるんだ。「もしも」が当たった。めったに当たらないから「もしも」なのだから、もう一つの「もしも」は、これでもうはずれる

――と、いい。

（重松清『小学五年生』文藝春秋　所収「おとうと」による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「前を向いたまま、声をかけた」とあるが、このときの「少年」の様子として最も適当なものを選びなさい。

ア　手術がうまくいくかどうかが不安で、悪い想像を振り払うために手術に関係のない話をしようと思っている。

イ　これまで海が好きでもなかったアツシが海に行きたいというので、その真意がわからず頭を悩ませている。

ウ　アツシが海に行きたいというのは、手術に失敗するかもしれないと思ってのことではないかと気にかかっている。

〔　　〕

(2) ——線②「胸をつっかえさせたまま」とあるが、これについて正しく述べたものを選びなさい。

ア　道が上り坂になり、これ以上進むのは難しいのではないかという不安に襲われている。

イ　アツシが、手術が失敗したときのことを考えているのではないかと気になり、胸が苦しくなっている。

ウ　少年の問いかけにアツシが答えなかったことで、アツシが不満を抱いていることを確信している。

〔　　〕

(3) ——線③「さばさばした様子」とあるが、「さばさば」とはどういう意味か。適当なものを選びなさい。

ア　やりようがなく、無念な様子。

イ　退屈し、興味を失っている様子。

ウ　何かをあきらめきれず、心残りな様子。

エ　執着がなく、ものごとにこだわらない様子。

〔　　〕

おとうと（3）

（小学五年生の「少年」は、目の手術を控えている弟のアツシに海を見せるため、山の中腹にある商工会館にやってきました。）

階段を上った。転んだときのためにアツシの後ろに回った少年は、①「手すり、ちゃんと持ってるか」と何度も声をかけた。階段の段差はけっこうあって、まだ小さなアツシは、一段ずつ踏ん張らないと上れない。でも、それがかえってよかったのか、アツシは一度もけつまずくことなく、よいしょ、よいしょ、と上っていった。

三階から四階に上る途中で、まわりの建物の高さを超えて、視界が開けた。

「アッくん、海、あっちだから」

少年が指差す方向に目をやったアツシは、途方に暮れた顔で「どこぉ……？」と訊いた。

「もっと先だよ、ずーっと先のほう」

見えるのだ。ビルや家の建ち並ぶ街を越えたずっと先に、空よりも微妙にまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江が小さく見える。間違いない。あれは海だ。

檻の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに、アツシはしばらく黙って柵に顔を張りつかせた。

カウントダウンは十。少年はそう決めた。十数えても海を見つけられなかったら、もっと上まで行けばいい。②このビルは六階建てだから、どこかで海を見つけられる。絶対にだいじょうぶ。自分に言い聞かせて、いーち、にーい、と数えはじめて……なな、で終わった。

「わかった！　見えた！」

アツシの歓声が、鉄の階段にキンと響いた。

二人はしばらく黙って、街と、空と、海を眺めた。ときどき顔を見合わせて、アツシはうれしそうに、少年は照れくさそうに、笑った。アツシのほうが階段の上の段にいるので二人の顔の高さはほとんど同じで、正面から見るときにはアツシのメガネの渦もそれほど目立たないんだな、と少年は気づいた。

「夏休みになったら、ほんとに海に行こう」

少年が言うと、アツシは「泳げる？」と訊いた。

「泳げるし、お母さんに水中メガネ買ってもらって、もぐって遊ぼう」

「お魚、見える？」

③少年は息をすうっと吸い込んで、「アッくんの目が良くなったら、見えるよ」と言った。「だから見えるんだよ、絶対、百パーセント」

「……ほんと？」

「信じろよ、ばーか。文句言ってたら置いて帰るぞ」

胸につっかえていたものが、とれた。アツシもなんだかほっとしたように、えへへっ、と笑った。

（重松清『小学五年生』文藝春秋　所収「おとうと」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

⑴ ——線①「『手すり、ちゃんと持ってるか』と何度も声をかけた」とあるが、このときの「少年」の様子として、適当なものを選びなさい。

ア まだ小さくて聞き分けがないアツシにいらだち、口うるさく注意している。

イ 目が良くないアツシが階段で転ばないよう気にかけ、支えようとしている。

ウ 早く階段を上ってアツシに海を見せたいと思い、何度もアツシをせかしている。

〔　　〕

⑵ ——線②「このビルは六階建てだから、どこかで海を見つけられる」とあるが、このときの「少年」の様子として最も適当なものを選びなさい。

ア アツシがなかなか海を見つけられず、焦(あせ)りを感じている。

イ いつかは海が見えるはずなので、気楽にかまえている。

ウ 必ず海が見つけられると、願うように信じている。

〔　　〕

⑶ ——線③「少年は息をすうっと吸い込んで」とあるが、このときの「少年」の様子として、適当なものを選びなさい。

ア 思いがけない問いかけから自分の心配が杞憂(きゆう)だったことに気づき、拍子抜け(ひょうしぬけ)している。

イ アツシの目が良くなることを信じ、アツシにもそう信じてほしいと強く感じている。

ウ 何とか本心をとりつくろい、アツシに不安を感じさせないように接している。

〔　　〕

少年の日の思い出（1）

（ある日の夕暮れ、「私」は、書斎（しょさい）を訪（おとず）れていた友人に、チョウの収集を見せました。）

【友人は一つのチョウを、ピンのついたまま、箱の中から用心ぶかく取りだし、羽の裏がわを見た。

「妙（みょう）なものだ。チョウチョを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそそられるものはない。ぼくは小さい少年のころ熱情的な収集家だったものだ」と彼（かれ）は言った。

　そしてチョウチョをまたもとの場所に刺（さ）し、箱のふたを閉じて、「もう、結構」と言った。

　その思い出が不愉快（ふゆかい）ででもあるかのように、彼は口ばやにそう言った。その直後、私が箱をしまってもどって来ると、彼は微笑（びしょう）して、巻きたばこを私に求めた。

「悪く思わないでくれたまえ」と、それから彼は言った。「君の収集をよく見なかったけれど。ぼくも子どものとき、むろん、収集していたのだが、残念ながら、自分でその思い出をけがしてしまった。実際話すのも恥（は）ずかしいことだが、ひとつ聞いてもらおう」

　彼はランプの※ほやの上でたばこに火をつけ、緑色のかさをランプにのせた。すると、私たちの顔は、快いうすくらがりのなかに沈（しず）んだ。彼が開いた窓のふちにこしかけると、彼の姿は、外のやみからほとんど見わけがつかなかった。私は葉巻きを吸った。外では、カエルが遠くからかん高く、やみ一面に鳴いていた。友人はそのあいだに次のように語った。】

①「ぼくは、八つか九つのとき、チョウチョ集めを始めた。はじめは特別熱心でもなく、ただはやりだったので、やっていたまでだった。ところが、十歳（さい）ぐらいになった二度めの夏には、ぼくは全くこの遊戯（ゆうぎ）のとりこになり、ひどく心を打ち込（こ）んでしまい、そのためほかのことはすっかりすっぽかしてしまったので、みんなは何度もぼくにそれをやめさせなければなるまい、と考えたほどだった。②チョウをとりに出かけると、学校の時間だろうが、お昼ご飯だろうが、もう塔（とう）の時計が鳴るのなんか、耳にはいらなかった。休暇（きゅうか）になると、パンを一きれ※胴（どう）乱（らん）に入れて、朝早くから夜まで、食事になんか帰らないで、駆（か）け歩くことがたびたびあった。

　今でも美しいチョウチョを見ると、折り折りあの熱情が身にしみて感じられる。そういう場合、ぼくはしばしのあいだ、子どもだけが感じることのできる、あのなんともいえぬ、むさぼるような、うっとりした感じにおそわれる。少年のころ、はじめてキアゲハにしのびよった、あのとき味わった気持ちだ。

（高橋健二訳『ヘッセ全集2　車輪の下』新潮社　所収「少年の日の思い出」による）

※ほや…ランプなどの火を覆うガラス製の筒。　胴乱…採集したものを入れる容器。

語り手

物語や小説がある人物の視点から語られているとき、その人物を**語り手**という。『少年の日の思い出』では、前半（現在）と後半（回想）で語り手が変化している。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 【 】の部分の語り手は誰(だれ)か。適当なものを選びなさい。

ア 友人　イ 子ども　ウ 彼　エ 私

〔　　〕

(2) ――線①「ぼく」とあるが、【 】の部分で、「ぼく」と同じ人物を指す言葉はどれか。適当なものを全て選びなさい。

ア 友人　イ 彼　ウ 私

〔　　〕

(3) ――線②「チョウをとりに出かけると……耳にはいらなかった」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 他のことが気にならなくなるほど、チョウを採ることに夢中になっていたから。

イ みんながチョウ集めをやめさせようとするので、耳をかさないようにしていたから。

ウ 休暇なので、学校や昼食、塔の時計の音などを気にすることなくチョウ集めができたから。

〔　　〕

(4) 「ぼく」はチョウの収集の思い出についてどのように語っているか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「ぼく」は少年のころ熱情的なチョウの収集家で、今でもチョウを見ると幼年時代のことを思い出す。

イ 「ぼく」はチョウの収集に熱心だったが、みんなからその思い出をけがされるようなことを体験した。

ウ 「ぼく」にとってチョウの収集の思い出は不愉快なもので、今では当時の熱情は感じない。

〔　　〕

少年の日の思い出 (2)

（「ぼく」は少年のころ、チョウの収集をしていました。）

ぼくの両親はりっぱな道具なんかくれなかったから、ぼくは自分の収集を、古いつぶれたボール紙の箱にしまっておかねばならなかった。びんのせんから切りぬいた丸い※キルクを底にはりつけ、ピンをそれにとめた。こうした箱のつぶれた壁のあいだに、ぼくは自分の宝物をしまっていた。初めのうち、ぼくは自分の収集を喜んでたびたび仲間に見せたが、ほかのものはガラスのふたのある木箱や、緑色のガーゼをはった飼育箱や、その他ぜいたくなものを持っていたので、自分の幼稚な設備を自慢することなんかできなかった。それどころか、重大で、評判になるような発見物や獲物があっても、ないしょにし、自分の妹たちだけに見せる習慣になった。あるとき、ぼくは、ぼくらのところでは珍しい青い※コムラサキを捕えた。それを※展翅し、乾いたときに、得意のあまり、せめて①隣の子どもにだけは見せよう、という気になった。それは、中庭の向うに住んでいる先生のむすこだった。この少年は、非のうちどころがないという悪徳を持っていた。それは子どもとしては二倍も気味悪い性質だった。彼の収集は小さく貧弱だったが、小ぎれいなのと、手入れの正確な点で一つの宝石のようなものになっていた。彼はそのうえ、いたんだりこわれたりしたチョウの羽を、※にかわでつぎあわすという、非常にむずかしい珍しい技術を心得ていた。とにかく、②あらゆる点で、模範少年だった。そのため、ぼくはねたみ、嘆賞しながら彼をにくんでいた。

この少年にコムラサキを見せた。彼は専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十※ペニヒぐらいの現金の値打ちはある、と値ぶみした。しかしそれから、彼はなんくせをつけ始め、展翅の仕方が悪いとか、右の触角が曲っているとか、左の触角が伸びているとか言い、そのうえ、足が二本かけているという、もっともな欠陥を発見した。ぼくはその欠点をたいしたものとは考えなかったが、こっぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それでぼくは③二度と彼に獲物を見せなかった。

（高橋健二訳『ヘッセ全集2 車輪の下』新潮社 所収
「少年の日の思い出」による）

※キルク…コルク。　コムラサキ…チョウの一種。
展翅…標本にするために虫の羽を広げて固定すること。
にかわ…ゼラチンなどからなる動物性の物質で、接着剤などに用いられる。
ペニヒ…かつてのドイツの通貨単位。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「隣の子ども」に対して、「ぼく」はどのような感情をもっていたか。適当なものを選びなさい。

ア　自分よりもチョウの収集が小さくて貧弱なので、優越感を抱いていた。
イ　感心しつつも、欠点がない点をねたましく思い、好きになれないでいた。
ウ　自分にはない優れた技術をもっている点を尊敬し、「彼」を慕っていた。
エ　収集の手入れが正確で、「彼」のようになりたいとただただ憧れていた。

〔　　〕

(2) ――線②「あらゆる点で、模範少年」を言いかえた言葉となるように、解答欄に当てはまる言葉を本文中から十字で書きぬきなさい。

□□□□□□□□□□少年

(3) ――線③「二度と彼に獲物を見せなかった」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア　「彼」が珍しいチョウであることを認めたことに満足し、それ以上「彼」にチョウを見せる必要がなかったから。
イ　「彼」がたいしたことのない欠点を指摘したことで、「彼」のチョウに対する鑑定が疑わしいように思えてきたから。
ウ　「彼」の批評のせいで珍しいチョウをとらえた喜びがうせてしまい、「彼」にチョウを見せる気にならなくなったから。

〔　　〕

少年の日の思い出 (3)

（二年たち「ぼく」が大きな少年になったころ、「ぼく」は、隣の子ども・エーミールが、※ヤママユガを手に入れたといううわさを聞きました。「ぼく」は自分の本で、このチョウのさし絵を何度も眺めていました。）

エーミールがこの不思議なチョウを持っているということを聞くと、ぼくはすっかり興奮してしまって、それが見られるときの来るのが待ちきれなくなった。食後、外出ができるようになると、すぐぼくは中庭を越えて、隣の家の四階にのぼっていった。そこに例の先生のむすこは、小さいながら自分だけのへやを持っていた。それがぼくにはどのくらいうらやましかったかわからない。途中でぼくは、だれにも会わなかった。上にたどりついて、へやの戸をノックしたが、返事がなかった。エーミールはいなかったのだ。ドアのハンドルをまわしてみると、入口はあいていることがあった。

せめて例のチョウを見たいと、ぼくは中にはいった。そしてすぐに、エーミールが、収集をしまっている二つの大きな箱を手に取った。どちらの箱にも見つからなかったが、やがて、そのチョウはまだ展翅板にのっているかもしれないと思いついた。はたしてそこにあった。トビ色のビロードの羽を細長い紙きれにはりのばされて、ヤママユガは展翅板にとめられていた。ぼくはその上にかがんで、毛のはえた赤茶色の触角や、優雅で、はてしなく微妙な色をした羽のふちや、下羽の内がわのふちにある細い羊毛のような毛などを残らず、間近からながめた。あいにくあの有名な斑点だけは見られなかった。細長い紙きれの下になっていたのだ。

胸をどきどきさせながら、ぼくは①誘惑にまけて、紙きれを取りのけ、ピンをぬいた。すると、②四つの大きな不思議な斑点が、さし絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、ぼくを見つめた。それを見ると、この宝を手にいれたいという逆らいがたい欲望を感じて、ぼくは生まれてはじめて盗みをおかした。ぼくは針をそっと引っぱった。チョウはもう乾いていたので、形はくずれなかった。③ぼくはそれを手のひらにのせて、エーミールのへやから持ちだした。そのときさしずめぼくは、大きな満足感のほか何も感じていなかった。

チョウを右手にかくして、ぼくは階段をおりた。そのときだ。④下のほうからだれかぼくの方にあがってくるのが聞えた。その瞬間にぼくの良心は目ざめた。ぼくは突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。同時に見つかりはしないか、という恐ろしい不安におそわれて、ぼくは本能的に、獲物をかくしていた手を、上着のポケットに突っこんだ。ゆっくりとぼくは歩きつづけたが、大それた恥ずべきことをしたという、つめたい気持ちにふるえていた。

（高橋健二訳『ヘッセ全集2 車輪の下』新潮社 所収
「少年の日の思い出」による）

※ヤママユガ…ここではクジャクヤママユのこととされる。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「誘惑」とあるが、この内容を正しく述べたものを選びなさい。

ア 誰もいないエーミールの部屋に、勝手にはいりたい。
イ 展翅のための紙切れやピンを勝手に取り、斑点を見たい。
ウ ヤママユガを勝手に持ち帰り、自分のものにしたい。

［　　］

(2) ――線②「四つの大きな……ぼくを見つめた」とあるが、ここで用いられている表現技法を選びなさい。

ア 体言止め　**イ** 倒置　**ウ** 直喩　**エ** 擬人法

［　　］

(3) ――線③「ぼくはそれを……へやから持ちだした」とあるが、このときの「ぼく」の心情として適当なものを選びなさい。

ア エーミールに対するうらやましさ。
イ ヤママユガを手に入れたことへの満足感。
ウ 恥ずべきことをしたことへのつめたい気持ち。

［　　］

(4) ――線④「下のほうから……聞えた」とあるが、この後の「ぼく」の心情の変化を説明した文となるように、解答欄に当てはまる言葉を本文中から指定の字数に合うように探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も字数に含む。

（**A** 十五字）という事実に気づき、誰かに（**B** 十九字）を感じた。

A ［　　　］～［　　　］
B ［　　　］～［　　　］

少年の日の思い出 (4)

(「ぼく」は、エーミールのもつヤママユガを盗んでしまいました。)

すぐにぼくは、このチョウを持っていることはできない、持っていてはならない、元に返して、できるなら①何事もなかったようにしておかねばならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つかりはしないか、ということを極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆けあがり、一分の後にはまたエーミールのへやの中に立っていた。ぼくはポケットから手をだし、チョウを机の上においた。それをよく見ないうちに、ぼくはもうどんな不幸が起ったかということを知った。ぼくは泣かんばかりだった。ヤママユガはつぶれてしまったのだ。前羽が一つと触角が一本なくなっていた。ちぎれた羽を用心ぶかくポケットから引き出そうとすると、羽はばらばらになっていて、つくろうことなんか、もう思いもよらなかった。

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった美しい珍しいチョウを見ているほうが、ぼくの心を苦しめた。②微妙なトビ色がかった羽の粉が、自分の指にくっついているのを、ぼくは見た。また、ばらばらになった羽がそこにころがっているのを見た。それをすっかり元どおりにすることができたら、ぼくはどんな持ち物でも楽しみでも、よろこんで投げ出したろう。

悲しい気持ちでぼくは家に帰り、夕方までうちの小さい庭の中にこしかけていたが、ついにいっさいを母にうちあける勇気を起した。母は驚き悲しんだが、③すでにこの告白が、どんな罰をしのぶことより、ぼくにとって、つらいことだったということを感じたらしかった。

『お前は、エーミールのところに、行かねばなりません』と母はきっぱりと言った。『そして、自分でそう言わなくてはなりません。それよりほかに、どうしようもありません。お前の持っている物のうちから、どれかを埋めあわせによりぬいてもらうように、申し出るのです。そして許してもらうように頼まねばなりません』

あの模範少年でなくて、ほかの友だちだったら、すぐにそうする気になれただろう。彼がぼくの言うことをわかってくれないし、おそらく全然信じようともしないだろうということを、ぼくは前もって、はっきり感じていた。

(高橋健二訳『ヘッセ全集2 車輪の下』新潮社 所収「少年の日の思い出」による)

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「何事もなかったようにしておかねばならない」とあるが、何事もないようにするとはここではどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア ヤママユガを元の場所に戻（もど）し、盗んだ事実がなかったかのようにすること。

イ ヤママユガを隠（かく）し、自分が手に入れたことを気づかれないようにすること。

ウ ヤママユガを盗んでしまったことを謝罪し、エーミールと元の関係に戻ること。

〔　　〕

(2) ――線②「微妙なトビ色……ぼくは見た」とあるが、このときの「ぼく」の様子として適当なものを選びなさい。

ア ヤママユガの微妙なトビ色の美しさに、改めて見とれている。

イ ヤママユガをどうやって修復するか、考えをめぐらせている。

ウ ヤママユガをつぶしてしまった現実に、心を苦しめられている。

〔　　〕

(3) ――線③「すでにこの告白が……つらいことだった」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア エーミールにきらわれてしまうこと自体が、どんな罰よりも「ぼく」にとってはつらいことだったということ。

イ 母に自分がしたことを打ち明けること自体が、どんな罰に耐（た）えるよりもつらいことだったということ。

ウ ヤママユガをつぶしてしまったこと自体が、どんな罰を受けるよりもつらいことだったということ。

〔　　〕

少年の日の思い出 (5)

（ヤママユガをつぶしてしまった「ぼく」は、母に促され、エーミールのもとを訪れました。）

彼は出てきて、すぐに、だれかがヤママユガを台無しにしてしまった。悪いやつがやったのか、あるいはネコがやったのかわからない、と語った。ぼくはそのチョウを見せてくれと頼んだ。ふたりは上にあがっていった。彼はロウソクをつけた。ぼくは台無しになったチョウが展翅板の上にのっているのを見た。エーミールがそれをつくろうために努力したあとが認められた。こわれた羽は丹念にひろげられ、ぬれた吸取り紙の上におかれてあった。しかしそれはなおすよしもなかった。触角もやはりなくなっていた。そこで、それはぼくがやったのだと言い、詳しく話し、説明しようとこころみた。

すると、エーミールは激したり、ぼくをどなりつけたりなどはしないで、低く、ちえっと舌を鳴らし、しばらくじっとぼくを見つめていたが、それから『そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな』と言った。

ぼくは彼にぼくのおもちゃをみんなやると言った。それでも彼は冷淡にかまえ、依然ぼくをただけいべつ的に見つめていたので、ぼくは自分のチョウの収集を全部やると言った。しかし彼は、『結構だよ。ぼくは君の集めたやつはもう知っている。そのうえ、きょうまた、君がチョウをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができたさ』と言った。

その瞬間、ぼくはすんでのところであいつののどぶえに飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。ぼくは悪漢だということにきまってしまい、エーミールはまるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義をたてに、あなどるように、ぼくの前に立っていた。彼はののしりさえしなかった。ただぼくをながめて、けいべつしていた。

そのときはじめてぼくは、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。ぼくは立ち去った。母が根ほり葉ほり聞こうとしないで、ぼくにキスだけして、かまわずにおいてくれたことをうれしく思った。ぼくは、床にはいり、と言われた。ぼくにとってはもう遅い時刻だった。だが、その前にぼくは、そっと食堂に行って、大きなトビ色の厚紙の箱を取って来、それを寝台の上にのせ、やみの中で開いた。そしてチョウチョを一つ一つ取り出し、指でこなごなにおしつぶしてしまった」

（高橋健二訳『ヘッセ全集2 車輪の下』新潮社 所収
「少年の日の思い出」による）

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線部「もうどうにもしようがなかった」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア エーミールのヤママユガを台無しにしてしまい、直しようがなかったということ。

イ エーミールにヤママユガを盗んだことが知られてしまい、隠しようがなかったということ。

ウ エーミールにチョウの収集の受け取りを断られてしまい、うめ合わせのしようがなかったということ。

エ エーミールが正義で自分が悪だということになってしまい、これをくつがえしようがなかったということ。

［　　］

(2) エーミールへの謝罪を通じて、「ぼく」はどういうことを理解したか。解答欄に合うように、本文中から二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□ ～ □□□ ということ。

---

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア エーミールは「ぼく」がチョウを台無しにしたのではないかと疑い、根ほり葉ほり尋ねた。

イ エーミールは「ぼく」がチョウを台無しにしてしまったことを知り、強くののしった。

ウ 「ぼく」から見たエーミールの態度は冷淡なもので、「ぼく」をただただけいべつするものだった。

［　　］

卒業メニュー (1)

(中学一年生の「あたし」(梢)は、三月の終わりに転校を控えています。しかし、「あたし」は転校することを友達に言えずにいました。)

店を出ながら、あたしは美貴に声をかけた。

「待たせてごめんね。さっきからなに見てたの?」

「桜のつぼみがあったから。この街に来て、もうすぐ一年になるんだな、と思って」

美貴がこっちを振りかえってこたえた。

「ああ、そういえば去年のこの時期だっけ、美貴が引っ越してきたのって」

もっと前から友達だったような気がしてた、とあたしは思った。

美貴と仲よくなったのは、もともと美貴のおばあちゃんから、友達になってやってくれ、と頼まれたのがきっかけだった。最初のうちは、気取ったところが①鼻についたり、絶交寸前までいったりしたこともあったけど、いまではあたしのいちばんの親友だ。性格も趣味も全然違うのに、なんでこんなにいっしょにいて居心地がいいのか、自分でもよくわからないけど。

桜のつぼみは、もうピンクに色づいているやつもちらほらあった。最近やたらとあったかいから、あたしが引っ越す前に咲きはじめるかもしれない。

行きましょう、と声をかけられて、あたしは美貴とならんで歩きだした。そのあとでまた桜のつぼみを振りかえって、ぼんやりと考える。

来年のいまごろは、あたしも引っ越した先の街で、②美貴と同じようなことを考えていたりするんだろうか。そのときあたしは、まだ美貴やほかのみんなと、いまのような友達のままでいられるだろうか。

美貴のすました横顔をちらっと見てから、あたしはそれとなく聞いてみた。

③「あのさ、前の学校の友達からは、まだ結構連絡があったりするの?」

「もうほとんどないわね。まあ、しかたがないわ。いくら仲がよくたって、離ればなれになったら、自然とそうなるものでしょう?」

他人事のように素っ気ない言いかただった。はっと息をのんでしまうと、④美貴はあたしが美貴のために心を痛めていると思ったんだろう。あたしのことを気遣うように、明るくほほえんで言った。

「残念だけど、それほど寂しくはないわ。梢や桃たちのおかげでね」

それから美貴は、ちょっとだけしんみりした声になって、「二年生になっても、またみんないっしょのクラスになれるといいわね」と続けた。⑤あたしはまたびくっとしてしまってから、自然な口調を装ってこたえた。

「みんなって、桃や朋華や沢ちゃんも? いやあ、さすがに全員いっしょは無理があるんじゃない?」

「いいでしょう、そうなるといいなって思っているだけなら」

美貴はふざけてあたしをにらんでから、にこっと笑ってみせた。

(如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版 所収「卒業メニュー」による)

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「鼻についたり」とあるが、「鼻につく」の意味として適当なものを選びなさい。

ア 得意なさま。自慢げな様子。
イ 嫌味に感じられる。
ウ 相手を出し抜いて、あっと言わせる。

〔　　〕

(2) ――線②「美貴と同じようなこと」とは、どのような内容を指しているか。解答欄に合うように本文中から十九字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も一字に含む。

□□□～□□□ということ。

(3) ――線③「あのさ、……するの?」とあるが、「あたし」はなぜこのように聞いてみたと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア 美貴が以前どのような人と友達だったのか知りたかったから。
イ 自分の気も知らない美貴のすました態度が不満だったから。
ウ 転校しても友達の関係が続くものかどうかが気になったから。

〔　　〕

(4) ――線④「美貴はあたしが美貴のために心を痛めていると思ったんだろう」とあるが、美貴は「あたし」が何に心を痛めていると思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 美貴が以前の友達と疎遠になり、寂しい思いをしていること。
イ 美貴が他人事のような素っ気ない言い方をしたこと。
ウ 美貴が「あたし」の思いを気にかけないような発言をしたこと。

〔　　〕

(5) ――線⑤「あたしはまた……こたえた」とあるが、このときの「あたし」はどのような心情だと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア みんながまた再び同じクラスになるという無理がある願いを口にする美貴に、不信感をいだく気持ち。
イ 自分が転校してしまうことを知らない美貴にまた同じクラスになりたいと言われ、気まずい気持ち。
ウ 前の学校の友達と離ればなれになってしまったことを美貴が未だに悲しんでいる様子に、驚く気持ち。

〔　　〕

卒業メニュー (2)

（ある日の昼休み、「あたし」は、事情を知る同級生の足立と転校について話しているのを友達の桃に聞かれてしまいました。）

美貴がうちにやってきたのは、夕飯の支度を始めてすぐだった。

「どうしてずっと隠してたのよ、転校するなんて！」

足立の嘘で桃を完全にごまかせたとは思えなかったから、転校がばれることはある程度覚悟していた。だけど、もしばれて責められるとしても、明日の学校でだろうと予想していたから、いきなり美貴が訪ねてきたときはうろたえてしまった。

美貴は家に帰ったあと、桃からかかってきた電話で、あたしと足立の会話について聞いたらしい。それからすぐにおばあちゃんを問いつめて、あたしの転校を知ったのだという。美貴のおばあちゃんは、あたしのおばあちゃんと仲がよくて、引っ越しのことも最初から知っていたのだ。あたしから伝えるまで、美貴には内緒にしておいてほしい、とお願いしていたはずだけど、たぶん美貴は強引に聞きだしたんだろう。

玄関を開けると同時に、美貴の怒りの形相が目に飛びこんできた時点で、あたしは散々怒鳴られることを覚悟した。ところが美貴は最初に怒鳴ったきり、そのあとはずっと静かな口調で、あたしを責めるような言葉も口にしなかった。一生懸命気持ちをおさえて、冷静に話そうとしてくれているのがわかった。ほっとしていいような場面ではないのに、あたしはつい気が緩んでほほえんでしまった。

「もっと怒られるかと思ってた」

「怒ってるわよ」

美貴がキッとあたしをにらんだ。けれどすぐに眼差しを弱めてうつむく。

「だけど、わたしも転校のつらさは知ってるから。それに、わたしは友達に話をしてる暇もなかったけど、もしあったとしても、きちんと伝えられたかどうかわからないし。だから、怒鳴ったりしてごめんなさい」

「いいよ、あたしが悪いんだから。話さなきゃって思ってたんだけど、ずっと伝えられなくてごめんね」

美貴があたしのつらさをわかってくれたことがうれしかった。だけどあたしの胸の中には、そのうれしさもたちまち飲みこんでしまうほどの悲しみが広がっていた。

美貴たちを悲しませたくないから、なんて嘘だ。あたしはただ、美貴たちの悲しむ顔を見たら、自分が余計に悲しくなるのがわかっていたから、それで転校のことを隠し続けてきたのだ。いまになってそのことに気がついた。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版 所収「卒業メニュー」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線部「美貴は……口にしなかった」とあるが、美貴が「あたし」を責めるようなことをしなかったのはなぜだと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア 桃からの話で転校について聞いただけであったので、真相を「あたし」からきちんと聞いて確認したいと考えたから。

イ 内緒にしていた転校のことをおばあちゃんから強引に聞きだしたので、秘密をあばいたことに申し訳なさがあったから。

ウ 美貴も転校のつらさを経験したことがあり、「あたし」が転校を伝えることができなかった気持ちも理解できたから。

［　　］

(2) 本文の内容に当てはまらないものを選びなさい。

ア 転校のことを知った美貴が家まで訪れたことに、「あたし」はうろたえてしまった。

イ 桃からの電話の後、美貴は自分のおばあちゃんを問いつめ、「あたし」が転校することを知った。

ウ 美貴が自分のつらさをわかってくれていることを知った「あたし」は、気が緩んでほほえんだ。

［　　］

(3) 「あたし」は、なぜ美貴たちに転校のことを隠していたのか。「あたし」が気づいた本当の理由がわかる一文を本文中から探し、最初の五字を答えなさい。

卒業メニュー (3)

美貴が後悔をにじませた声で言った。
「ねえ、この前は、転校したら連絡がなくなるのもしょうがないなんて言ったけど、わたしはまともに友達とお別れもできなかったし、転校の事情も特殊だったから、みんながみんな①わたしみたいになるわけじゃないわ。少なくともわたしは、梢が転校してもずっと……」
「いいよ、無理しなくって」
あたしは無意識に美貴の言葉を遮っていた。
あれ、あたし、なんでこんなことを言ってるんだろう。ここは美貴のやさしさに感謝しなくちゃいけないところなのに。
そんなふうに戸惑いながらも、あたしはさばさばした口調でさらに続けていた。
「やっぱさ、美貴が言ったとおり、しょうがないと思うんだよね。会えなくなったら友情が消えちゃうのも。だから美貴も無理しないで、あたしのことはきれいさっぱり忘れちゃって。あたしもあっちで新しい友達をつくって、楽しくやるからさ」
②笑顔で美貴に告げながら、あたしは胸の痛みに耐えていた。
そうだ、あたしは怖いんだ。美貴の言葉を信じて裏切られるのが。大事な絆がだんだんほどけていってしまうのが。いつか失われてしまうつながりなら、いっそすっぱり断ち切ってしまったほうが、きっとつらくない。
③美貴が悲しげに目を細めてあたしを見つめた。
「梢……」
「ごめん、いま夕飯の支度をしてるとこでさ。転校のことは、桃たちにもちゃんと話すから。じゃあ、また明日学校でね」

強引に会話を終わらせて、あたしは家の中に引っこんだ。
玄関を閉めると、あたしはドアに背中を預けて息をひそめた。二分くらい経ってから、ようやく美貴がうちの前を立ち去ったのがわかった。
あたしはそのあとも、しばらく玄関から動けないでいた。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版　所収「卒業メニュー」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「わたしみたいになる」とはどうなることを指しているか。適当なものを選びなさい。

ア 転校した後で、前の学校の友達と連絡もとらないようになってしまうこと。

イ 友達にきちんとしたお別れを伝えることができないまま転校してしまうこと。

ウ 相手の事情も考えずに、転校したら連絡はなくなるものだと発言してしまうこと。

〔　　〕

(2) ——線②「そうだ、あたしは怖いんだ」とあるが、「あたし」は何が怖いのか。適当なものを選びなさい。

ア 無理な言い訳を信じて、美貴の言葉が本心からのものではないことを後で思い知らされること。

イ 前の学校の友達との友情が消えてしまった後も、新しい学校で友達をつくることができないこと。

ウ 友達であり続けるというような美貴の言葉を信じ続けていても、友情がいつかは失われてしまうこと。

〔　　〕

(3) ——線③「美貴が悲しげに目を細めてあたしを見つめた」とあるが、美貴は何を悲しんでいるのか。適当なものを選びなさい。

ア 「あたし」が美貴の言葉を遮って、美貴のやさしさに感謝もせずに話をしたこと。

イ 「あたし」が、会えなくなれば友情は消えてしまうものだから、自分のことを忘れてもよいと言ったこと。

ウ 「あたし」が夕飯の支度のために転校の話を終わらせ、美貴に対して無愛想な態度を取ったこと。

〔　　〕

卒業メニュー(4)

(三学期が終わりに近づいたある日、給食に卒業生のための卒業メニューが出ました。)

いつもだったら全部おかわりするようなすばらしいメニューなのに、あたしはなかなか箸(はし)が進まなかった。卒業メニューが、お別れメニューのように思えてしまったのだ。

お別れなんてしたくない。二年後の卒業のときも、この学校で美貴(みき)たちといっしょに卒業メニューを食べていたい。そう思ったら、大好きなメニューも食べたくなくなってしまっていた。給食を食べたくないなんて、小学校入学以来はじめてのことだった。

それでものろのろと食べ進めて、最後にデザートのクレープが残った。あたしがそれに手をつけるのをためらっていると、こっちを見ていた美貴と目が合った。

①美貴はなにかを察したような顔をしていた。そんな美貴に、なんでもないよ、と伝えるようにほほえんでみせると、あたしはクレープに手を伸(の)ばそうとした。

そのとき突然(とつぜん)、美貴があたしに尋(たず)ねてきた。

「ねえ、そのクレープ、わたしにくれない?」

あたしは②目を丸くした。美貴が給食をねだることなんて、これまでなかったから。班のみんなも、えっ、というふうに美貴のことを見ていた。

べつに惜(お)しくはなかったけど、あたしはわざと意地悪に聞きかえした。

「うーん、条件にもよるかな。これの代わりに、美貴はなにをくれるわけ?」

「なにもあげない」

美貴は平然とこたえた。その返事を聞いて、あたしはきょとんとしてしまう。

「いやいや、それはないよ。こんなレアなメニューをただでもらおうなんて、いくらなんでも③虫がよすぎ……」

「ごめんなさい、言いなおすわ。いまはなにもあげない」

美貴があたしの言葉を遮(さえぎ)った。あたしが④首を傾(かし)げると、美貴はあたしの顔をまっすぐに見つめて続けた。

「でもその代わりに二年後、三年生のときの卒業メニューのデザートを、梢(こずえ)のところに持っていくわ。傷(いた)まないように冷凍(れいとう)して、週末に電車に乗って。⑤絶対に、約束する」

美貴の眼差(まなざ)しは真剣(しんけん)だった。美貴の言葉の意味に気がついて、あたしの胸は震(ふる)えた。

あたしがひそかに望んでいた約束を、美貴はいま、交(か)わしてくれようとしているのだ。あたしが転校したあとも、ずっと忘れずにいる。ずっと友達でいる。そういう約束を。

(如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版 所収「卒業メニュー」による)

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「美貴はなにかを察したような顔をしていた」とあるが、美貴は何を察したのだと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア 「あたし」が気をつかわせないよう無理にふるまっていること。
イ 「あたし」が美貴と約束を交わしたいと感じていること。
ウ 「あたし」が転校による別れのことを考え、気が沈んでいること。

(2) ――線②「目を丸くした」とあるが、「目を丸くする」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア 驚き　**イ** 感心　**ウ** 緊張　**エ** 喜び

(3) ――線③「虫がよすぎ」とあるが、「虫がいい」とはどういう意味か。適当なものを選びなさい。

ア 何となく気にくわない。
イ 機嫌が悪く、わずかなことも気に障る。
ウ 自分の都合だけを考えており、身勝手である。

(4) ――線④「首を傾げる」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア 怒りがわく。不満を抱く。
イ 期待が高まる。胸が弾む。
ウ 不思議に思う。疑問に思う。

(5) ――線⑤「絶対に、約束する」とあるが、「あたし」は美貴がどのようなことを約束しようとしていると気づいたのか。それが読み取れる一続きの二文を探し、一文目の最初の五字を答えなさい。

雪の日

今年に入って、東京では二回雪が降った。雪が降って、あっ、と思ったことが、このたびは二つほどあった。

【最初の「あっ」は、名古屋に住む友人からの電話がもたらしてくれた。

「今ね、雪が降り始めたよ」と友人は言ったのだ。「今年、はじめての雪」

寒い日だったが、東京では雪は降っていなかった。そうか、東海地方は雪か、と思いはしたが、①よそごとである。しばらく世間話をしてから、電話を切った。

ひさしぶりに街に出て映画でも見ようかと思って、そのあとすぐに家を出た。寒い。名古屋は雪、とつぶやきながら、襟をたてて歩く。見たい映画をやっていなかったので、本を二冊買って、本屋を出たところで、雪が降り始めた。

②あっ、と思った。名古屋の雪が、東京までやってきたのである。名古屋は、ここからはずいぶん遠い場所だと思っていたのに、ほんとうはそんなことはなくて、日本という土地の中の地続きで、小一時間ほどで雪を降らせる雲も張り出してくる。あたりまえのことなのだが、ふだんは忘れている。ここ、今自分のいる場所だけが世界だと思いこんでいる。それ以外の場所は、違う次元の場所のような気がしている。でも、そうじゃない。私のいるここは、私のいないあそこにつながり、さらに遠いどこかにつながっている。それを知って、あっと思ったのだ。

同じ日、すっかり夜も更けたころ、一人で外に出てみた。長靴をはいて。しんとしている。チェーンを巻いたタイヤの音が、遠くからかすかに響いてくる。電線から、ときおり雪のかたまりがぽたりと落ちる。長靴をはいた足を、まっさらの雪の中に踏み出してみた。一歩。また一歩。柔らかい雪が、小さなふきだまりのように積もっている場所がある。両足で、ぽとんと乗ってみた。

沈んだ。

あっ、とまた思った。沈むんだ。そりゃあ、沈むだろう。私の体重はけっこう重い。でも、ふだんは自分に重みがあることなんか、忘れている。アスファルトや床を踏んでいるときは、自分に重さがあって、それらのものが自分の重さを支えてくれているなんていうことは、忘れているのだ。③それを、思い出させてくれた。ひさしぶりに積もった雪が。面白かった。そして同時に、いわれのない、そこはかとない不安も、感じた。】

＊自分のいるここが遠くにつながっていることも、自分に重さがあることも、当然のことなのに、ふだんは忘れている。忘れているうかつさと、忘れていられる安らかさを、雪が教えてくれたのであった。

今年、あと何回、雪は降るだろう。

（川上弘美『ゆっくりさよならをとなえる』新潮社　所収「雪の日」による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 【 】の箇所を大きく二つのまとまりに分けたとき、二つ目のまとまりはどこから始まるか。二つ目のまとまりの最初の三字を答えなさい。

(2) ——線①「よそごとである」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア 友人が住む東海地方で雪が降っているならば、自分が住む東京でも雪が降ると予想できるということ。

イ 友人が住む東海地方で雪が降っているので、自分が住む東京がこれほど寒いのも納得できるということ。

ウ 友人が住む東海地方で雪が降っていても、自分が住む東京の天候には関わりのないことだということ。

〔　　〕

(3) ——線②「あっ、と思った」のはなぜか。解答欄に当てはまる言葉を＊の段落から十八字で探し、書きぬきなさい。

名古屋の雪が東京までやってきたことから、

というあたりまえのことに気づかされたから。

(4) ——線③「それを、思い出させてくれた。ひさしぶりに積もった雪が。」とあるが、この部分でもちいられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 体言止め　**イ** 倒置　**ウ** 対句

〔　　〕

テキスト

（筆者の子供が通う学校で、授業研究会が開かれました。筆者は研究会の受付や案内の手伝いをするため、学校を訪れました。）

子供と同時に学校へつくと、都内はもとより地方からも参観の先生方がちらほら見え、受付で配られた資料の入った大きな封筒を持って、案内図をたよりにお目当ての授業が行われる教室を探していられる。何しろ年に一度、※天下御免の研究会だ。見にこられる先生方はどんなことも見落とすまい、直接授業につながらないことも、すべて自分の学校の役に立つならばという意気込みである。ホスト役の先生方は研究内容はもとより、そのほか聞かれることは何であれ、答えに淀みはない構えで、①学校中がぴーんと張り詰めている。

その中で子供達は心得たもので、②よそゆきの顔をしながらふざけている。とはいえ、梅雨どきの蒸し暑さ、教室の中は※立錐の余地なく、後ろの席の子供は参観の先生からノートは見られるし、参考書は何を使っているかという質問にあってのぼせ上がってしまう。教室は入口の戸も窓も全部開け放たれ、丸見えの教室を廊下からのび上がって見る方もある。ひときわ高く子供達の「おはようございます」という声が響いた後は、担任の先生の声だけがいつもと変りなく流れて授業は始められた。

私に割り当てられたのは二階の階段を上がったところで、そこは高学年の教室。長い廊下から※鉤の手に折れた角の部屋からは国語の授業が聞こえていた。

「そう、この主人公はア子ちゃんですね、みんなと同じくらいかな。お父さんにねだって犬を飼ってもらう。でもその犬は野良犬でア子ちゃんになついてくれない。そんな或る日、お使いの帰りに、強そうなブルドッグと喧嘩になるんだね」

背中をぞっとするものが走り、胸がつまった。そのみすぼらしい犬はアカ、ア子ちゃんは※私の母、母の書いたものが教科書にのっていたのだ。全く不意打ちを食った思いだった。女の子の細い声が答え、代って男の子の明るい声に参観の先生方が思わず笑う。授業は上昇気流に乗った。これを書いたのはどういう気持からだろう。やっと飼ってもらった犬だのに思うようにならない。みんなだったらどうする。

小気味よいほど子供達の理解を進める質問と提案を先生はなさる。テキストは読まれ、咀嚼され、子供達の養いになっていく。教育とはこういうものか。私は嬉しくて涙がこぼれた。図らずもこの場所に居あわせて、めったにない機会に人知れずめぐりあえたのだ。

窓の外の青桐の葉は柔らかく若い色を見せ、後ろのヒマラヤ杉は暗い。校庭に雨は垂直に落ちている。終業のチャイムがなって、学校中から、ほっと吐息があふれた。びっしり並んだ人垣の中から担任の先生が出てこられた。周りの好意ある視線のなか、まだ緊張の残る顔である。

③私は胸にあふれる万感を捧げて頭を下げた。

二十年前のことである。

（青木玉『なんでもない話』講談社　所収「テキスト」による）

※天下御免…するのを公然と許されること。はばからずに振舞えること。
立錐の余地なく…錐（きり）を立てるすきまもないほど人が密集し混雑しているさま。
鉤の手…直角に曲がっていること。
私の母…随筆家、小説家の幸田文。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「学校中がぴーんと張り詰めている」とあるが、このときの学校の様子として適当なものを選びなさい。

ア 研究会に意気込んで臨む参観の先生たちに対し、学校の先生たちも真剣に対応しており、学校中が緊張した雰囲気である。

イ 参観に来た先生たちの厳しい質問に、対応する先生たちがしどろもどろになってしまい、混乱で騒然とした雰囲気である。

ウ 研究会を参観する人々で学校中が混雑する中、普段と違う校内の様子に先生たちも落ち着かず、浮ついた雰囲気である。

〔　　〕

(2) ——線②「よそゆきの顔」とはここではどのような顔を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 参観の先生たちの熱気に包まれた教室で、おどけてみせる顔。

イ 参観の先生からノートを見られ、突然の質問に困惑する顔。

ウ 参観の先生や年に一度の研究会に、普段と違って改まった顔。

〔　　〕

(3) ——線③「私は胸にあふれる万感を捧げて頭を下げた」とあるが、このときの筆者の様子として最も適当なものを選びなさい。

ア 自らの母が書いた文章が授業で扱われていることに気づき、めったにない機会だと驚いている。

イ 母の文章が子供達を育むものになっていることを喜び、授業を終えた教師に敬意を表している。

ウ 自らに割り当てられていた教室の授業が無事に終わり、終業のチャイムを聞いてほっとしている。

〔　　〕

[メモ]

［メモ］

写真　アフロ

参考文献　小学館『新編 日本古典文学全集』

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。